

牧羊者

目次	
巻頭言	1
教師養成講座 「今を生きる子どもたちと向き合う」(1)	3
カリキュラム解説	6
4月教案	7
5月教案	23
6月教案	43
牧羊ひろば	59
編集後記	60

4月

5月

6月

巻頭言

まず主の聖前に立って

金井 由信



「今わたしはあなたが神の人であることと、あなたの口にある主の言葉が真実であることを知りました。」

(列王紀上17章24節)

今から50年前、私は翌年の神学校入学に備えて教会献身の生活をしていた。ある日、当時、児童伝道の大家といわれた有名な野辺地天馬先生が直江津愛真教会へこられた。大人子供合わせて百余名の人が狭い板張りの会堂にゴザや座布団を敷き詰めてギッシリ集まった。あふれた人たちは会堂横の空地から窓越しにのぞきこんでいた。約2時間の説教に一同が感動に酔いしれた。

集会後、有志で先生を囲んでお茶の時間を持った。私は先生に質問をした。

「CS教師の一番大切なことは何ですか」

「それは、子供の前に立つ前に主の前に立つことです」と、先生は即座に答えられた。今、イエス様に出会ってきた、聖顔を拝した感動をもって子供の前に立つならば……

以来、私はどんな集会でも、会衆の前に立つ前にまず主のみに立つことを心

がけてきた。5分前に主イエス様にお出会いしてきた！その感動、その感激をもって子供の前に立つなら、必ず何かが起こるはずである。

子供は親の背中を見て育つといわれる。CSの生徒は教師の生きざまを見て成長する。

若い頃、あるCSで主の再臨について熱心に語っていた。小学上級の女の子が、突然、「先生、それ本当に信じているの」と質問してきた。「もちろん信じているよ。だから毎晩夜休む時に、いつ主がおいでになられても恥ずかしくないように机の上を整理してから寝ることにしている」と言いますと。「ふーん、じゃ私も信じるわ」と真剣に答えてきました。

万事お金の現代社会。お金さえ出せばなんでも買える時代に、信仰、希望、愛、平安、喜び、聖さというお金で買えない神の祝福によって生きる幸いを、身をもって生きざまを通し教える教師になりたいものです。愛する同僚のCS教師の皆さんの絶えざる精進を祈ります。

(明石丸教会名誉牧師)

教師養成講座

2003年 大阪教区CS教師研修会
「今を生きる子どもたちと向き合う」

講師 錦織 寛 師

(日本ホーリネス教団・東京中央教会牧師)

皆さんはこの研修会にいられて、「何を期待していますか」。「タビデの子イエスよ、私を憐れんでください」と、目の見えない人が駆け寄って来たとき、イエス様は「私に何をしてほしいのか」とおっしゃいました。皆さんは神様に何を期待しておられるでしょうか。皆さんの教会学校にはいろいろな問題があり、戦いがあると思います。今日、私は何か、教会学校が途端に盛んになるための打ち出の小槌を持って来ているわけではありません。でも、私たちが神様に期待するときには、大きなことを期待していると思うのです。あの盲人は、「先生、見えるようになることです」と言いました。誰にもできっこないそんなことを、なぜ彼は言えたのでしょうか。「イエス様ならおできになる」って信じていたからです。「神様だったらどんなことをしてくださるだろう」と大きな期待を持ちたいと思うのです。

今どきの教会学校って、子どもたちってどうなのだろう、教会でいったい何ができるのだろう、ということを読んでみたいと思っています。

十年前、『教会から子どもがいなくなる』(大橋秀夫著)という、シヨッキングな題の本が出ました。その中には、クリスチャン新聞が今から約二

十年前に行った、全国教会学校実態調査の結果やコメントが載せられています。その調査は、非常に多くの教会、特に福音的な教会の10パーセントの教会が協力しました。その中で、一教会あたりの教会学校出席者は平均29人、中学生は6人であったことが報告されました。そのときのクリスチャン新聞のタイトルが「どうするこの低落ぶり」だったといえます。二十年前、29人の教会学校生徒がいて、低落ぶりと言っていた。ああ、あの頃が懐かしい、と私たちは思うわけです。平均ですから、もつとたくさんの子どものたちが集まっている教会学校も結構あったということです。

私の属していますホーリネス教団の資料をまとめてみました。1992、2001年の10年間に、教会学校の出席者は2500人から1500人に減っています。現在、一教会あたりの教会学校の出席者は、だいたい平均しますと9人です。いろいろな教会を回ってみますと、二人、三人の子どものみを相手にしながら、五人、六人の先生たちが教会学校に来ておられる、という光景をよく目にします。

私が奉仕させていただいています東京中央教会は、東京の新宿の住宅地の中にあります。まわり

が非常に大きな障害。確かに子どもたちは結構忙しい。2つ、3つ、いろんなことをやっている子どもたちいますよね。④教会の中で騒がない。礼拝が終わった後は騒げるので楽しい。騒ぐ子どもってどうでしょうか? 収集つかなくて困る? 子どもたちがいろんな思いをそこで発散しているならそれはそれでいいのかもしれない。子どもたちは自由にしゃべる、でも、先生がきちんとその場をコントロールできた方がいいのではないか。⑤子どもは行きたくても両親が止める。家庭の理解を得にくい。日曜日に来られない子がウィークデーに来て、遊んだり、宿題をしたり、お祈りしたりしている教会が起されています。東京中央教会では、教会学校に来るのはクリスチャンホームの子どもたちを除くと、多くが家庭に問題を抱えている子どもたちです。「子どもの面倒まで見切れないけれど、教会だったらいいでしょう」ということで来られている。オウム事件以降、宗教に対しての目は厳しくなってきたいて、普通の家庭から子どもたちが教会に来にくくなっていることは確かに事実だと思います。私の教団の資料では、オウム事件の年に教会学校出席者が4%位減りました。

⑥教会学校が子どもの必要を満たしていない。子どもと一对一の対応ができていない。子どもたちが霊的な事柄に関心を持たなかったり、自分のことを反省したり、自分の心について省みる機会が減っている傾向がある。心の時代といいながら、心のことを大人も考えていないかもしれない。⑦働く婦人が増えて子どもを産まなくなった。地域に根ざさないと。ニュータウンという地域性のために、子どもがどんどん引越していく。教会員の子弟が中心になって教会学校が盛んになる傾

向があったが、今は、遠くから子どもたちが車に乗せてもらって来るので、地域に根ざしにくい。地域に根ざさないと教会学校は難しい。日本全体が、日曜日こそ親たちも休めるし子どもたちも自由にできるということで、難しさがあると思う。私の教会でも、大人の時間に子どもたちが一緒に来ます。クリスチャンホームの子どもたちと地域の子どもたちがすれ違いになっていたので、教会学校の時間を9時開始から11時開始に変えました。教会学校の先生たちには、今まで教会学校をしてきた時間に来てもらって、第一礼拝をし、それから、教会学校を大人の礼拝と同時並行するようにしました。昔はクリスチャンホームの子どもたちが教会学校に来ていて、地域の子どもたちを誘ってくるというパターンがありました。ところが、クリスチャンホームがどんどん郊外に移っていく中で、遠くにある教会に友達を誘いにくいという現状があります。私はそういう時に「せーの」と、教会員を一番近い教会に送り出す必要があると思ったりします。これは大変なことですよ。ずっと長いこと、子どもが小さいときから手を引き引き来ていた教会から離れ、教会学校のために、地元近くの教会が変わるということは難しいでしょう。⑨教会が暗い、つまらない。厳しいですねえ、何でかしら。先生が暗い? 子どもたちがじつと座ることが出来ない。話がわからない。それイコールつまらない。一般の子はどうしても離れてしまします。教会での友だち関係の影響が大きいと思います。教会の中で友だち同士励ましあって行くのも大事かもしれないね。クリスチャンホームの友だちと地域の友だちが仲良くなっていきたらいいかもしれないね。

に子どもたちが住んでいないわけではありません。教会の歴史は五十数年、礼拝出席者は70人くらい、いわゆる中堅教会の部類に入る教会です。就任最初の日曜日、教会学校出席者は四人、つまり、私の子どものしかなかった。クリスチャンホームの子どもたちはいるのです。でも、両親と一緒に大人の礼拝の時間に来るので、生徒は牧師の子どもだけ。教会学校の現状の厳しさを思わされました。韓国・台湾・インドなどのホーリネス教団との交わりもあります。大韓聖潔教団でも子どもは減っています。すばらしいプログラムを持っている韓国の教会でも、台湾の教会でも非常に大きな悩みを抱えています。アジア地区のそのような多くの教会が同じような悩みを抱えて悩んでいます。このまま子どもたちが教会から離れていくとどうなるでしょうか。なぜ子どもたちが離れているのでしょうか。どう思われますか? (以下は、会場の皆さんとの対話をまとめたものです。)

①子どもの絶対数は確かに減っている。ホーリネス教団の場合、この十年で40%減りました。同じ十年間で、小学生自体の数が20%減っています。これは文部省の資料等を見ていただければわかります。けれども子ども数の数が20%減っている時に、教会学校の数が40%減ってしまったそれはまずいわけです。②地域の催しが増えている。子どもたちにとって魅力的なプログラムができていない。プレゼントも地域のほうが高価。ちなみに、私も小さい頃から教会学校に行っていました。牧師の子どもでなかったら続かなかっただろう、と思います。③ゲームやテレビに取られている。習い事が多くて疲れきっている。中高生になるとクラブ

こういう状況にもかかわらず、神様は教会学校を何とかしたいと願っておられることを感じながら学びを続けていきたいと思っています。

色々な原因を考えましたが、これを自分で何とかできるものと、自分では何ともできないものと分けていただけたらと思います。例えば、子どもの絶対数が減っているというのはどうしようもありませんね。クリスチャンホームの家庭に子どもがたくさん生まれるように祈ることはできますが、地域活動をやめてくれというのも難しい。けれども教会学校の魅力が足りないというのは、私たちが何とかしなくてはいけないでしょうね。本当はテレビゲームより聖書のメッセージの方がずっと面白いのですが、日曜日は都合が悪い、だとしたら、来ないよりは来られる曜日に子どもを集めるのもアイデアです。家庭の理解を得ることも難しくなっているのですが、何らかの努力をしていかななくてはなりません。

何とかできることで、まず私たちがしなくてはならないことは、今来ている子供たちにとって、教会学校が魅力的になっていくことです。聖書の話というのは、はっきり言って面白いです。面白く、楽しく、きらきらと輝いている聖書の話を、私たちがつまらないものとして伝えているとしたら、それはとても残念なことです。私たちは、聖書を聖書として、魅力あるものとして伝えていく努力をしなくてはなりません。

私がキリスト教教育に興味を持った一つの大きな点は、自分が小さい頃から教会学校に行っていたあまりおもしろくなかったということ。もう一つは、自分が教会学校の教師になってみると、教師会などで教会学校の内側が見えてきたこと。教

師会で何が話されているかというと、「教会の役員の子ども、牧師の子どもはどうしようもないわねえ」と話し合われていたりする。そういう子どもたちは、言い方に気をつけないければなりません。来た来て来ているのではないかもしれない。お父さん、お母さんが教会に行っているから、行きなさいと言うから、たまたま来ていて、中学生、高校生になると、ちよつと反抗してみたくなくて教会から離れる。けれども、きつとまた帰ってくる。私たちはそういうことを願うのです。ただ、本当だったら、やりたいことが一杯あるけれども、一生懸命教会に来ている、ある意味で偉い子どもたちです。そういう子どもたちが問題児だと言われちゃうのはおかしい。うちの子も中学生が二人、小学生が一人、幼稚園児が一人いますけれど、行儀が悪い。ふんぞりかえって椅子に座っていたり、中学生ぐらいになるとまじめに賛美を歌っていなかったり。「コラ〜」とかいうことがある。でも、強いられてでもとにかく来ている子どもたちが、問題児扱いされるのは理不尽だと、牧師の子として私は思ったのですよ。

本当は、聖書の話はとても魅力的なもので、「先生、その話聞いた」と知っていても、その先を聞きたくてたまらない、聖書の話はそういうものだと思うのです。イースター、クリスマス、毎年何十回と聞いたはずの話なのですけど、うきうきわくわくするような話なのです。古典落語の話でもおちが分かっていても、みんな聞くでしょ。落語に負けるものかと思いませんか？私の好きな落語に「ラーメン屋」というのがありますが、これは泣けます。実際、人を泣かせるということは落語家でもできます。私たちはもつとすごいメッ

セージを持つているわけです。だから、そのメッセージを子どもたちに生き生きとしたものとして伝えていくことは、大事なことでと思います。鍵は、クリスチャンホームの子どもたちだと思います。その子どもたちが教会学校大好きな子どもだったら、他の子どもたちも少しずつ教会学校に加わってくれるはずですよ。

『星の王子様』の中の一節に、「愛するということとは同じ方向を見ることだ」とあります。私たちが子どもたちを愛して彼らと同じ目線に立つことはとても大事なことです。子どもたちの大好きなテレビを日曜日の朝やっているとしたら、私たちと一緒に観ないといけないかもしれない。教会学校を休むわけにはいかないから、ビデオにでも録っておいて、これが子どもたちの大好きなテレビかと観る。要は、子どもたちをあるがままに受け止めていけるかということです。

聖書には、子どもと向き合えなかった実例、うまく信仰を手渡せなかった実例があります。悲しいですね。エリの子どもたちは困った子たちでした。サムエルの子どもたちもわいろを取った。ソロモンは最初はよかったけど途中でおかしくなった。残念ですね。でもダビデの責任を問うのはちよつとかわいそうかもしれない。晩年になっておかしくなってきたということがありましたからね。うまく信仰を手渡せた実例もあります。アブラハムからイサク、イサクからヤコブ。神がアブラハムに「あなたの愛する子イサクをささげなさい」とおっしゃった時、イサクは思春期を過ぎて、17、8歳位とも言います。逃げることもできたでしょう。でも逃げない。やっぱ、アブラハムの信仰がイサクに宿り、イサクの信仰がヤコブに宿

っていったのだと思います。ミリアム、アロン、モーセという兄弟を育てた両親。ハンナはサムエルにそんなにべつたりではなかったけれども、その祈りとか信仰がサムエルにしっかりと受け継がれていた。おじさんのモルデカイがめいのエステルを育てたというのもいい話ですね。ロイスとユニケに宿った信仰がデモテに受け継がれた。うまくいった例も聖書にはいっぱいありますね。

聖書は、信仰がしっかりと受け継がれていくことの大切さを言っています。でも、お父さんの信仰が立派だったから、子どもも立派だったかと言えばそうとは言えません。もし、皆さんの教会の中で、役員や牧師の子どもが教会から離れているということがあったら、どうぞ、牧師や役員の人たちを責めないで、その子どものために黙って祈ってあげてください。一番心を痛めているのはその親ですから。親が立派でも子どもが離れていくことがある。神様はご自身を「イスラエルを生んだ父だ、母だ」とおっしゃいました。でも、神様が選ばれた民でさえ、きよきよる横道にそれることが度々あった。子どもたちが、ある時期教会から離れることがあっても、その子どもたちのために、またその両親のために信じて、祈ってあげてほしいのです。

子どもたちが残っても離れても、親の責任ではないと言っているわけではありません。親は子どものために祈り、最善を尽くさないといけないでしょう。家庭の中で信仰が受け継がれていくために、こういうことが大切だろうか、教会の中で信仰が受け継がれていくためにこういうことが大切だろうか、ぜひ、これらを考えていただきたいと思います。

カリキュラム解説

編集部

はじめに

二〇〇一年からの三ヶ年のカリキュラムを終え、二〇〇四年四月から新たな三ヶ年カリキュラムが始まりました。二〇〇四年の年題は「神さまとともに」で、年間通じての言葉は、教団に創立時与えられた出エジプト記3・14、「わたし自身が一緒に行くであろう」です。二〇〇五年の年題は「イエスさまとともに」、二〇〇六年の年題は「教会とともに」として、父、子、御霊の三位一体の神の臨在の中を歩ませていただくとするものです。一年を三期に分けるのは今までと変わりませんが、今まで年題としてよく用いられてきた「信仰・希望・愛」を毎年の期題として用いることにしました。

心がけた点は3つで、1つは子どもたちの魂の救霊を目指してのカリキュラムであり、教案であるということ。それに伴い、2つ目は、「暗誦聖句」としての金言としました。心にみ言葉を蓄えることの重要性を大切に、ということ。そして、3つ目は教会暦を重んじたということです。教会生活の中で霊的成長のためにも非常に大切であり、信仰生活に生かしていただきたいと願うからです。今号では、今年度のカリキュラムを解説します。

各単元ごとの解説

4月は、「復活の神」です。進級日の4月4日が

パーム・サンデー（受難週礼拝）、4月11日がイースターなので、十字架と復活を扱っています。その中であって、まさに神様の愛に生かされ、生きる者へととならせていただきたいものです。

5月は、月末にペンテコステがあります。そこで、4月の内容からの流れとして、「聖霊なる神」といたしました。クリスマス、イースターに続いて、ペンテコステがどれほどに意義深くも重要な祭りであるかを心に刻みたいと考えます。そのためにはまず、教師自身がペンテコステを体験し、聖霊に満たされ続けている必要があるでしょう。

6月は、教会暦というより、うるわしい教会行事を含んだもので、自然界も輝く季節に、「創造の神」を仰ぎ、その神の愛を周囲に届けていく存在となれますように。

7月は、「生かす神」です。特に夏期学校や、キャンプの開催される月なので、人に命を与えてくださる「生ける神」、「生かす神」との出会いを祈りつつ励みましよう。肉体の命の不思議と共に、驚くべき霊の命に生き生きと生かされる者に！

8月からは、期題が「信仰に生きる」へと移ります。そういうわけで、まず、8月は信仰の父祖たちに光を当てていきます。彼らのような雄大な信仰者へと渇きが呼びおこされますように！

9月は、「信仰を継ぐ」という単元のもと、はじめの父祖に続いて、信仰を受け継いでいった信仰の勇士たちを学びます。

10月は、最終日の宗教改革記念日も覚えて、「信仰による勝利」です。昔の聖徒たちにならない、教

師も聖徒も真の信仰者とされ、勝利の歩みを堅くできますように。

11月は、大切な単元で「信仰生活」です。と言っても幼児祝福礼拝や収穫感謝礼拝、そして、第一アドベントと行事が入りこんでいます。であればこそ、隠れたことを見られる神の前に忠実な「信仰生活」の基盤がえられますように。

12月、今月は「クリスマス」一色です。毎年このながら、大きな驚きと感動をもってこの時期を過ごし、大いによきおとずれを生徒たちにも、また、生徒たちと共に伝える時といたしましょう。

1月は、新年にふさわしく「新しく生きる」です。期題は12月から「希望に生きる」となっていますので、その面からもまたふさわしいものです。この新しい生き方は全く神によるものです。

2月は、「主にある希望」として、主にある者としてその生き方、歩み方を学びます。

3月は、「未来の希望」です。今年度はもう一度学年末に受難週とイースターが入ります。それもふまえた上で、未来の希望、永遠の希望へと共に心の目を注ぎます。

おわりに

夏期学校では「おしのけるヤコブ」をとり上げます。今年度から始まった、子供聖書日課を用いて、子どもたちの魂が養われますように。また、この子供聖書日課を教師も共に開き、子どもと交わりが深められ、神と共にある祝福の一年とされましようお祈りいたします。

カリキュラム解説

聖書 ルカ23・32～38
テーマ 最高の愛

序論

(鎌野)

教会暦では、今週から受難週が始まる。主イエスは日曜日にエルサレムに入城し、月曜から水曜まで神殿で律法学者や祭司たちと討論し、木曜の夜、弟子たちと最後の晩さんをした後、逮捕された。そして徹夜で裁判が行われた結果、金曜の朝9時ごろに十字架にかけられ、午後3時ごろに息を引き取られたのである。今週は、この金曜日の午前中におこった出来事を学ぶが、これは主イエスの最高の愛が示された一コマであった。最高の愛とはどのようなものなのか。

一、神のみこころに従うこと

この箇所を注意深く読むならば、ほとんどの出来事がすでに旧約聖書の中で預言されていたことに気がつくだろう。幾つかを引用してみよう。「彼は……とがある者と共に数えられた」(イザヤ53・12)。「すべてわたしを見る者は、わたしをあざ笑い」(詩篇22・7)。「主は彼を喜ばれるゆえ、主に彼を救わせよ」(同8節)。「彼らは互にわたしの衣服を分け、わたしの着物をくじ引にする」(同18節)。「彼らは……わたしのかわいた時に酢を飲ませました」(詩篇69・21)。

主は、ご自分がこのような苦難を受けることが父なる神のみこころであることをご存知だった。それゆえに、前日の夜、ゲツセマネの園で、「みこころが成るようにしてください」と祈られたので

ある(ルカ22・42)。父なる神がこの世を愛されて、ご自分を遣わされたからこそ、どんなに苦しいことであっても、主はそのみこころに従われた。最高の愛は、神が全人類を愛しておられることを知り、それに従うときに表されるのだ。

二、敵のために祈ること

父なる神のみこころがわかるなら、人をも愛することが出来る。主が、父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。と祈られたことは、それを明確に示しているだろう。罪人の赦しこそが父なる神のみこころだからこそ、主イエスは自分を十字架につけた者たちのために祈られた。

主を十字架につけた律法学者や祭司たちは、自分たちが正しいことをしていると思っていた。主が「安息日を破られたばかりではなく、神を自分の父と呼んで、自分を神と等しいものとされた」からである(ヨハネ5・18)。しかし、主が神の御子であることは、そのとおり、本当のことであった。彼らは、自分たちが神の御子を殺そうとしていることを知らなかった。それだけでなく、彼らの行為がみな、先ほど見たように旧約聖書に預言されていることも知っていなかったのだ。

私たちは、主イエスのように祈れるだろうか。だれかが自分に悪いことをしても、「あの人は、本当の神様を知っていないゆえに、こんなことをしています。どうかゆるしてあげてください」と祈れるだろうか。最高の愛は、そのことを可能にするのである。

三、自分を救わないこと

主が十字架上でこのように祈られた後も、民衆や役人や兵卒どもは、自分自身を救うがよいとあざ笑っていた。確かに主は、望んだなら、天の軍勢を遣わしていただけたであろう(マタイ26・53)。でもそうすることは、荒野でのサタンの誘惑に乗るのと同じで、主の本当の使命を無にすることだ。主は、八神のキリスト、選ばれた者でであり、八ユダヤ人の王であるからこそ、自分を救わないで、かえって自分の身を犠牲にされたのである。

最高の愛は、自分を救うことを求めない。逆に、自分が犠牲になって、他人を救うことを求める。主イエスの十字架は、このことを明確に示している。2月第2週に学んだ「十字架上の強盗」の1人は、この主の愛に接したからこそ、土壇場で救われた。神の御子である方が、その権威をまったく用いず、ただただ、罪人が受けるはずの苦しみをその身に負われている姿は、どんな愛の行為にもまさる最高の愛を示しているのである。

結論

十字架にかけられた時の主の言動の正しい意味を知ったなら、どんな人であろうとも、感動せずにはおれないだろう。この最高の愛を知った者は、自分も同じように生きることが出来る。まず、聖書から神のみこころを学ぼう。神を愛するなら、人をも愛するようになり、敵のためにも祈れるようになる。そして、喜んで人の犠牲になることさえできるようになるのである。

研究資料

(足立)

ルカはとても平易にイエスの十字架刑を伝えているが、その中心は罪人たちが救われるための究極の犠牲である。十字架刑は時間をかけ激痛を伴わせる死であった。しかし、福音書記者たちは、イエスが拷問に耐えたことに強調点をおいてはいない。このことは留意すべき事である。新約聖書は、私たちの感情に苦悩を与えることではなく、イエスの死という歴史的事実に重要な点を集中させている。

テキスト

32 イエスの十字架刑と同時に別の二人も処刑されることになっていた。ルカは **犯罪人**(カコールゴイ)と言っているが、マタイとマルコは「強盗」(レステス)と記している。この節はイザヤ53・12を想起させ、「彼は罪人のひとりに数えられた」(ルカ22・37、参照イザヤ53・12)と言うイエスの預言を確かなものとしている。ルカの基本的主張は、イエスは一人で処刑されたのではないという点にある。

33 3人は **されこうべ**(ラテン語でカルヴァリア、そこからカルバリ)と呼ばれるところに連れて行かれた(マルコ15・22、マタイ27・33、ヨハネ19・17)。その名の根拠はわからない。4人の福音書記者すべては、イエスが他の2人の間で十字架につけられたことを主張している。そして、ヨハネ20・25とコロサイ2・14によれば、少なくともイエスの両手はくぎで打ち付けられたことに

なる。おそらく両足(くるぶしから下の部分)も(参照ルカ24・39)。

34 イエスは自分を処刑し、ばとうする者たちのために祈られた。これは平地での説教で弟子たちに語られたメッセージを、イエス自身が究極の場で生きておられることに他ならない(ルカ6・27、28、1ペテロ2・19、23)。父よ、とは、御子イエスの祈りに一貫している呼びかけである(ルカ10・21、11・2、22・42、23・46、参照2・49、24・49)。イエスは十字架上においても、天の父との交わりに生きておられる。そして、イエスの祈りの中心点は、彼を十字架につけた者たちが自分たちの行動を全く理解していないと言うこと。すなわち彼らの無知にある。彼らとは、おそらく十字架刑に責任を持つユダヤ人と、十字架刑を実行したローマ人の両方を含むのであろう(参照、使徒2・23、3・17、13・27、29、1コリント2・8)。それゆえイエスは、なお彼らの回心を求めている(参照、使徒3・17、13・27、17・30、1テモテ1・13)。イエスは敵対する者への愛、赦し、非暴力を貫いておられる。初代教会最初の殉教者ステパノにも同様の祈りが見られる(参照、使徒7・60)。人々はイエスの着物をくじぎで分けた。とは、預言の成就と見られる(参照、ヨハネ19・23、24、詩篇22・18)。

35 ルカは、イエスを興味本位で眺めている大多数の人々を描いている。刑の執行は民衆に人気があり、疑いなく多くの者たちが十字架上のイエスに関心を向けていた。しかし、あざ笑ったのは、

民衆ではなく指導者たちであった(参照、詩篇22・6、8)。彼らはイエスの救いの行為に言及しつつ、語り合っている。そして **神のキリスト、選ばれた者** ということはでイエスをちよう笑した。

36 第三の集団兵士たちも、イエスをののしり、近寄って **酔いぶどう酒**(オクス)をさし出した(参照マタイ27・48、マルコ15・36)。酔いぶどう酒は、甘くない辛口のワインで、ふざけた贈り物として提供される安価なものであった。その刺激的な味により、のどの渇きをいやすためには水よりも効果があると言われ、貧しい人たちの間で飲まれる通常のワインよりも安価だと言われていた。ここでのポイントは、ユダヤ人も異邦人も十字架で釘づけられているイエスに自分たちが何をしているか、まったく理解していないと言うこと。ヨハネ19・28、30によれば、イエスがこの酔いぶどう酒を口にされたことがわかる。そして、これは預言の成就でもあったことがわかる(詩篇69・21)。

37 兵士たちは **あなたがユダヤ人の王なら、自分を救いなさい**と言ったが、これはピラトの尋問(ルカ23・3)の再確認でもある。

38 四福音書はすべて、十字架の上に掲げてあった **札**(エピグラフ)に言及している。ルカは、「これはユダヤ人の王」とその罪状書きを記録している。ローマに関する限り、イエスは政治的理由で十字架刑に処せられた。

参考図書 Bock, D.L., Luke 9:51-24:53 (Baker).
Morris, L., Luke, (IVP).
Stein, R.H., Luke (Broadman).

聖書 ルカ23・32〜38
 タイトル 赦されてるよ
 中心聖句 父よ、彼らをおゆるしく下さい。
 彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。 ルカ23・34
 目 標 十字架にあらわされた最高の愛を知り、罪の赦しを体験する。

導入

寒い冬から、暖かい春になりました。でもまだ寒いよ、というところもあるかしら。新学年、新学期になって、やっぱり心の中はもう春！ ですね。一年生のお友だち、入学おめでとう！ 今年一年はみんなで「神さまとともに」進みましょう。三月までイエス様を学んできました。そして、予告したように、今週から3回は本当にそのクライマックスのような、決定的なイエス様ですよ。これが私たちのイエス様だ！ と、深く心に刻みつけることにしましょう。その第一は、十字架のイエス様です。教会の暦では今日は、パーム・サンデーと言います。イエス様がろばの子に乗って今日エルサレムに入城されたのを記念する日です。人々がしゅろの葉（英語でパーム）を振りながらイエス様を熱狂的に迎えたのでした。そして、今週金曜日が受難日といって、イエス様が十字架にかけられた日を記念する日です。今日はその十字架の上にあらわされたイエス様の最高の愛のお姿を

見るのです。

十字架のもとに

さっきまで「ホサナ！」と熱狂的に出迎えた人々が、イエス様を残酷にも十字架につけました。イエス様がどんなに愛深い行いだけをしてこられたか、よくよく知っていたのに。人々の心は残酷で、ねたみでいっぱい、変わりやすく、裏切りやすい、みんなのする方に流されやすいのがよくわかります。民衆は面白そうに立って見ていました。役人たちは、両手両足を釘づけられて、頭から身体からも血を流して苦しんでいる人をあざ笑っていました。

イエス様を十字架につけた兵卒どもも、イエス様をのしりました。「やい、おまえがユダヤ人の王なら、自分を救うがよい」と。彼らはみんな、イエス様のお祈りの言葉を聞いてもわかっていないのです。さて、私たちはどうでしょう？ もしかしたら、民衆のように「関係ないよ」という心で、イエス様のことを考えているかな？ あなたの心に残酷なものはない？ お友だちをねたむ思いはない？ あなたの心を愛し、心配してくれて、苦しんだり悲しんだりしてくれているお家の人やお友だちをあざけったり、ののしったりしていることはない？ 十字架のもととはとても深く暗いやみの世界、罪がいつぱいの世界でした。そして、そこには神の子を殺すという恐ろしい、のろわれた世界がありました。罪は、一番には神様に背を向け、はねつけることだとよくわかります。あなたはそんな世界にはいないでしょうか？

十字架の上に

身体や、心や、魂の苦しみが、これ以上はないと思えるような中に、イエス様はおられました。そんな中で、人々ののしりに対して、イエス様はのしりかえしたりしません。あざけりにもじっと耐えられます。さんざん苦しめられても、おびやかしたりはされません。すばらしい愛のお姿です。十字架の上、それは身代わりの場所、犠牲の場所でした。本当だったらイエス様を十字架にかけた人がいるべきところでした。そして、その十字架の上で、イエス様の口から出たのは、父なる神様へのお祈りでした。いつでもどこでも、どんな時でも、イエス様は父なる神様にお祈りをされました。そのお祈りとは、「父よ、彼らをおゆるしく下さい。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」という完全な赦しのための、とりなしのお祈りだったのです。自分に無関心な人々のために、のしりあざける人々のために、さんざん痛めつけ苦しめる人々のために、そして、自分を殺そうとする人々のために、考えられないような深く、高く、広く、たしかかな愛の祈りでした。

イエス様の犠牲の死と、このとりなしのお祈りは父なる神様に受け入れられました。このイエス様の十字架の身代わりを信じて、私たちが罪をおわびする時、「子よ、しっかりとしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ」（マタイ9・2）と完全に赦していただけるのです。十字架のもとで、罪を犯していても、十字架の主を仰げば、必ずや赦されるのです。赦しの愛を感謝しましょう。

ワーク A

● 4月4日〜25日の聖句―ヨハネ20・20

● 話し方のヒント

教会には十字架があります。本当は私たちが罪の罰を受けなければならなかったのに、何も悪いことをしておられないイエス様が代わって十字架についてくださいました。それで、私たちの罪が赦されたというのは、何と大きな神様の愛でしょう。いつもこのイエス様の十字架を忘れないで、神様に感謝していきましょう。

● ワークについて

彩色し、切り抜いて教会の形の写真立てを作ります。仕上げるに、大切な十字架を付けましょう。

ワーク B

● 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

● 質問2 「自分自身を救うがよい」と言われましたが、もし、イエス様が十字架から降りてしまつたら、救いはありませんでした。私たちを救うために、ののしりや、あざけりに耐え、苦しみを味わい尽くされました。ここにイエス様の愛が表されています。

● 質問3 今日の中心聖句は、私たちのための祈りであり、また、私たちの祈るべき祈りでもあります（使徒7・60）。キリストの愛を知った者のみが、その愛に生きることが出来ます。

ワーク C

● 聖書を読んで、中央に位置する十字架にかかられたイエス様が叫ばれたみ言葉を書き入れます。

● その周囲には、いろいろの人が十字架を見ながらそれぞれ自分の思いを叫んでいます。ふきだしの中に「自分を救え」と入れましょう。

● 彼らもイエス様を侮辱する、もつともらしい理由を持っていました。ローマ兵は裁判で死刑判決を受けた犯罪人を侮辱するのは常でしたし、ユダヤ人たちにとって、イエス様は自分を神とした最悪の罪人でした。民衆は時の流れに合わせたのです。しかし、それらの表だった理由にもかかわらず、その裏にある本心は、結局「神（神の子）を殺す」ということでした。罪の本質の現われです。● この十字架のやり取りの中で「あなた（生徒）が思ったことをイエス様に語りかけよう」と言い、何を書くかを話し合いつつ書いてみましょう。

ワーク D

● 十字架の丘に自分も立っている気持ちで書き込みます。①は人々、役人、兵卒の様子や言葉を、聖書を読んで書き込みます。②はイエス様のお言葉を聞いて何を感じるか、自分の気持ちを書きま

中高校へのコンテンツ

● 観察してみよう

- 1 イエス様の左右の十字架にはどんな人がつけられていますか。（33節／2人の犯罪人）
- 2 イエス様に対して悪口を言っているのはどんな人たちですか。（35、36節／役人、兵卒）
- 3 34節のように祈られたのは、十字架につけられる前ですか、後ですか。（後）

● 考えてみよう

- 1 イエス様は「父よ、彼らをおゆるしく下さい」と祈られましたが、具体的には彼らの何をゆるしく下さいと祈られたのでしょうか。（答えの例／主を救い主と知らずに死へ追い込んだこと。34節後半のお言葉からわかる）
- 2 この「彼ら」とは誰のことでしょうか。（イエス様を十字架につけた当時の人々であり、主を救い主として受け入れていない人のこと）
- 自分に当てはめてみよう
- 1 イエス様に対して役人たちはあざ笑い、兵卒どもはののしりました。あなたが十字架にかかられたイエス様のそばにいたら、どういう態度をとると思いますか。
- 2 あなたに意地悪をしたり、ひどいことを言ったりする人のために、あなたもイエス様のように祈れるでしょうか。
- 3 どうしたらイエス様のように祈れるようになると思いますか。



聖書 ルカ24・1～12
テーマ 救い主の復活

序論

(鎌野)

受難週を終え、喜びに満ちたイースターの日を迎える。たとい現代人がどのように批判しようとも、キリスト教信仰にとって、イエス・キリストの復活は揺るがすことのできない事実だ。4つの福音書はみな、これを事実として記録している。細かいところで記述が違っているのは、彼らが見たまま、聞いたままを書いたからであり、人為的に口裏をあわせるようなことをしなかった証拠である。今週は、ルカ福音書のみならず、どの福音書にも共通して記されている4つの事柄を取り上げ、救い主の復活の意義を学んでみよう。

一、女たちの勇氣

安息日は金曜日の日没時から始まるため、十字架から取りおろされた主イエスのなきがらは、十分に香油を塗られることなく墓に葬られた。土曜日の日没で安息日は終わるが、夜間に墓に行くことはできないので、翌日の日曜日早朝に、八女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った。男の弟子たちが、自分たちも捕らえられるのではないかと恐れていたのと対照的に、女たちは勇敢だった。それだけ深く主を愛していたからである。特に、4福音書とも記す「マグダラのマリヤ」は、主イエスに悪霊を追い出していただいて以来ずっと主に従っていた（ルカ8・1～3）。主を愛しているなら、恐れは消え去る。

研究資料

(足立)

ルカが伝えるキリスト復活の最初の報告は、五つの要素で構成されている。場所（24・1）、空の墓（2～3）、二人の御使いによる報告（4～8）、女たちの報告（9～11）、ペテロの応答（12）。そして、焦点は御使いたちによるイエスの復活の宣言にある（5～6）。イエスによる復活の約束は成就しなければならなかった（9・22）。イエスの十字架の死と同様に、死者の中からの復活は聖なる必然性を持っている（参照24・7、18～21、25～27、44～46）。そして、復活はルカ24章の支配的テーマである。

テキスト

1 週の初めの日 とあるが、四福音書すべてに主イエスが復活した日は、週の初めの日すなわち日曜日であると記されている。そして、間もなく教会が礼拝する主の日として、週の初めの日が安息日に取って代わった（参照、使徒20・7、1コリント16・2、黙示録1・10）。女たちは用意しておいた香料を携えて、墓に行った とあるが、これは23・55～56から考えて間違いなくイエスが埋葬された墓。

2 石が墓からころがしてある とは、女たちはその墓から石が転がしてあるのを目撃したと言うこと。マルコ15・46、16・3、マタイ27・60、66、28・2には、埋葬の時、墓の入り口に大きな石が転がされていた記録があるが、ルカはここで初め

二、空つぼの墓

女たちが墓にはいつてみると、亜麻布に包んで置かれていたはずの主イエスのなきがらは見当たらなかった。あれほど勇氣ある女たちでも、八途方にくれてしまうのも無理はない。復活などということは、彼らの頭に思い浮かびもしなかったからである。

しかし、「空つぼの墓」は、決して忘れられてはならない事実である。「あなたはわたしを陰府に捨ておかれず、あなたの聖者に墓を見させられないからである」（詩篇16・10）との預言は、ここに成就した。仏舎利塔には、釈迦の遺骨が祭つてあるということだが、主イエスの遺骨はこの世に存在しない。主は、釈迦や孔子、マホメットやソクラテスとは根本的に違うお方である。

三、御使いの告知

落胆していた女たちを励ましたのは、八輝いた衣を着たふたりの者であった。その姿は福音書によつて違っているが、共通して女たちに言葉をかけている。ルカ福音書によれば、御使いはこう告げた。「そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ。まだ、ガリラヤにおられたとき、あなたがたにお話しになったことを思い出しなさい」。確かに主は、弟子たちに何度も、十字架と復活のことを予告しておられた（9・22等）。空つぼの墓をどう解釈するか。御使いの言葉を信じるのか。それとも、「弟子たちが夜中にきて、彼を盗んだ」（マタイ28・13）という作られたうわさ話を信じるのか。あるいは、現代の多くの人

て石に言及している。

3 女たちは墓の中に入つて見たが、主イエスのからだを発見できなかった。ここで 主イエス とあるが、これは地上のイエスのことを示している。使徒1・21、4・33、8・16における主イエスは、復活のそれである。

4 輝いた衣を着たふたりの者が とある。マタイ28・2、4においては、御使いと説明されているが、ルカも24・23で彼らを御使いと言及している。女たちはなぜ墓が空であるのか、途方にくれていたのだが、空の墓こそイエスが死者の中から復活した証拠であった。

5 驚き恐れて とあるが、復活のキリストの臨在を前にして、弟子たちも同じような反応を示している（参照、ルカ24・37、使徒10・4）。この恐れは、ルカ1・12、30、2・9～10に見られるような畏敬の念に満ちた意味と理解したい。

6 よみがえられた（エゲルセ）という動詞が受動態であるゆえに、父なる神が死者の中からイエスを復活させたと言う真理が主張されている。あなたがたにお話になったことを思い出しなさい。イエスの受難と復活に関しては、おおむね弟子たちに告げられていた（参照ルカ9・21～22、43～44、17・22、25、18・31～32）。この女性たちはこの教えを伝え聞かされていたと推測される。女性たちはイエスが語られた時その場にいたか、あるいは弟子たちから聞いた可能性がある。

7 人の子は必ず罪人らの手に渡され とは、ルカ9・22、44、18・32～33を意識した一節である。

々が言うように、「復活は科学では証明されない」と頭から否定するのか。一人一人が自分の責任で選びとらなければならない。

四、弟子たちの不信仰

女たちはその後、彼らが見聞きした出来事を、八十一弟子や、その他みんなの人に報告した。マルコ福音書だけは、「人には何も言わなかった」（16・8）と記すが、それは短期間のことで、その2節後ではちゃんと知らせている。もし知らせなければ、マルコがこのように書けるはずがない。しかし八使徒たちには、それが愚かな話のように思われて、それを信じなかった。主と3年間共に過ごし、十字架と復活の予告を何度も聞いておきながら、それでも信じられないほど、弟子たちは不信仰であった。でも、そんな弟子たちだからこそ、次週に学ぶように、主はご自身の復活のからだをもって、彼らに現れなさった。その結果、彼らは大胆に主の復活を証しするようになったのである（使徒2・32、3・15等）。

結論

主は、不信仰な者を捨てられはしない。かえつて、そのような者をあわれみ、ご自身の姿を現される。2千年前でも信じるのが難しかったのだから、現代ではなおさらである。しかし、復活を信じた人々が、復活の証人として2千年間、これを伝えてきた。だからこそ、福音は全世界に広がったことを忘れてはならない。私たちも復活を信じよう。でなければ、私たちの信仰はむなし。

十字架につけられることへの言及は、ルカ9・22、31、18・32に見受けられる。必ず（デイ）とは聖なる必然性を示す（参照ルカ13・33、17・25、22・37、24・26～27、44、使徒17・3）。

渡され、十字架につけられ、よみがえる ことが、成就する神のご計画。

8 その言葉 とは、24・7の背後にあるイエスの預言である（参照ルカ9・22、24、18・32）。

9 十一弟子 とあるが、イスカリオテのユダは、もはや十二弟子のひとりではない。

10 ルカは、報告したのは女性たちであったと確認している。ヤコブの母マリヤを除いて、女たちは既にルカ伝ではおなじみである。マグダラのマリヤは8・2に、ヨハンナは8・3に言及されている。また、マグダラのマリヤは復活の記事すべてに記載されている（マタイ28・1、マルコ16・1、ヨハネ20・1、18）。使徒たち とは、復活の証人としての弟子たちの役割を伝えている（ルカ24・48～49、使徒1・22、25～26）。

11 婦人たちによつて繰り返された、御使いのメッセージと墓が空である事実によつて、弟子たちは復活信仰を持つには至らなかった。彼らは全く疑い深い。話（レーマの複数形）は、8節の言葉と同じ語で、出来事をも意味する。一般に、ユダヤ人は女性の証言を軽んじた。しかし、神はその女性たちを証言者として選ばれた。

参考図書 Bock,D.L., Luke9・51-24・53.(Baker).
Morris,L., Luke.(IVP).
Stein,R.H., Luke.(Broadman).

聖書 ルカ24:1-12
 タイトル イースターおめでとう！
 中心聖句 そのかたは、「ここにはおられない。よみがえられたのだ。ルカ24:6
 目 標 キリストはよみがえられて、今も生きておられる救い主であること信じる。

導入

受難週と言われるこの一週間をどのように過ごしましたか？ 学校も始業式や入学式があり、新しいクラスや新しい先生とか、受難週どころではなかったかもしれないね。でも、ある人たちは毎朝か毎夕、教会へ行って祈りをしたでしょうか。ある人たちは、受難日の教会の集会に出席したことでしょう。そして、この一週間イエス様のお苦しみをしのびながら克己節約して、それをイースター献金として今日献げる人たちもあるでしょう。そして、今日みんなでイースターをお祝いしたいですね。今日の聖書の、初めてのイースターの日の出来事はルカさんだけでなく、マタイさんもマルコさんもヨハネさんも記しています。そう、重要な決定的なイエス様、それは「復活のキリスト」なのです。

はじめてのイースター

イエス様のことが大好きでとっても愛していたマグダラのマリヤさんや他の婦人たちは日曜日の朝早く、すがすがしい空気の中を、でも心配そう

にイエス様のお墓に向かいました。お墓の入り口の大きな石は、なんとこがしてあります！ お墓は空っぽ、イエス様はいない！ どうしたことか？ 途方に暮れている女の人たちに、ふたりの輝いた衣を着た人が現れました。ウワッ、女の人たちはビックリ、そして、こわくなって下を向いてしまいました。二人の人のメッセージは、「あなたがたは、なぜ生きた方を死人の中にたずねているのか。そのかたは、ここにはおられない。よみがえられたのだ」でした。つまり、以前イエス様が予告されたとおりに、十字架につけられるけれども、3日目によみがえると言われたことを思い出しなさいということだったのです。「ああ、そう言えば」と、女の人たちは思い出しました。そして、この驚くべきビッグ・ニュースを口人のお弟子さんやその他の人にも知らせました。ところが弟子たちは、この女の人たちは何をバカなことを本気で信じて言っているのかと、愚かな話のように思えて信じようとはしません。ペテロさんでさえも、立って走ってお墓へ行ってかかんで見ると、亜麻布だけがそこにあつたので不思議に思つて帰って行きました。イエス様が死の中から、神様の力によつてよみがえつた！ 本当に信じられないような、ウソのようで本当の超ウルトラ・ニュースです！ なのにこのでき事はとても静かに行われたので、聞いた人にもすぐには納得がなかったのです。だから、イエス様は40日間、地上にとどまられて、何回も復活のお姿をあらわす必要があつたのですね。

今年、2004年のイースター

今日、私たちは「イースター、おめでとう！」と喜びに満たされて集まっています。あの初めてのイースターから、もう2000年もたつたのです。イエス様が本当に死人の中から、神様の力によつてよみがえられたことがはつきりわかり、信じた人々によつて、ずっと記念され続けてきました。なんとすばらしいことでしょうか！ イエス様はあのはじめてのイースターの日以来、ずっと生きておられるので、西暦の年数は、イエス様が再び地上に來られるまで終わらないのです。死人の中からよみがえらされて、今も生きつづけている救い主は、ただおひとり、イエス様だけです。どんなに人々から尊敬されたり、まつられたり、拝まれたりしている立派な人々があつたとしても、その人々は「人」であつて、死んだらどんな助けも与えてくれません。過去の人になるだけです。でもイエス様は、そうイエス様だけはちがうのです。今日、この2004年のイースターの日、私たちも信じましょう。死の力、罪の力、よみの力、悪魔の力をみごとに打ち破つて、復活された神の子、イエス・キリストを！ イエス様は生きておられる救い主なので、いつも、どんな所でも、どんな時でも共にいてくださり、助けを祈り求めると、聞いて助けて下さるのです。「いつしよにうたおう」(ノアオリジナル礼拝賛美集 Vol.1・No.54)で歌うとおりです。

イースター・エッグ、見つけ出して食べましたか？ かたい殻を破つてひよこが出るように、イエス様も人間では破れない死の力を破つて命によみがえられたのです。イースターおめでとう！

ワーク A

話し方のヒント

イースターおめでとうございます。イエス様のことが大好きな人たちにとつて、イエス様が死んでしまわれたというのは、とっても悲しいことでした。しかし、イエス様は死の力に打ち勝つて、復活されましたね。そして、イエス様は今も生きておられ、私たちといつも一緒にいてくださいます。このイエス様をみんなにもお知らせしましょう。

ワークについて

ひよこの絵に彩色して切り抜き、イースターカードを作ります。

ワーク B

- 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
- 質問2 イエス・キリストの復活を信じる信仰へと導くのは、み言葉です。御使いに会つた女たちは、イエスの「言葉を思い出し」(8)、信じて復活の報告をしました。また、エマオ途上の弟子たちは、主がみ言葉を説き明かされた時、彼らの心は燃え、目が開かれました(ルカ24:13-32)。聖霊により頼みつつ、み言葉を語りましょう。
- 質問3 普段の生活の中で、どんなときでもイエス様に祈ることを教えましょう。主と共に祈られることを知るのは、み言葉を用いて(ヨハネ15:6) 祈ることを通してです。

ワーク C

- イラストは、イエス様がすでに復活して墓にはおられないという場面です。登場人物は、時間的には少し差があり、同時にそこになかつた人もいますが、あえて一つの場面に登場させました。2人のみ使いが今日のみ言葉を言いました。6節を書き入れましょう。女は怖くて顔を伏せ、震えています。ローマ兵はみ使いが現れた時、恐怖に腰を抜かしますが、祭司長に報告して金をもらいウソを言いふらします。ペテロは女たちの報告を聞いて、不思議な顔で墓をのぞき込んでいます。●全員が、死からの復活を信じられないでいるのです。『死』は、人間にとってあまりにも深刻な事実なので、空の墓の意味が理解できないのです。●この場面にあなた(生徒)がいたら、どんな表情をする？ などと言う？ と質問し書いてみましょう。

ワーク D

- 歴史上よみがえつて、今も生きておられるお方はイエス様以外にありません。質問の1、2は導入ですが、今も生きてお会いできるイエス様に出会うことができるように、3以後の質問があります。丁寧に子どもたちの言葉に耳を傾けながら、進めましょう。

中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 女たちは何をしに墓へ行つたのでしょうか。(1節/主のなきがらに香料を塗るため)
- 2 女たちはイエス様がよみがえられたことを教えられましたか、イエス様には会つていますか。(出会っていない)
- 3 使徒たちは女たちの報告を信じましたか。(11節/愚かな話として信じなかった)

考えてみよう

- 1 女たちはイエス様がよみがえられることをわずかも期待していただいでしょうか。(まったく期待していません)
 - 2 女たちはよみがえられたイエス様を見たから信じたのでしょうか。(答えの例/見ないでも、聞いただけで信じた)
 - 3 使徒たちは女たちの報告をどうして信じられなかつたのでしょうか。(あまりにも常識から、かけ離れた話だったから)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたは使徒たちが主の復活を信じられなかつたことをどう思いますか。
 - 2 あなたがこの女たちだったら、御使いの話を聞いただけで、イエス様の復活を信じられたと思いますか。
 - 3 あなたはイエス様が今も生きておられる救い主であると信じますか。



聖書 ヨハネ20・19～23
テーマ 復活の喜び

序論

(鎌野)

ヨハネ福音書によると、日曜日の朝、主イエスはマグダラのマリヤにご自身を現された(20・14～18)。そして、その日の夕方の出来事がここに記されている。これは、時間的には、エマオ途上での顕現を記した後の、ルカ福音書24・33～43と同じころのことだと推測できるが、その内容はかなり異なっている。だが両者とも、復活の主が単なる霊ではなく、復活のからだをもっておられることを示している点に注目したい。弟子たちは、生きておられる主イエスを、その目で見る事ができたのだ。だから「主を見て喜んだ」。彼らの喜びは、次のようなものではなからうか。

一、平安による喜び

△弟子たちはユダヤ人をおそれて、自分たちのおる所の戸をみなしめて√いた。彼らは、木曜日夜、主が逮捕された時には、恐れて逃げ出していた。ペテロなどは主を3度も否定した。また日曜日の朝、女たちの報告を聞いても信じていなかった。そんな彼らの所に主は来られ、△「安かれ」と言われた√のである。主は、彼らの臆病、裏切り、不信仰を非難されたものではなかった。彼ら自身、それらのことで悩んでいたに違いない。

主は、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのものにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」(マタイ11・28)と仰せられた。弟子た

ちの重荷は、だれよりも主が一番よくご存知であった。主が、弟子たちの罪や失敗をしつ責めなさらず、逆に△安かれ√と言われたとき、弟子たちの心は安らいだ。そして、喜びがあふれた。

二、確信による喜び

しかし、弟子たちに、「本当にこれがあの主イエスなのか」という疑問があったとしても不思議ではない。主は、その疑問に答えるかのように、ご自分の△手とわきとを、彼らにお見せになった√。きつと、そこにある傷跡を示されたのであろう。ルカ福音書では、霊を見ているのだと思った弟子たちに、主は手と足(そこにも傷跡がある)とを示されたことが記されている(24・37～40)。

栄化された復活のからだに傷跡があるのは奇妙に思える。だが、「ほふられたとみえる小羊」(黙示録5・6)とも記されているごとく、その傷跡は見る者に主ご自身であることを確信させる。栄化のとき、私たちの傷は癒されるとしても、主の傷はそのままなのだ。「彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされた」という預言が思い出される(イザヤ53・5)。弟子たちは、彼らの目の前にいるお方が、確かに主イエスであることがわかって、喜んだ。

三、聖霊による喜び

主の復活を確信した弟子たちに、主は重要な使命を与えられた。△安かれ。父がわたしをおつかわしになったように、わたしもまたあなたがたを

つかわす√。バックストンは、この箇所を次のように説明する。「19節の平安は神と和ぐことです。21節の平安は働の中に得る所の平安です。…荒き浪風の中に小舟を遣わさん。…この21節に於て大なる平安を経験して浪風の上を歩むことが出来ます」(『ヨハネ伝講義』390頁)。

この使命を人間の力で果たすことは到底できない。だから主は、弟子たちに息を吹きかけ、△聖霊を受けよ√と命じられたのだ。これは、エゼキエルが枯れた骨に「息よ、四方から吹いて来て、彼らを生かせ」と預言したことに似ている(37・9)。主は、失敗した弟子たちに聖霊を与え、再び立ち上がらせようとした。彼らはどれほど嬉しかったことか。そして、7週間後のペンテコステの日、その場にいなかったトマスも含め、弟子たちすべてに聖霊が与えられたのである。

聖霊を受けた者には、大きな責任がある。主は、△あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのままだる√と仰せられた。自分勝手に、ゆるしたり、ゆるさなかったりするのはない。常に聖霊にお尋ねし、聖霊の導かれるように行動するのだ。

結論

復活の主にお会いできた弟子たちは、本当に幸せである。平安と確信と聖霊とが与えられたゆえに、彼らは喜びに満たされた。現代の私たちも同じ喜びにあずかることができることを忘れてはならない。主は確かに復活された。すべての喜びは、この事実から生まれてくる。

研究資料

(足立)

テキスト

19 ヨハネは時を記すことによって、この箇所を始めている。その日、すなわち、一週の初めの日の夕方。それは、前述(20・11～18)の復活したイエスの出現と結びついている。

自分たちのおる所の戸をみなしめている この部屋が、使徒1・13で言及されている「屋上の間」かどうかはわからない。戸をみな とは複数形(参照20・26)。しめている と訳される動詞は完了形。弟子たちはユダヤ人をおそれて 固く鍵をかけていた。これは自分たちにユダヤ人当局の手が及ぶことへの恐れ。しかし、この時点で弟子たちが真に危険な状況にあったことがわかる記録はない。弟子たちがユダヤ教の権威者に迫害を受けるのは、ペンテコステ以後のこと(イエスとその死の責任を問う説教のゆえに)。

ヨハネは戸が閉ざされているのに、イエスが入ってきて、彼らの中に立 った事実を明確にしている。これは主の復活のからだは、私たちが地上の生活で制限を受けている物理的状況に支配されないことを示している。イエスの復活のからだは、霊のからだである(1コリント15・35～49)。

イエスは『安かれ』と言われた とあるが、言われた という動詞は現在時制である。これは劇的な瞬間をあざやかに表している。安かれ とは通常の挨拶に用いられている(サムエル上25・6)が、この場合は神との正しい関係の保証である参

照14・27、16・33)。

20 イエスはみ言葉による保証を提示しただけではなく、十字架で受けた 手とわき の傷跡を弟子たちに見せられた(ルカ24・39では「足」にも言及)。弟子たちの前に立たれたお方は、十字架の死を経て復活されたイエスであった。主の傷跡は彼らに確信を持たせた。それゆえ、弟子たちは主を見て喜んだ。そこに立つておられるお方がけっして幽霊ではないことがわかり、弟子たちの恐れは喜びへと変わった(参照15・11、16・22)。

21 ユダヤ当局者を恐れ、希望を失った弟子たちに神からの平安を約束されたのは、十字架の死を経て復活された主イエスであった。その主が繰り返し 安かれ と、平安のことばを弟子たちに語りかけた。神は「平和の神」と呼ばれる(ローマ16・20)。そして、イエスは十字架を通して、罪人に平和をもたらした(コロサイ1・20、参照エペソ2・14,18)。イエスの死と復活を基とする平和は、彼に信頼する者に豊かに与えられる。

父がわたしをおつかわしに とあるが、これは本福音書に一貫して流れる主要なメッセージのひとつである(例4・34、5・23～24、30、37、6・38～39、7・16、18、28、33、8・16、18、26、29、9・4、12・44～45、49、13・20、14・26、16・5)。イエスはこの大切な真理を、弟子たちに想起させる。イエスは目的のない田舎生活を地上で送られたのではなく、父なる神のみ思いを深く受けとめて過ごされた。その主が わたしもまたあなたがたをつかわす と、弟子たちをこの世に

派遣する。強調点は わたしも(カゴー)と言われるイエスにある。

22 弟子たちを宣教に遣わすにあたりイエスは、彼らが身につけるべき事を語られた。それは、不完全な弟子たちが十分な働きを成し遂げるためにどうしても必要な備えに関するものである。すなわち聖霊 による派遣である。宣教は本質的に聖霊なる神の働きによるものである(1コリント2・4、12・3)。ただし著者ヨハネはこの箇所で、使徒2章に見られる個人的な聖霊の満たしに言及しているのではない。むしろ、弟子たち(教会)が、全体として聖霊なる神に依存する集団であることを示している。大切なことは、聖霊の臨在が弟子たちともなうということ。

23 ここでは聖霊を受けると言うことと、罪の赦しとが結びついている。罪でもゆるされ(アフエオンタイ、そのまま残る(ケクラテンタイ)という2つの動詞は、いずれも完了形の受動態である。このことは神が罪を赦し、また神だけが罪をそのまま残されることを意味している。キリストの証人は、聖霊によって力を与えられ、実際に神が罪を赦し、或いは罪をそのままにすることを宣言し、宣告するのである。これが福音伝達の焦点となる。イエスは、盲目であることを認める者に光と信仰を与え、見えると主張する者に「あなたがたの罪がある」と宣告される(ヨハネ9・41)。

参考図書 Carson, D.A., The Gospel According to John, (Eerdmans). Morris, L., Reflections on the Gospel of John, (Baker).

聖書 ヨハネ21・15～17
テーマ キリストを愛する

序論

(鎌野)

先週学んだように、主イエスは、復活されたその日の夕方、弟子たちに顕現された。そして、その場にいなかったトマスのために、その1週間後、再び現れなされた。この両顕現はエルサレムでの出来事だが、その後、弟子たちは主の言葉に従ってガリラヤに行った(マタイ28・10、マルコ16・7)。今週の箇所は、そこでおこった感動的な出来事を描いている。この4月から始まった題「愛に生きる」にふさわしい記事である。ペテロは、3つの段階を通して、愛に生きることを学んだ。この直前に記されているガリラヤ湖での大漁とそっくりのことが、ルカ5・1～11にもあるので、ぜひ読んでおくこと。このことがきっかけとなって、ペテロたちは主の弟子になったのである。

一、主の愛は人の弱さを示す

主がペテロに3度も「わたしを愛するか」と問われたのは、ペテロが3度、「主を知らない」と言ったからだ(18・15～17)。しかし、主は彼に仕返しや、意地悪をされているのではない。ペテロは、自分は十二弟子の筆頭だと思っていた自信家であった。最後の晩さんの席で、主が十字架のことを示唆されたとき彼は、「あなたのためには、命も捨てます」と豪語していたのである(13・37)。それなのに、3度も否定してしまった。彼は主の問いかけに、自分の弱さを自覚したことだろう。

特に、イエスが3度も言われたので、心をいれて「主を愛するか」と記されていることに注目したい。それなら、彼が3度主を否んだとき、主はどれほど心を痛められたことか。主は、あえてその痛みをペテロに経験させられたのである。自分がどれほど弱い者がわからなければ、主の愛を理解することはできない。

二、主の愛は人を回復させる

主の3度の問いかけに、ペテロは「はい。愛します」とは答えていない。多分、そう言い切る自信がなかったであろう。彼は、3度とも、わたしがあなたを愛することは、あなたがご存知です」と、主の御旨に委ねている。どの程度主を愛しているか、それは主がご存知だ。どんなに弱い自分でも、今はひたすら主を愛していこうとしている。主はその思いを知っておられる。自信家のペテロは、そこまで砕かれていた。

そんなペテロに、主は「わたしの小羊を養いなさい」と仰せられた。彼の失敗をご存知の上で、それでも彼を用いようとしたのだ。そのため、弟子となった最初の時のように、主は彼を「ヨハネの子、シモンよ」と呼び(1・42)、ガリラヤにまで連れ戻して大漁の経験させられた。シモンを再びペテロとし、「人間をとる漁師」にしようとしたのである(ルカ5・10)。

主が、この人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」と言われたのも、再度、ペテロを弟子のリーダーとして回復させるためであつたらう。昔のように自分の力量によるのではなく、主の愛

によるとの自覚をもって。確かに彼は、ペンテコステの後、弟子たちの先頭に立つて、大胆に主の証しをすることができた(使徒2・14)。

三、主の愛は人に使命を与える

主は3度、「愛するか」とペテロに尋ねられたばかりではなく、彼の果たすべき使命を、3度も示された。「わたしの小羊を養いなさい」と、わたしの羊を飼いなさい、わたしの羊を養いなさい」と、主を信じる者たちに仕えよと命令されたのである。その後の彼は、指導者ではあっても、謙そんに人々に仕え、主の愛を伝える生涯をおくった。彼は、諸教会の長老たちに、「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。：恥ずべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい」と書き送っている(1ペテロ5・2)。ここには、かつての自信家ペテロの姿はない。これこそ、キリストの愛によって生かされ、群れに仕える者の生き方である。主はペテロに新しい使命を与えられ、彼もそれに応えて生きた。

結論

この箇所を用いられている「愛する」という言葉には、2つの違ったギリシャ語が用いられているが、それにはあまり大きな意義を見出さないほうが良いだろう。主はアラム語でこれを話されていたからである。重要なのは、キリストの愛を本当に知った者こそ、主をも人々をも愛することができるといふ原則である。「わたしを愛するか」という問いに、あなたはどうか答えるだろうか。

研究資料

(足立)

イエスを裏切り、元の職(漁師)に戻ろうとしたペテロに対して、主は湖の畔で彼と語られた。そして、主はペテロに、「自分を愛しているかどうかを3度尋ねられた。その会話は次のように結論づけられている。すなわち、イエスは自分の質問の中で「愛する」(アガパオー)という動詞を2回繰り返して使っている(21・15、16)。ペテロはその答えの中でその都度「愛する」(フィレオー)と言う動詞を用いている(21・15、16)。そして、イエスは3度目の質問の中で、ペテロが使った「愛する」(フィレオー)と言う言葉を用いた(21・17)。ペテロもまた、彼の答えの中で「愛する」(フィレオー)を用いている(21・17)。

ギリシア語として、アガパオーは、人の功績とは全く無関係に与えられる愛を意味する動詞である。一方フィレオーは、友情という愛を意味する動詞である。つまり男性が男性の友人に対して示す愛であり、女性が女性の友人に対して示す愛である。

しかし、ヨハネ21・15～17で大切な点は、動詞の相違にあるのではないと考えられる。本福音書において著者ヨハネは、アガパオーとフィレオーとを相互交換可能な動詞として使っている事例が多い。I「父は御子を愛して」(アガパオー)(3・35)。II「父は子を愛して」(フィレオー)(5・20)。III「あなたが愛しておられる者が病氣をしています」(フィレオー)(11・3)。IV「イエスは、マル

タとその姉妹とラザロを愛しておられた」(アガパオー)(11・5)。V「愛弟子」(アガパオー)(19・26)。VI「イエスが愛しておられた、もうひとりの弟子」(フィレオー)(20・2)。このように並べてみると、IとII、IIIとIV、VとVIは同じ意味を示しているのに、用語としては「アガパオー」と「フィレオー」とが使われている。つまり著者ヨハネは2つの動詞が持つ意味の相違を十分知りつつも、明確に使い分けているとは言えない。したがって、21章においても文法論(修辭的な意味)から同じ言葉の反復を避けたと考えられ、意味上の問題ではないと考えられる。

それではテキストが意味することは何であろうか。それは、イエスが徹底して「愛」に関して語りかけている事実にある。弟子たちの間では、ペテロがイエスを3度否定した事実は十分伝わっていたであろう。当然ペテロのリーダーとしての立場は、あやういものであつたと推察される。またペテロ自身、自分が弟子たちの長として生きることに矛盾やためらいを感じていたであろう。しかし、主はペテロに対して他の弟子たちの前で、主への愛を3度問い、3度「愛する」という答えを導き出している。これはペテロの弟子長としての地位回復を意味している。そして、イエスはペテロに、3度「羊を養う」ことを委託し、彼の立場を保証している。イエスはペテロに、勇氣、福音理解、指導力、能力等を問うてはもらえない。ペテロが使徒として生きていく上で最も重要な課題は、主を愛するかどうかという一点にあつた。

テキスト

15～17 イエスはペテロとは言わず、ヨハネの子シモンよ(参照ヨハネ1・42)と3度呼びかけておられる(21・16、17)。あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。ここは原文では3通りの解釈が可能であるI、あなたはこれらの人が愛する以上にわたしを愛するか? II、あなたはこれらの人たちが愛する以上にわたしを愛するか? III、あなたはこれらのこと(舟、魚)以上にわたしを愛するか? ペテロはかつてイエスに、「たとい、みんなの者があなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません」(マタイ26・33)と、この慢な約束をした。このことから考えると、Iが意味するところであろう。

ご存じです。とペテロはイエスに3度返事し、3度目にはおわかりになっています。とまで言っている。ご存じです。と訳されている(オイダ)ことは、事実を知情的に知ることを意味する動詞であり、おわかりになっています。と訳されている(ギノースコー)ということばは、経験を通して得る知識を意味する動詞である。しかし、ここでもヨハネが、意味の変化を持たせるために、ことばの使用を変えたとは考えにくい。やはり重要なことは以下のことであろう。すなわち、人々の心に何があるかをイエスが十分承知していることをペテロは自覚していると言ふこと。

参考図書 Carson, D.A., The Gospel According to John, (Berdman's) Morris, L., Reflections on the Gospel of John, (Baker).

聖書 ヨハネ21・15〜17
タイトル イエス様が一番
中心聖句 あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。
ヨハネ21・15
目標 復活のキリストは、私たちの愛さ
えも求めていてくださる。

導入

「QアンドA」って何か知ってる? 「Q」は、クエスチョンという英語で、訳すと「質問」という意味です。「A」はアンサーという英語で、訳すと「答え」ということです。「たずねますよー、答えて下さいー」、ということですよ。「ハイ、では、たずねますよー。イエス様が大好きな人!」「ハイ! みんなの手があげられますよ。では、「ここにいる誰よりも、ぼくが、私が一番イエス様を愛しているよ、誰にも負けないよという人!」どうか? イエス様の一番のお弟子さんのペテロさんだったら、「おーっ!」って一番に手をあげたと思います。ところが、ペテロさんは本当は自分がどんなに弱くて、そんなことはとても言えない者だということがわかったのです。イエス様を3度も「知らない」などと言ってしまったのですから。イエス様も、ペテロもとても気がかかって仕方ないでござりました。それで、復活のイエス様はペテロにガリラヤの海辺で語られたのです。

イエス様のQ

「ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。」「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。」「ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか。」「イエス様は3度も、「わたしを愛するか」とやさしくペテロにたずねられました。『どうして私を知らないなどと言ったのか』とか、「あんなにも力を込めて、イエス様といっしょなら牢屋へでも行きます、死んでもかまいませんなどと言っていたじゃないか」などと、一度も言われなくて、ただ、「わたしを愛するか、ここにいるどの人よりもわたしを愛するか」とたずねられたのです。

ペテロのA

一度目たずねられたペテロは、「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです」と答え、2度目と同じように答えました。その失敗の前までペテロは、自分はイエス様を誰よりもたくさん愛していると心の中で誇っていました。でも自分のイエス様への愛は...? イエス様に3度目と同じようにたずねられた時、ペテロの心はズキズキうずいて、痛む心でペテロは答えました、「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています」と。「イエス様、私の心は弱いことがよくわかりました。でもこれからは弱い私だけじゃなく、イエス様を心から愛していこうという思いを、あなたはご存じです」と言う気持ちで答えたのです。イエス様はそんなに心くだかれたペテロに「わた

しの羊を養ってほしい」と大切なことをお願いしたので。これから、イエス様を信じる人たちの面倒をよく見てほしいと。何というイエス様からの信頼と愛! ペテロは心に深く、イエス様を愛していこう、誰よりも一番に、そして、イエス様を信じる人たちのお世話を、心から喜んでしようという決心したにちがいありません。そして、本当にそのようにしていったのです。

例話―バーバラ・ビー先生

ウィリアム・ビー先生とご夫人のバーバラ・ビー先生は、神様からの召しをいただいて、日本にいられたイギリスからの宣教師でした。バーバラ先生は結婚される前も、結婚されてからも、いつも「一番愛するのはイエス様、ビーさん(ご主人のこと)」、その次、「二番目」と言って、イエス様が一番の生活をしておられました。1967年に、突然ご主人のビー先生がイエス様のところに召されてしまわれた時、バーバラ先生はビー先生を神戸の外人墓地に葬られ、その墓碑に次のように刻まれました。『For to me, to live is Christ, and to die is bath.』「わたしにとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは浴である」(ピリピ1・21)。ご主人のビー先生も、イエス様が一番の生き方をしてこられたからです。その後バーバラ先生はイギリスのロンドンに帰られ、そこで日本人を見ると家に迎え入れ、伝道し、たくさん日本人がバーバラ先生に導かれてクリスチャンになりました。私たちも心からイエス様を愛し、イエス様が一番の生活をしましょう。

ワーク A

話し方のヒント

皆さんにとって一番仲良しのお友だちは誰ですか。イエス様は「私を愛するか」と、私たちにもお聞きになっておられます。そして、このように質問されたイエス様ご自身が、まず私たちを愛して下さっていたのです。十字架のお話を聞くと、そのことがよく分かりますね。イエス様は、私たちにとって一番大切なお方です。みんな「イエス様がいちばん」の歌をうたいましょう。

ワークについて

イエス様のお顔を書いて、頭に冠を付けましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様とペテロの問答の再現です。ペテロの裏切りに対して、イエス様はそれを赦しただけでなく、使命を与えられました。弟子失格と思われた自分に大切な役割を与えられ、このときどれほどイエス様の大きな愛を感じたことでしょうか。このときのペテロの気持ちを想像してみましょう。

●質問3 イエス様を愛することは、その戒めを守ることです(ヨハネ5・3)。それを、生徒と共に具体的に考えましょう。しかし、律法的でなく、イエス様の愛に感謝することからです。

ワーク C

イエス様の言葉を書き入れます。

●第2問では、イエス様を3度否んだペテロの失敗を確認します。

●第3問では、イエス様を裏切ったペテロにイエス様は怒ったり叱ったりうらんだりせず、ただ「わたしを愛するか」と3度言われました。③が答えですが、人間の思いとしては①も②も十分理解できると思います。そこも話し合います。

●第4問は「わたしを愛するか」とイエス様に3度言われた時のペテロの心について考えます。答えは③ですが、①、②の中味も検討しましょう。

●このように3度言われた理由は、ペテロがイエス様を3度否んだことを、ひとつひとつ赦し癒してくれるためと考えられます。そのことを確認する意味で、1番のペテロの顔を一つ一つ「イエス様ありがとう」と言いながら「X」をして消します。

ワーク D

●《ロールプレイをしよう》では、2人を選んで、イエス様とペテロになって台本を読んでもらいます。他の人はその場面を見ながら、この時のイエス様とペテロの気持ちを考えます。人数が多ければロールプレイをあと何組かにやってもらいます。

●ロールプレイのあと、☆の問題や質問をやってみましょう。

中高校へのヒント

観察してみよう

1 主はペテロに「わたしを愛するか」と何度尋ねておられますか。(3度)
2 そのたびにペテロはなんと答えていますか。(わたしがあなたを愛することは、あなたがご存知です)

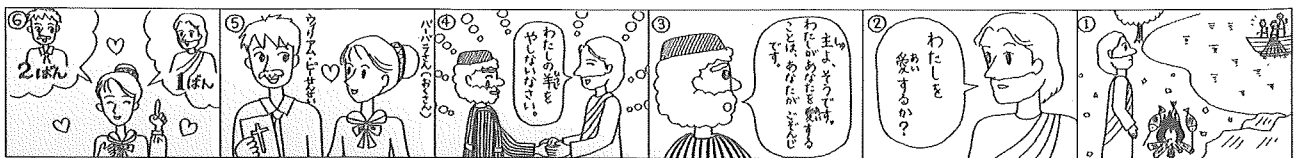
3 主はペテロになんと命じておられますか。(わたしの小羊を養いなさい、飼いなさい)

考えてみよう

1 主がペテロに3度も「私を愛するか」と尋ねられたのはなぜだと思いますか。(答えの例/ペテロの失敗にもかかわらず、彼を愛していることに変わりのないことをわからせるため)
2 ペテロはなぜはつきりと「あなたを愛します」と答えないのでしょうか。(またいつ主を裏切るかわからない自分の弱さを知っていたから)
3 17節で、ペテロが「心をいため」たのはなぜだと思いますか。(十字架の前夜、3度も主を知らないと言ったことを後悔しているから)

自分に当てはめてみよう

1 ペテロのように、イエス様に申し訳ないことをしたという経験がありますか。
2 あなたはイエス様からいつでも愛されていることがわかりますか。
3 主は今もあなたに「わたしを愛するか」と尋ねておられます。あなたはどうか答えますか。



聖書 ルカ24・50〜53
テーマ キリストの昇天

序論

(金井)

信仰とは文字通り天にいますお方を信じ仰ぐことである。復活された主イエスは40日間にわたり(使徒1・3)、50人以上の人たちに現れて後(1コリント15・5〜6)、天に昇られた。キリスト昇天の意義について学ぼう。

一、大祭司として祝福を与えるために

主イエスは天から降って来られた人といふと高き者の子(ルカ1・32) 人の子(同1・35)である。主は人天に上げられる日(同9・51)を意識しつつ宣教を進めてこられた。そして、今や主イエスは、父なる神の御計画に従い抜き、地上で為すべきわざをすべて成し遂げられたのである。ついに、天に昇るべき時が来たので、主イエスは弟子たちをへベタニヤの近くまで連れて行かれた(同24・50)。ベタニヤはエルサレムの南東約3キロ、オリブ山の麓にある村である。主イエスはその村に行く道の途上で人手をあげて彼らを祝福された。祝福しておられるうちに、彼らを離れて、天にあげられた(同24・50〜51)。

この祝福はアロン以来、祭司たちが果たしてきた務めである(レビ記9・22、民数記6・22〜27)。まさに主イエスは、人類に祝福を与える大祭司として天に昇って行かれたのである。人キリストがすでに現れた祝福の大祭司としてこられたとき、手で造られず、この世界に属さない、さらに大き

く、完全な幕屋をとり、かつ、やぎと子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである(ヘブル9・11〜12)。

二、聖霊を遣わすために

弟子たちは昇天される主イエスを拝し(ルカ24・52)。神の栄光の御座がある天に昇って行かれる主イエスを見て、弟子たちはこのお方の神性を完全に認めたのである。主イエスは三位一体の神の第二位にいます人ひとり子なる神(ヨハネ1・18)である。

昇天の直前、主は弟子たちに「見よ、わたしの父が約束されたものを、あなたがたに贈る」と言われた(ルカ24・49)。それは聖霊降臨の予告である(使徒2・33)。子なる神イエスが天に昇られたのは、第三位にいます聖霊なる神をこの世にお遣わしになるためであった。

主イエスは、聖霊の火が降る時を切実な思いで待つておられた(ルカ12・49)。主は弟子たちをおよそ3年間訓練し、彼らに世界宣教の使命を託されたが、彼らにはそれを為す力が無い。彼らにその力を与えるのは人聖霊である(使徒1・8)。それゆえ主は彼らに、聖霊が降り人上から力を授けられるまでは、あなたがたは都にとどまっていなさい(同)とお命じになったのである(ルカ24・49)。

三、再臨を待望させるために

主イエスが天に上げられ、雲に迎えられていく様子を弟子たちは見つめていた。そこに白い衣を

着た2人の人が現れて彼らに言った、人なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになるであろう(同)と(使徒1・10〜11)。そこで弟子たちは目線を地上に戻し、人オリブという山をくだってエルサレムに帰った(同1・12)。

弟子たちの心はもはや、高く天にいますお方に向けられて変わらない。主の受難の後、彼らの心は恐れ、悲しみ、絶望に支配されていたが、この後、彼らは人非常な喜びをもってエルサレムに帰り、絶えず宮にいて、神をほめたたえていた(同)である(ルカ24・52〜53)。

弟子たちの心の中には、すでに天国があった。だが同時に、彼らの目はしっかりと世を見据えて人もろるの国民(ルカ24・47)に宣教を進め、キリスト再臨の日に備えなければならなかった。人の子イエスは雲に乗って来られ、人々を裁かれるのである(ルカ21・27、ダニエル7・13)。

結論

主イエスは今、天上で大祭司として私たちのために父なる神にとりなして祈っておられる。主が流された血によって私たちは赦され、きよめられて神に近づかせていただけるのである。だから、朝に夕に大いなる喜びと感謝をもって讃美をささげ、主イエスの御名により祈ろう。そして、聖霊の力に満たされて、一人でも多くの人に神の裁きとキリストによる救いを伝えていこう。主イエスは間もなく再び天から降って来られるのである。

研究資料

(足立)

主イエスの昇天に関しては、ルカの第二巻(使徒1・9〜11)に詳述されている。ルカは、ここでは主な事実を提示するにとどめ、主を拝しつつ喜んでいる弟子たちを生き生きと私たち読者に伝えていく。その説明はきわめて短い。ルカは既に多くのことを記し、間違いなく第一巻を終わろうとしている。彼は昇天を詳細に記述してはいないものの、起こったことが事実であることにはかわりはない。

文脈としては24・36に始まったイエスの復活後の出現が続いているが、背景は変わっている。イエスはエルサレムを離れ、オリブ山のベタニヤに弟子たちを導いている。イエスは手をあげて弟子たちを祝福している間に、天に上げられていった。イエスを礼拝していた弟子たちは大いなる喜びをもってエルサレムに戻った。そこで、彼らは約束の聖霊を待ちのぞみつつ、絶えず神を賛美して宮にいた。

これまでルカはイエスの昇天に関して、私たち読者に十分な備えを与えてきた。イエスは、エルサレム(十字架)への旅の目的を、「天に上げられる日」(9・51)と位置づけておられる。十字架前夜の不当な裁判においてイエスは、「人の子は今から(22・69)。そして、エマオ途上の弟子たちにキリストの苦難と死は、「栄光に入る」ためには必

然であつたと語られた(24・26)。その成就として24・51がある。

また、本福音書を閉じるにあたってルカは、信者の特権である神を賛美する生活を強調している。実は、ルカによる福音書はイスラエルの民が宮で祈り礼拝をささげることから始まった(1・9〜10)。そして、御子の降誕を説明する中心には、神への賛美があつた(1・46〜55、64、68〜79、2・13〜14、20、28)。これは本福音書に一貫して見受けられることでもある(5・26、7・16、13・13、17・15、18・43、23・47)。ルカは福音書を書き終えるにあたって神への賛美を忘れていない。そして、み言葉の真実を確かに知ることにより、私たち読者にも神への賛美に参加するよう呼びかけているかのようである。

テキスト

50 イエスは彼らをベタニヤの近くまで連れて行きとあるが、使徒1・12によればイエスの昇天はオリブ山で起こったことがわかる。ベタニヤはオリブ山に接している(参照ルカ19・29)。このことから、ベタニヤはオリブ山の斜面にあつて、イエスの昇天はその丘のどこかで起こったことがわかる。祝福された(ユウロゲオー)ということばをルカはしばしば用いている(1・42〔2回〕、64、2・28、34、6・28、9・16、13・35、19・38、24・30、51、53)。手をあげてという行為を、祭司(参照レビ記9・22)としての行動と読み込む必要はないであろう。ルカは祭司としてのイエス

に、強調点をおいてはいない。大切なのは、本福音書におけるイエスの最後の行為が、弟子たちを祝福し配慮されたという点にある。

51 ルカは、しばしば超自然的に離れる姿を記している(ルカ1・38、2・15、9・33、24・31、使徒10・7、12・10)。昇天はイエスの仲保者としての権威を証明するものである(使徒2・30〜36)。また、昇天はイエスの地上での生涯の終わり以上に、天における統治の始まりを意味する。イエスの大祭司としての働きに関しては、ヘブル2・3章、7〜10章を参照。

52 ルカ4・7〜8の光によるなら、弟子たちのイエスへの礼拝は、十字架および復活を経て昇天されるイエスこそ、聖なる神ご自身という認識をあらわしている。礼拝こそ昇天への応答であつた。もはや弟子たちには、疑い、不信仰、恐れ等(24・11、19〜25、37〜38、41)はまったくない。彼らは「大きな喜び」(参照2・10)を抱いてエルサレムに戻った(参照ヨハネ14・28)。

53 本福音書の出来事は、宮で始まり(1・5〜23)、宮で終わっている。またルカは、エリサベツ、マリヤ、ザカリヤ、御使い、シメオンの賛美(1・2章)で記述を始めたが、終わりにあつて弟子たちの絶え間ない神への賛美で福音書を閉じている。

参考図書 Bock, D.L., "Luke 9:51-24:53", (Baker), Hendriksen, W., "The Gospel of Luke", (Baker), Morris, L., "Luke", (IVP), Stein, R.H., "Luke", (Broadman).

聖書 ルカ24・50〜53
タイトル 祝福のシャワー
中心聖句 祝福しておられるうちに、彼らを離れて、「天にあげられた。」
目標 キリストは昇天され、今も天で祝福を祈っていて下さる。

導入

イエス様から、いつぱいの愛をうけて、私たちもイエス様を心から愛して、この一週間もすごせたかしら？ 復活されたイエス様は、40日の間、お弟子さんたちの前に現れてくださり、神の国のことや、聖霊によって強められることなど、大切なことをお話ししてくださいました。お弟子さんたちは、「ああ、うれしいな、このままずっと、またイエス様が私たちと一緒にいてくださるのかなあ」と、喜んでいたかもしれません。でもそうではありませんでした。イエス様は、愛する天のお父様のもとに帰られることになったのです。ベタニヤの近くというのは、オリブ山のふもとのベタニヤ村の近くということです。イエス様はお弟子さんたちをそこまで連れていきました。お弟子さんたちの数は、50人以上いたということです。イエス様は、手をあげて心こめてお弟子さんたちを祝福し、そうしているうちに、雲に包まれて天に帰られたのです。

祝福していただくイエス様

教会学校の礼拝の終わりや、大人の人たちと一緒にささげる礼拝の終りに頌栄を歌います。そしてそのあと、牧師先生が講壇で手をあげて、「祝福」をしてくださいますね。皆さんの中に、よくその真似をしている人がいるかもしれません！ それは神様からの、天のあふれる祝福が今ここにいる一人一人の上に永遠まで豊かに注がれますように！ という祝福のお祈りなのです。

イエス様が天に昇り、父なる神様ののもとに帰っていかれたときの姿、それは「祝福のお祈りの姿」でした！ なんてうれしいことなのでしょう！ お弟子さんたちの目に最後に写ったイエス様のお姿は「祝福していただくイエス様」、そう、そうして、祝福し続けていただくイエス様ということです。そのイエス様のお姿は、今も変わりがありません。イエス様は今も、そして、やがて私たちを天から迎えにきてくださる再臨の日まで、ずっと祝福のシャワーを注ぎ続けていてくださるのです。本当にうれしくなりますね。

お祈りしていただくイエス様

天に帰られたイエス様は、神様の御座の右にすわられて、そこで祈りをされていてくださいます。天に帰られてバイバイ！ もうそれっきりですよ！ とはちがいます。今までお弟子さんたちの近くにおられたときと変わらないほど、心をこめて、力ある「とりなしのお祈り」をされていてくださるのです。ペテロさんの失敗のとき、「あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」（ルカ22・32）と言われたとおりです。私たち一人

一人が、いろんなことがあるこの地上で、信仰をなくしてしまわないように、失敗をして、もうだめだと逃げ出したり、あきらめたり、イエス様からも、教会からも離れてしまったたりしないように、イエス様は今も私たち一人一人のために力ある祈りをしてくださいます。心に力と励ましを受けますよね。

例話―沢村五郎先生

沢村五郎先生は、50年以上も関西聖書神学校の校長先生をつとめた立派な先生でした。あるとき、先生は心に暗闇がかかるのを覚え、申命記の中に、呪われた人の頭の上の天は青銅となり、あなたの下の地は鉄となるであろうと書かれている、そのとおりの苦しみだと、悩みつとお祈りしていました。ところが、ある一冊の本を読み始めたとき、そこに、エペソ1・3のみ言葉が目から心に飛び込んできました。「ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神。神はキリストにあって、天上で霊のもろもろの祝福をもって、わたしたちを祝福し」と。英語を見ると、「祝福した」とあります。先生は大きな天からの祝福のシャワーを浴びて立ち上がることができたのです。私たちの神様は祝福の神様です。天に昇られたイエス様は祝福の大祭司です。天に帰られる祝福の姿のイエス様を仰いだお弟子さんたちは、非常な喜びをもって、3キロばかり離れたエルサレムに帰り、いつも宮にいて、神様をほめたたえていたのです。私たちも、私たちを祝福していただく、とりなしをしてくださるイエス様のことを思っ、喜びと感謝の祈りをささげましょう。

ワーク A

●5月2日〜30日の聖句―使徒2・17

●話し方のヒント

仲良しの人とは、いつも一緒にいたいと思いますね。イエス様のお弟子さんたちも、イエス様と離れたくありませんでした。イエス様が天に上げられる時、お弟子さんたちは寂しかったでしょうね。でもイエス様はお弟子さんたちを祝福されました。そして、私たちのこともずっと祝福してください。とは、なんと感謝なことでしょう。

●ワークについて

イエス様の絵に彩色して切り抜き、カップにはりつけて小物入れを作ります。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 昇天の出来事の簡単な、おさらいです。なお、神の右の座におられるとは、神から全ての権威を委任されていることを意味します。

●質問3 イエス様は大祭司として私たちのために、いつもとりなして下さっています。この大祭司であるイエス様を、いつも思い起こして、信仰をもって仰いでいくことができるよう導きましよう。

ワーク C

●昇天から再臨までを3つのイラストで表現しました。順番に「どんな様子だったんだろう」と想像しながら話し合ってみてください。

●第1問 今日ののみ言葉を書きます。

●第2問 8つの□の中に当てはまる言葉を選んで書き入れます。答えは①昇天、②〜⑤聖霊、恵み、教会、宣教（順不同）、⑥大祭司、⑦とりなし、⑧再臨です。

●今がどういう時代か、イエス様は何をしてくださるのかを確認しましょう。また、将来、神様の定めた時が来れば、イエス様は再臨され、死人の復活、携挙があり、クリスチャンは主のみもとに引き上げられることも確認しましょう。

ワーク D

●イースターからペンテコステまでの中間地点というところで、中間テストをしましょう。1〜5までまず、ヒントを見ないでやりましょう。次にヒントを見てみましょう。

●聖書にはつきりと答えを見出すことで、イエス様の復活と昇天が事実であることを確認します。

●（答え）1〇、2c、3x、4b、5（イエス様を信じ受け入れられることを祈ります）。拒否してしまう子どもがいたら、その気持ちを聞いてあげましょう。

中高校へのヒント

●観察してみよう

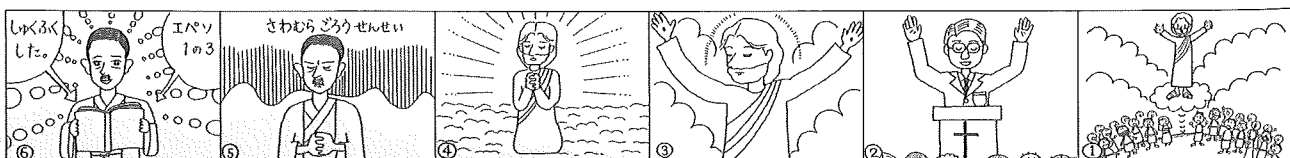
- 1 主は何をしなから、どんな様子で天にあげられましたか。
- 2 主が天にあげられたあとの弟子たちの心はどんな様子でしたか。
- 3 エルサレムへ帰った弟子たちは何をしていたか。

●考えてみよう

- 1 手を上げて祝福するというのは、どういうことでしょうか。（答えの例／祝福のように、私たちの祝福を祈る姿）
- 2 イエス様が弟子たちを離れて行かれたのに、なぜ彼らは非常に喜んでいたのでしょうか。（主が自分たちを天から見守り、祈り続けてくださることがわかったから）
- 3 天にあげられたイエス様は、今、何をしておられるのでしょうか。（私たちの信仰が守られ、成長するように祈っておられる）

●自分に当てはめてみよう

- 1 あなたは、イエス様が今も生きておられるということがわかりますか。
- 2 あなたは、イエス様から祈られているということが分かりますか。
- 3 み言葉を読んだり、聞いたりしている時に、神様からの励めや励ましを受けたことがありますか。



聖書 使徒1・12～14

母の日

テーマ 祈る母

序論

(金井)

本日は母の日である。母親が子どもに与える影響は非常に大きい。母親は子どもの霊的な成長のためにも大きな役割を担っている。主イエスの母マリヤの信仰に学びたい。

一、主に従う母

主イエスは天に昇られる直前、弟子たちに「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい」とお命じになった(使徒1・4)。その約束とは彼らが「聖霊によって、バプテスマを授けられる」ことである(同1・5)。そこで、主の昇天後、彼らは「オリーブ」という山を下ってエルサレムに帰る(使徒1・12)。「市内に行つて、その泊まっていた屋上の間にあがった」(同1・13)。「二百二十名ばかりの人々が」そこに集まったが(同1・15)、その中に「イエスの母マリヤ」と「イエスの兄弟たち」も加わっていた(同1・14)。

この一家は敬虔な家庭であり、「イエスの両親は、過越の祭には毎年エルサレムへ上つて来た」(ルカ2・41)。夫が死んだ後もマリヤは、子供たちを伴って過越の祭に来る習慣を守っていたであろう。ただし、この年は特別であった。マリヤはイエスの弟子の一群に加わっていた。そして、彼女は愛する息子「イエスの十字架のそばに」立って、最後までその死を見守ったのである(ヨハネ

19・25)。彼女は自分自身の胸を刺し貫かれるような痛みを感じたであろう。マリヤは母としての愛情を抱きつつも、それを聖別し、イエスを主キリストと信じて従ってきた。彼女は主の復活・昇天の後も弟子たちの群れの中にいたのである。

二、耐え忍ぶ母

一方、主イエスの兄弟たちは母マリヤとは異なり、長い間「イエスを信じていなかった」(ヨハネ7・5)。マリヤの一家には7人以上の子どもがおり、夫ヨセフは早くに亡くなったようであるから、マリヤは彼らの養育のために大変な苦勞をしたものと推察される。イエスは長兄であったから、大工として働いて弟妹を養ったのであろう(マルコ6・3)。主イエスの伝道旅行中に彼らが訪ねて来ることもあったが、すでに主は公生涯に立たれていたもので、肉の家族よりも霊の家族を優先された(同3・31～35)。兄イエスは「気が狂った」と彼らは思っていた(同3・21)。彼らの誤解に母マリヤは悩み、困惑したことであろう。

しかし、そんな彼らも、復活のイエスを目の当たりにした以上、信じざるを得ない(「1コリント15・7」)。イエスの兄弟たちも、彼を主キリストと信じるようになり、弟子たちの群れに加わったのである。母マリヤの喜びは、いかばかりであったか。彼らが変わえられた背後には、母マリヤの忍耐と祈りがあつたのである。

三、祈る母

主イエスが命じられたところに従って、弟子た

研究資料

(足立)

主イエスの昇天とペンテコステとの間にあるこの時期は、弟子たちにとって待ち望みの期間であったが、信仰による行動が欠如していたわけではない。主として弟子たちは、祈りの日々を送っていた。先ず彼らは、主の約束(1・4)を受けて、聖霊に満たされ、力あるキリストの証人となるために備えていた(1・8)。また、この期間には「イスカリオテのユダ」の欠員を補充する時でもあつた。

テキスト

12 弟子たちは オリーブという山 から エルサレム に引き返し、そこで父なる神の約束を待った(1・4～5)。安息日に許されている距離 とは、敬虔なユダヤ人が安息日に旅をするのに許されていた範囲のことである。それは2,000キュビト、約1,100メートルで出エジプト記16・29を民数記35・5に照らして解釈し、巧みにはじき出されたものであつた。ルカの意図は、イエスの昇天がエルサレム近くで起こったことを示すためにある。

13 弟子たちは、宿営していた 屋上の間 に戻った。私たちは、この部屋を最後の晩餐が行われた場所と見なしたい誘惑に駆られるが、それは確かではない。ルカは2つの部屋に関して違ったことばを使っている(「座敷」(カタリユマ)ルカ22・11、「屋上の間」(ヒュペローン)使徒1・13)。弟子たちのリストに関しては、ルカ6・13～16と同じメンバーである(順序に違いがあり、イスカリ

オテのユダが削除されている点は別として)。

14 11使徒に加えて、婦人たち、特にイエスの母マリヤ とある。この交わりの中に、女性の存在が認められることは、既にキリスト教会の性質を暗示していると言える。ルカは教会における女性の役割に十分注目している(参照5・14、8・3、12、9・2、12・12、16・13、17・4、12、22・4)。

イエスの兄弟たち は、イエスの初期伝道において彼を信じていなかった(参照マルコ3・21、31～34、ヨハネ7・5)。しかし、今彼らは、信仰者の仲間数えられている。

心を合わせ て(ホモスユマドン)という語はルカが好んで使った語で、使徒に10回出てくる。ひたすら…していた と訳される動詞(プロスカルテレオー)は、あらゆる行動において忙しい、或いは首尾一貫していることを意味する。ルカはこのことばを用いて新しい回心者たちが、「ひたすら」使徒たちの教を学んでいたことを記している(2・42)。また使徒たちが「もっぱら祈と御言のご用に当ることにしよう」と自覚した場面でもこの語を使用している(6・4)。ここでルカは、パウロが言うように(ローマ12・12、コロサイ4・2)、たゆまない祈りにこの語を用いている。ここで彼らは疑いなく、祈りにおいて一致し、堅忍不拔のスピリットでイエスの約束(1・4、5、8)を待ち望んでいた。

この箇所が「母の日」の礼拝で話されることに加味して、信仰者の証しひとつを、記載させていた。日本救世軍司令官、山室軍平(1872～1940)氏のことである。彼は民衆の説教者と

ちとこれに加わる人々は「共に、心を合わせて、ひたすら祈りをしていた」(使徒1・14)。聖霊はいたずらに走り回る活動家ではなく、神を待ち望む祈りを知る者にお降りになられる。

イエスの母マリヤについての聖書の記述を見ると、彼女は表立った派手な行動をする人ではなく、思慮深く、謙遜で、祈り深い女性であることがわかる。ルカによる福音書に記録されているマリヤの賛歌(1・46～55)には、彼女の内面にある深い祈りと豊かな讃美の世界が表出している。

彼女の名はこの祈禱会以後、聖書に出ていない。しかし、彼女が育てた、主の兄弟ヤコブはエルサレム教会の指導者となつて用いられている(使徒15・13、21・18、ガラテヤ2・9)。彼が書いたヤコブの手紙には「信仰による祈り」についての力強い勧めがある(5・13～18)。主の兄弟ユダもユダの手紙を書いており、彼は「聖霊によって祈り」なさいと勧めている(20)。彼らを神に用いられる良き祈禱者に育てたのは、祈る母である。

結論

子どもは親の言うことはなかなか聞かなくても、親のしていることは自然に真似をする。少年期・少女期に反抗的な子どもも、やがて大人になり、人生の辛酸をなめる時に、信仰に生きる親の姿を思い出して信仰の道に帰ってくる。しかし、より良いのは親が自ら神に従いつつ、子どもを幼い時から神に従うように教育し、その子の人生を神に用いられるものとするのである。子どものために祈ろう。母の涙の祈りを神は軽しめたまわない。

して各地を伝道。また娼婦運動をはじめ職業紹介、結核療養、婦人・児童保護、貧困者医療など社会事業に貢献した。救世軍山室軍平資料館館長の朝野洋氏は、山室とその母との関係を以下のように記している。「『さびるよりは、すり減るほうがよい』とは、山室軍平の生涯を貫く生活信条であった。逆境をも糧として、使命の場を求めて遍歴する山室に、神の愛を焼きつけてくれたのは、貧苦にやつれた母が卵断ちをして子の成長を祈ってくれた、母の愛であつたと彼は語る。近代日本の形成に重要な働きをしたキリスト者、植村正久、内村鑑三、新渡戸稲造、小崎弘道、本田庸一らの士族出身者の多かった明治の教会において、山室は岡山県阿哲郡本郷村(現哲多町)の貧農の生まれ(一八七二年)である。八番目の末っ子で、家は農業と染物を業としていたが火災にあい、彼の幼児は窮乏のどん底にあつた。11歳で質屋の養子となるが、目にした貧しい人々の姿と、芽生えた彼らへの同情心は生涯彼の進路を狂わせなかった。勉学を望んで養家を出、上京して活版工となるのが14歳、彼はここで青春の危機に出あう。時を経て酒や煙草の味を覚えかけた時、知らずにいた下宿は実は船員相手の売春宿であつた。天の導き、母の祈り、彼の歩みを決定づけたのが築地福音教会の路傍伝道であつた。』(日本の説教5「山室軍平」日本キリスト教団出版局p.232～233)

参考図書 Stott, J., "The Spirit, The Church & The World", (IVP). 他邦語／30研究資料の参考図書参照

聖書 使徒行伝1・12・14

タイトル お母さん、お祈りして！

中心聖句 心を合わせて、ひたすら祈をして

いた。

使徒行伝1・14

目標 主の母マリヤが祈ったように、祈る母が増し加わるよう祈る。

導入

今日の日はスペシャル！そう、皆さんの大好きなお母さんに、『お母さん、ありがと！』と言う日、全世界でこの美しい言葉が聞こえる「母の日」です。今から2百年くらい前、アメリカの立派なクリスチャン婦人、ジャーンビスさんの追悼記念会で、娘さんのアンナさんが集まった人々にカーネーションを贈ったことから始まった「母の日」の行事です。クリスチャンから、このうるわしい行事が生まれて広がっているのは本当にうれしいことです。もう「お母さん、ありがと！」「と言ってきた人も、教会が終わってからそうしよう」と思っている人もいるでしょうね。

神を信じるお母さん

「母の日」の今日は、イエス様のお母さん、マリヤさんってどんなお母さんだったのかを知りましょう。何しろ、神様の御子イエス様のお母さんです。まず、神様を信じるお母さんでした。幼いときからよく聖書を読んで心から神様を信じ、いつでもどんなときでも神様に従う心の人でした。

だから突然！御使いガブリエルがきて、「おめでとう、あなたは主の母に選ばれました」と言われたときも、はじめはとまどいましたが、「お言葉どおり」と従いました。ここでは、マリヤさんは十字架のもとで胸を貫かれるほどの苦しみの後、復活されたイエス様からの命令、「父の約束を待っていないさい」とのお言葉に信仰を持って従って、弟子たちと共に屋上の間にあがったのです。

神に祈るお母さん

マリヤさんは、これまでもずっと祈り深いお母さんでした。祈り深かったので、御使いガブリエルの言葉も受けとめられたし、祈り深くハンナの歌も心に止めていたので、マリヤの賛歌が口をついて出ました。そして、この大切な屋上の間の10日間の祈り会に、『特にイエスの母マリヤ』と記されて、登場しています。そこには120名ばかりの人々が一同となって集まって祈っていたのです。復活のイエス様と出会う、同じく命令を聞いたのは、たしか500名以上の人々だったのですが、？そのうちの120名ばかりの人々の中でも、『特に』と書かれていますから、いかにマリヤさんが心熱くして、聖霊を待ち望んで祈っていたかがわかるようですね。彼らは、心を合わせて、ひたすら祈りをしていたのです。ひたすら、というのは、他の何事も忘れて、一生けん命、ただ、ただ、祈りつづけ、祈りに没頭していたということです。そのお祈りによつてどんなことが起こったでしょう。10日目に、天から、約束の聖霊が一人一人の上に降り、お弟子さんたちもマリヤさんもみんな聖霊に満たされました。そして、ペテロさんの力

強い説教により、3千人もの人々が神様を信じて救われ、そこに信じる人々の群れ、『教会』が生まれました！お祈りには大きな力があります。マリヤさんは本当にそのことをよく知っていたお母さんでした。

例話

湖浜馨（かおる）という牧師先生が1人の婦人のお話をされました。この婦人はとても祈り深い婦人で、一緒に歩いている人に、「あ、ごめんない、ちょっとお祈りさせて」と言って、しばらく離れた所で祈るような人。クリスチャンの夫を若くして失い、クリスチャンでない方と再婚しましたが、とてもがんばってわがままな夫で、礼拝に出るためには朝4時頃起きて、すべての準備をしてという厳しい日々でした。でも、祈り深く夫に仕えたので、夫が死ぬ前には「わしもお前のキリストを信じたい」と言って天に帰りました。この婦人には再婚のときどうしても手放さねばならなかった小さい男の子がいました。彼女はその子のことを一日たりとも忘れず、毎日涙の祈りを20年以上ささげました。その子は成長し、救われ、牧師となったのです。その牧師とは私のことです。私はこのように一人の魂を大切にして祈る母をもつたことを大きな誇りに思っています！

みんなのお母さんはクリスチャン？ だったら、「お母さん、お祈りして！」って言えて幸せですね。もし、まだだったらお母さんのために祈りましょう。マリヤさんのように祈る母がふえますように！

ワーク A

話し方のヒント

皆さんの中で、自分が生まれた時のことを覚えている人はいませんか。みんな、赤ちゃんの時は自分では何もできないけれど、お母さんが一生懸命育ててくださったので、大きくなることができました。お母さんに、また、教会の中でお母さんのようにしてくださる婦人会の方々に、感謝の気持ちを伝えましょう。そして、多くのお母さんが神様を信じるようにお祈りしましょう。

ワークについて

お母さん（もちろん教会の婦人会の方たちにも）へのプレゼントを作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 ペンテコステ前の祈りの場面ですが、母マリヤに焦点を当て、その信仰の生涯をおさらいしましょう。

●質問3 子育ての大変さは、わからないものです。もし赤ちゃんを連れてきているお母さんがいたら、その様子をみて気づかせてあげることも良いでしょう。そして、母親に対する感謝を具体的に考える時を持ちましょう。お母さんのために祈ること、特に、もしまだ救われていないお母さんであれば、そのことを祈るよう勧めましょう。

ワーク C

●イエス様の生い立ちや、母マリヤのことも聖書に詳しくは書かれていません。ですから、以下の聖書箇所を確認しておくとい良いでしょう。受胎告知（ルカ1・26・56）、イエス誕生（ルカ2・1・20）、エジプト逃避（マタイ2・13・23）、宮もろで（ルカ2・21・52）、カナの婚礼（ヨハネ2・1・11）、十字架のもとで（ヨハネ19・25・27）それと、本日の箇所です。

●その他、聖書に出てくる母の姿に、モーセの母（出エジプト2・1・10）、サムエルの母ハンナ（サムエル上1・1・28）があります。また、聖書の中ではありませんが、放蕩に陥ったアウグスチヌスを祈りで立ち直らせた母モニカの話も有名です。

ワーク D

●イエス様が昇天された後の出来事です。今日の聖書箇所を読みながら1・2・3の質問に答え、線のところを書き入れます。

●4ではそれぞれ、各自のお母さんのことを紹介します。信仰あるお母さんには背後の祈りに感謝し、またそうでないお母さんのために信仰をもてるよう祈り合いましょう。事情により、お母さんのいない子どもがいる場合は、特に心にかける必要もあります。諸事情に合わせてご配慮ください。

中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 この祈りの集いは、イエス様の昇天前ですが、後ですか。（昇天後／9節参照）
- 2 13節に主の弟子たちは何人いますか。（11人）
- 3 そのほか、この祈りの場にはどういう人たちが何人くらい集まっていますか。（婦人たち、イエスの母マリヤ、イエスの兄弟たちをはじめ120名ほどの人々）

考えてみよう

- 1 彼らはひたすら祈りをしていたとありますが、何を祈っていたと思いますか。（答えの例／聖霊のバプテスマを授けられるように／5節）
- 2 なぜ彼らはひたすら祈りをしていたのでしょうか。（イエス様が聖霊のバプテスマを約束しておられたから／4、5節）
- 3 彼らはなぜ聖霊のバプテスマを求めたのでしょうか。（イエス様の救いを力強く証しすることができたため／8節）

自分当てはめてみよう

- 1 あなたは誰かと心を合わせてお祈りしたことがありますか。
- 2 あなたは聖霊に満たして下さいと祈ったことがありますか。
- 3 あなたはお母さんから祈られていますか。
- 4 あなたはお母さんのために祈ったことがありますか。



聖書 ヨハネ16・12～15
テーマ 真理の御霊

序論

(金井)

主イエスは聖霊が降られる時を切実に待つておられた。主は弟子たちにも、聖霊降臨を待つようにとお命じになった。彼らは祈り続け、待ち続けた。聖霊がいかに重要なお方であるか、その働きについて3週続けて学んでいこう。

一、聖霊は罪を示される

聖霊は三位一体の神の第三位にいます、人格を持つお方である。「神の」とも呼ばれる。聖霊は天地創造の初めから働いておられ(創世記1:2)、旧約時代にも特定の人たちに奉仕の力を与えておられた(出エジプト31:3、他)。そして、紀元30年のペンテコステ以来、聖霊はそれまでとは明らかに異なる圧倒的な力と広がりをもって、地上での働きを開始されたのである。

主イエスは宣教の日々において弟子たちに、新約時代における聖霊の働きについて、たびたび教えておられた。主イエスは彼らを宣教者として整えるために、多くの教育訓練を与えておられたが、いつもどこかしらを感じておられたようである。△わたしには、あなたがたに言うべきことがまだ多くあるが、あなたがたは今ほそれに堪えられない。けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう△と、主は言っておられる(ヨハネ16・12～13)。

聖霊が第一に示される真理は人間の罪である。

研究資料

(足立)

イエスは弟子たちに彼らが受ける迫害や、必ず直面する困難について語られた(16・1～4)。この16章でヨハネは、「憂い、悲しみ」(ルペー)ということばを4回使っている(16・6、20、21、22)。このことば(ルペー)は、本福音書において他の章にはどこにも出てこない。しかし、イエスは弟子たちが試みにあうことを伝えると同時に、彼らが受ける力の源、すなわち著しい聖霊の働きに関しても語っておられる。なお、時はイエスの十字架刑前夜で、告別説教(14・16章)の中である。

テキスト

5 **けれども今** とは、前述の内容とこれからのそれとが対照的であることを意味している。だれも「どこへ行くのか」と尋ねる者はない とは、弟子たちのことばを主が意識していたと思われる(13・36、14・5)。

6 イエスは、弟子たちの心理状態を見抜いている。弟子たちの心が悲しみや 憂い(ルペー)でいっぱいであるゆえに、彼らは主に尋ねられない。7 助け主(聖霊)の派遣に関して、イエスは既に言及しておられる(14・16～17、26、15・26)。ここでは、イエスが去ることは弟子たちの益となり、彼が去ることによって 助け主 が到来することが語られている。しかし、聖霊が降臨するためには、イエスの死、復活、昇天、父なる神の右への着座

△それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう△と主は言われた(同16・8)。罪の根本は不信仰である(同16・9)。生まれながらの人間は霊的暗黒の中にあり、自分の罪に気づかないまま△この世の君△(同16・11)であるサタンに支配されているのである。聖霊の導きによって初めて人間は自らの真相を悟る。

二、聖霊はキリストを証しされる

続いて聖霊は、罪を自覚した人に救い主キリストを証しされる。キリストが十字架の死によって人類の罪を贖われたゆえに、彼を信じる者は義と認められ、サタンの支配から解放されるのである。主イエスは△わたしは父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう△(同15・26)と言われた。また、△御霊はわたしに栄光を得させるであろう△とも言われた(同16・14)。私たちがイエスを主キリストと信じることができるのは、聖霊が私たちに働きかけてくださっているからである(1コリント12・3)。

聖霊は人間の理解を超えて△風△のように△思いのままに△働かれるが(ヨハネ3・8)、その働きは決して無軌道ではない。御霊は△わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせる△と主イエスは言われた(同16・14、15)。また、主は△助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思

を経なければならぬ。

8 イエスはここで、キリスト信仰者に対する聖霊の働きを語られたのではない。むしろ未信者に対する御霊の働きにふれておられる。世(コスモス)とは、創造主なる神に敵対する被造の秩序である。世は徹底的に墮落している。そして、そこに住む **人の目を開く** のは、聖霊なる神のみわざである。目を開く と訳された動詞(エレンコ)は、簡単に翻訳できないことばである。「その誤りを認めさせます」(新改訳)、「誤りを明らかにする」(新共同訳)、「まったく誤っていることを、はつきり示すであろう」(柳生直行訳)。聖霊なる神は、弟子たちがまったく予知できない方法で、イエスが始めた伝道を拡大する。特に神を無視している世にその **罪** を、その **義** を、その **さばき** を自覚させるのである。

9 **罪** とは、イエスを信仰しない(受け入れない)世界を構成する人々のことである。もし彼らがイエスを信仰するならば、自分たちの罪に関してイエスのメッセージを受け入れ、彼に立ち返ったであろうに。しかし、実情は自分たちの不信仰によって神に有罪宣告される(3・18、36)だけでなく、自分たちの真の必要を意志的に無視している。それゆえ、その誤りに気付かせる助け主(聖霊)のみわざは、恵みそのものである(使徒2・37)。

10 ここで言う **義** とは、イエスの十字架の死、復活、昇天、着座によって実現されるものであった。申命記21・23から見れば、たいていのユダヤ人にとって十字架の死は、神の呪いの下にあることであった(参照ガラテヤ3・13)。しかし、イ

い起させるであろう△とも言われた(ヨハネ14・26)。聖霊は、キリストに遣わされて、キリストの言葉を用いて、キリストを証しするために来られたお方である。

聖霊は、聖書記者たちに靈感を与えてその記述を守り導かれた、聖書の真の著者である(Ⅱテモテ3・16、Ⅱペテロ1・21)。通常、聖霊は聖書を用いて、聖書の中心であるキリストを証しされる(ヨハネ5・39)。

三、聖霊は私たちの内に住まわれる

さらに、聖霊は△あなたがたと共におり、またあなたがたのうちにいる△と主は言われた(同14・17)。△真理の御霊△は△助け主△として△いつまでも△共におられ(同14・16～17)、神の子たちの内にあって、その身分を証ししてくださる(ローマ8・14～16)。何と心強い味方であろう。

福音の真理は文字に表されているばかりではない。実に、真理そのものであるお方、生けるご人格そのものが私たちの内に住み、奥義を悟ることができるよう親しく教えてくださっている(1コリント2・10～16)。何という恵みだろうか！

結論

聖霊は今も働いておられる。聖霊はいつもあなたの内におられる。あなたを助けて福音の真理を悟らせ、あなたを全き救いに導いてくださる。あなたは聖霊の内なる証しを持っているか。罪を示され、主の十字架を示され、赦しときよめをいただいているか。祈りの内に、み言葉を通して、聖霊に導いていただこう。

エスの十字架の死こそ、罪を取り除く手段としての死であり、罪人が必要とし且つ成し遂げることができない神の義を成就するものであった。そしてイエスは復活、昇天により父なる神の右の座に着き、神の義が貫かれた救いを完成された。聖霊は罪人をこの義に導く。

11 **この世の君** とは悪魔のことである(12・31)。さばかれる(ケクリタイ)という動詞は完了形の受動態で、そのさばきは神による永遠性のものと言うことを意味する。イエスの十字架の死と復活は決定的な大勝利である。聖霊はこのことを明らかにされる。

13 **真理の御霊**(参照14・17)が弟子たちを **あらゆる真理に導く** とは、聖霊が教会を新しい異なる道に導くと言うことではない。イエスご自身こそ真理である(14・6)。聖霊は神の真理(聖書)が意味するところを弟子たちに悟らせる。弟子たちはイエスが地上におられたとき、しばしば主のみ言葉を十分に理解していなかった(参照2・22、11・16、12・16、13・7、14・8)。しかし真理の御霊(聖霊)は、無理解な弟子たちにイエスが語ったことばの意味を明確にされる。

14 **御霊はわたしに栄光を得させる** とあるが、聖霊は、父なる神、御子イエスに対立することは全くない。救いのみわざは三位一体の神による。聖霊はイエスとそのみわざ、そのことばを輝かす。

参考図書 Carson, D.A., The Gospel According to John, (Eerdmans), Morris, L., Reflections on the Gospel of John, (Baker).

聖書 ヨハネ16・12・15

タイトル 何がほんもの？

中心聖句 御霊はわたしに栄光を得させるであらう。

ヨハネ16・14

目標 真理の御霊の働きを知る。

導入

「ほんとうに大切なものは見えないんだよ」っていう、サン・テグジュペリ作『星の王子さま』のセリフがあります。味わい深いですね。私たちが生かされている世の中、目に見えるものがいっぱいあります。美しく奇麗で、かわいいものもたくさんあってうれしくけれど、見たくない、汚い、醜いものも、残念ながらいっぱいあります。目に見えるものだけで世の中が成り立っているわけではなく、目に見えないけれど、確かにある、大切なものもあるのです。見えないけれど最も大切なもの、それが今日学ぶ「聖霊なる神様」です。今月の終りの日曜日がペンテコステ記念日なので、今月は聖霊なる神様のことを学んでいます。ペンテコステの詳しいことは、また30日に学びますが、今から約2千年前に、イエス様が天に帰られた後、神の御霊とかキリストの霊と呼ばれる聖霊が天から注がれ、それ以来ずっと聖霊時代、教会時代が続いています。この聖霊時代はイエス様が再びこの地上に来られるその日まで続くのです。目に見えないけれど、確かに注がれ続けている御霊、真理の御霊のお働きを聖書から知って、私たちにも

働きかけてくださっている聖霊を、信仰を持って受けたいしましょう。

聖霊は罪を示される

教会に行つて先生のお話を聞いていると、「何だかこの先生、私の悪口ばかり言ってるみたい」って思ったことありませんか？ そのことは、とても不思議でもあり、また大切なことなのです。教会の先生は、聖書の言葉からお話しして下さいます。聖書の言葉と一緒に働かれるのが聖霊なる神様なのです。うす暗い中ではハンカチも白く奇麗に見えますが、太陽の光の中にかざすと、ウワーツ、こんなにも汚れている！とわかるように、私たちは自分は正しい、清いと思つていても言葉と聖霊の光に照らされると、「ウワーツ、こんなにも私つて罪に汚れていたんだ」ってわかるのです。他のどんな方法でも、人の罪を本当に示すことはできません。み言葉と聖霊の清い光に照らされて、示された罪をおわびしていきけるのです。あの愚かな「裸の王様」のことを考えてみて下さい。賢い人にしかこの立派な服は見えないのですと言われ、「うーんいい服だ」と言つて、実は裸で大通りを歩いていたのでした。聖霊の光をあてられないなら、どんな人も自分の罪や醜さがわからず、恥ずかしい姿のまま生きて、単に恥をさらすだけでなく、最後は滅びてしまうのですから、大変です！

聖霊はキリストを示される

罪を示す聖霊は、また大切な神のひとり子、私たちの救主イエス・キリストを示して下さいさるお方

です。この罪深い私に代わって十字架で死に、3日目によみがえつて、今も生きておられるキリストを示し、私たちの心に救いと新しい神の命を与えて下さるのです。そして、この救主キリストこそ、真に栄光を受けられるべき方だと示して下さいさいます。唯一の救主キリストを示して下さいさる聖霊こそ、真に目には見えませんが尊いお方です。

例話—ジョージ・ミユラー

今から200年くらい前、ドイツで男3人兄弟のまんな中で生まれたジョージくん。9才のとき、親の金を盗んで以来、お金のむだ使い、盗み、うそつきなどを平気で行うし、自分の母親が早朝2時に息を引き取ったとき、彼は友人と空き家でトランプをし、酒に酔いつぶれていました。12歳で堅信礼を受け、教会付属の学校では献金をこまかし、ついに16歳のとき、24日間牢獄入りしました。20才でハレ大学に入り、ベーターというクリスチャンと共にワグネル家の集会に出ました。そこで彼が見た光景！ ひざまずいて祈る人々！！でした。聖霊は鮮やかに彼の内に働き、罪が示され、キリストが示され、彼は新しい心の人に生まれ変わったのです！ やがてイギリスに渡つて、2千人を超える多くのみなしごの父となり、世界42ヶ国を回つて伝道旅行をし、祈る、世界のみなしごの父とされました！ 聖霊の働きにより、キリストが高く高くあがめられました。本物。それは、目に見えない聖霊が私たちに示して下さいさるものです。

ワーク A

話し方のヒント

家族やお友だちなど、私たちのまわりには皆さんの大好きな人がたくさんいますね。その人たちのことを「大事に思う気持ち」は、だれの目にも見えないけれど、とても大切なものです。でも、私たちの心の中には、神様に喜ばれない気持ちもたくさんあります。聖霊なる神様は、そのことも気づかせてくださり、私たちを救ってくださるイエス様のことも示してくださいさいます。感謝ですね。

ワークについて

絵の中の×印と○印のついているところに、それぞれ色をぬりましょう。何が見えてくるかな。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 聖霊について、ためらうことなく教えましょう。特に、今回は真理を示す働きに焦点を当てましたが、キリストの栄光をあらわすことが最大の働きです。

●質問3 聖霊と自分とのかかわりを実感しない生徒が多いかも知れませんが、罪について示され、イエス様を信じたことができたのは聖霊の働きであることを教えましょう。

ワーク C

●第1問 答えは「真理」と「御霊」です。

●第2問 真理の御霊の意味について考えます。

●第3問 御霊は私たちに罪を示し、赦しの道を教え、導く約束をくださいます。み言葉を聞きつつ味わってください。

●先生自身の救いの証しをし、その全てが自分自身の力でわかったことではなく、聖霊に導かれて出来たことであることを話してみてください。

ワーク D

●1は先週学んだ弟子たちが何をひたすら祈っていたのか想像して、話し合います。2は自分が弟子たちのひとりであつたら、何を求めるか考えてみます。

●3、4は今日の聖書箇所を読んで書き込みます。

中高校へのヒント

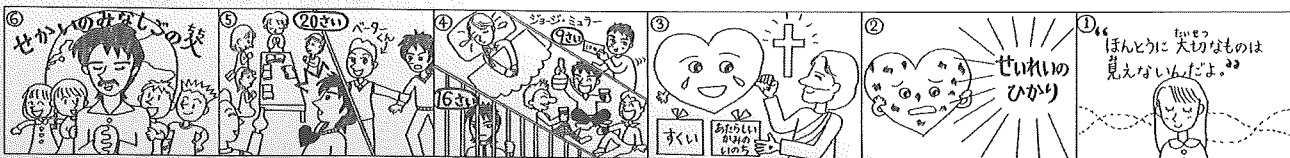
観察してみよう

- 13節で御霊（聖霊）はどんなお方だと言われているか。（あらゆる真理に導く方）
- 14節で御霊はどんなお働きをすると言われているか。（イエス様に栄光を得させる）
- 15節には三位一体の神が明らかにされているのを確認しましょう。（父、わたし、御霊）

考えてみよう

- 1 真理の御霊が来る時とは、いつのことだと思えますか。（私たちがイエス様を信じたとき）
- 2 ここで言われているあらゆる真理とは何のことだと思えますか。（福音の真理、つまり十字架と復活の意味など、救われるために必要な真理）
- 3 御霊がイエス様に栄光を得させるとはどういうことでしょうか。（イエス様がまことの救い主であることを信じさせること）

- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたは聖霊についてどういうイメージを持っていますか。思いつくまま答えてください。
- 2 聖霊とイエス様とはどういう関係にあると思いますか。
- 3 あなたは自分に聖霊のお働きが必要だと思えますか。
- 4 み言葉が自分のこととしてわかるとき、それは真理の御霊のお働きによるものですが、あなたにはそういう経験がありますか。



聖書 ガラテヤ5・16～24
テーマ 御霊の実

序論

(金井)

今回は聖霊による真理の啓示について学んだ。今回は聖霊が結ばせる聖化の実について学ぼう。

一、御霊による歩み

使徒パウロはガラテヤ(小アジアの一地方)で伝道して教会を生み出したが、後に「煽動者ども」(5・12)が教会に入り込んで、信徒に割礼を受けさせようとした。これは「律法によって義とされようとする」(5・4)律法主義への逆行である。そこでパウロは「信仰によって義とされる」(5・5)ことを信徒に再度教え、律法からの「自由」(5・1)を確保しようとした。

だが、この考えは無律法的・反律法的な生き方を招くのではないかという反論もあった。そこでパウロは「その自由を、肉の働く機会としないで、愛をもって互に仕えなさい」と論じた(5・13)。律法は選民に神の御心になつた聖なる生活を送らせるための規範であつて、それ自体は善いものである。問題は人間が生来持つている、神の御心に反する悪い性質にある。パウロはこれを「肉」と呼ぶ。律法は「違反を促す」(3・19)ばかりで、この「肉」の問題を解決できない。そこでパウロは律法に勝る新しい原理を提示する。「御霊によって歩きなさい」(5・16)。これがパウロの、否、神の出された処方箋である。

二、肉の働き

ガラテヤの信徒はキリストを信じた時に御霊を受けていた(3・2、4・6)。御霊は神の御心に従う思いと力を彼らに与える。彼らは御霊の支配する新時代に生きる自由人である。彼らが「御霊に導かれるなら、律法の下にはいない」(5・18)。けれど、彼らが「律法の下にとどまっていたと思う」(4・21)なら、彼らは再び奴隷となる。

実際、彼らの内には御霊に反する肉が働いており、支配権闘争をしていた(5・17)。「肉の働きは明白である。すなわち、不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、ねたみ、泥酔、宴樂、および、そのたぐいである」(5・19～21)。

この肉はどうしたら処理できるか。答はキリストの十字架にある。キリストが自分のために死んでくださっただけではない。「キリスト・イエスに属する者は、自分の肉を、その情と欲と共に十字架につけてしまったのである」(5・24)。これを認めよ！そうすれば肉の働きは死滅する。パウロは自らの経験を伝えた。「わたしは、神に生きるために、律法によって律法に死んだ。わたしはキリストと共に十字架につけられた」(2・19)。なぜ律法主義に戻るのか。自分に義を行う力があると過信しているからではないのか。自らの無力さ罪深さを徹底的に思い知り、己に死ぬがよい。

三、御霊の実

パウロの告白は続く、「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生

きておられるのである」(2・20)。聖霊は「御子の霊」とも呼ばれる(4・6)。御霊を受けた信徒の内にはキリストが生きておられる。しかし、ガラテヤの信徒は入信時に「大きな経験」(3・4)をしたにも関わらず、この認識が足りなかった。己が死に徹したならば、内にいますキリストの御霊は鮮やかに現れてくださる。そして、御霊はその人の人格に豊かな聖化の実を結ばせるのである。八御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、柔和、自制である(5・22～23)。

これらの徳目を当てはめて、自分は完全だと思ふ人は、よほどきよめられた人か、よほど自分が見えていない人であろう(6・3～4)。しかし、キリストは全き愛と全き聖潔を持っておられる。すべての徳目において満ちあふれる豊かさを持つておられる。キリスト者の内にはこのお方が生きておられ、豊かな実を結んでくださるのである。律法は道を示すだけで、それを進み行く力とは与えなかった。けれど、御霊はその力を与える。今や御霊の自由を生きるキリスト者によって、律法は全うされるのである(5・14、23、6・2)。

結論

御霊は今、あなたの心を完全に支配し、平和をもたらしておられるか。それとも、肉と御霊が戦つて、苦しい思いをしているのか。あなたが日々に結んでいる実はどうなるのだろうか。強がつて自分を飾る必要は無い。自分の弱さをありのままに認めて、キリストにすべてを明け渡そう。主の御霊があなたを満たし、実を結んでくださる。

研究資料

(足立)

ガラテヤ人への手紙の前半部分の強調点は、信仰のみによる義認(参照2・16、17、20～21、3・6、8、11、24、5・4～5)と考えられるが、後半部分のそれは、キリストにある自由(参照4・22～23、26、30～31、5・1、13)と判断される。キリストの十字架による救いにあずかる以前、私たちは律法にのろわれ(3・10)、律法の断罪のもとにあった(3・22～23)。しかし、キリストが私たちをそこから解放してくださった(3・13)。そこで私たちは、以前は罪の奴隷であったが(4・3、8)、今は神の子ともとされている(4・4～7)。ところが、パウロは自由について記すと同時に、この自由はたやすく失われ得るものとの注意を付け加えている。自由から束縛に逆戻りする信仰者もいる(5・1)。与えられた自由を放縱に変えてしまうキリスト者も出てくる(5・13)。そのような信仰者に対してパウロは、5・13～15でキリストにある真の自由とは、自制、隣人に対する愛の奉仕、神の律法に服従するものとしてあらわれると、強く主張している。

それでは、このような生き方はどのようにして可能なものとなるのか。それは御霊(聖霊)によってである。キリスト者のうちに住む聖霊なる神(3・2)だけが、私たち信仰者を真に自由な者として生かしてくださる。パウロがこのテーマを詳述している5・16～25には、御霊(フニーム)ということばが、7回も使われている。聖霊は私たちの肉に反対し、これを征伐して服従させる(5・

16～17)。そして、私たちの生活の中に義の実を結ばせることを可能にする(5・22～23)。したがってクリスチャンが自由を味わい楽しむのは、聖霊のお働きによる。私たち信仰者はキリストの十字架の死と復活によって罪と死と滅びから完全に救われたのであるが、この世にあって信仰者として神のきよさの中に歩むためには、聖霊による絶えざる助けが必要不可欠となる。

テキスト

22 実(カルボス)ということばは、単数形である。パウロはここで九つある御霊の実が多くの信者に均等に分担されると言っているのではないであろう。つまり各信者が実のどれかを身につけると言うことではない。むしろ、彼はひとりの信者の中に、聖霊が一連の性質をすべて生み出すことを述べているのであろう。しかも、実であつて「働き」ではない。これは人間が生み出すのではなく、聖霊なる神の果実である。

愛(アガペー)が御霊の実の先頭にある。神は愛である(1ヨハネ4・8)。また最も大いなるものは愛である(1コリント13・13)。これはキリストが私たち罪人の身代わりとして死ぬために命を与えつくした愛である。

喜びは地上の肉間的な幸せを意味しない。これは主にある喜び(ピリピ3・1、4・4)であり、神が信仰によって与えるもの(ローマ15・13、ピリピ1・25)である。

平和はキリストの完全な和解のみわざを通じて与えられるもの(コロサイ1・20)であり、神との平安である(ローマ5・1)。

寛容は忍耐、あるいは長く苦しむことを意味する。パウロは自らに対するキリストの限らない寛容を思いめぐらしている(1テモテ1・16)。

慈愛は神の恵み深い態度と罪人に対する行為を意味することはである。神の慈愛が罪人を悔い改めに導く(ローマ2・4)。

善意は定義するのが難しい。基本的な意味は、親切から生じる気前の良さと思われる。

忠実(ピステイス)は信仰を意味することばでもある(ガラテヤ2・16、20、3・2、5、7、9、11、22～26、5・5)。ここでは他者との関係における信頼や忠誠を意味すると思われる(参照1テモテ1・12、IIテモテ2・2)。

23 柔和とは、神のことばを受け入れる態度(ヤコブ1・21)であり、また過ちを犯した兄弟を回復させる姿勢であり(ガラテヤ6・1)、そして主の僕が反対する人たちを訓戒する心である(IIテモテ2・25)。

自制とは、肉の欲望に対して勝利を得る資質であり、それゆえ思いと行動において節操を保つことと密接に関係している。

聖霊が信者にもたらす以上のものもろの資質を禁止する律法は何もないと、パウロは断言している。

参考図書

J・R・W・ストット『ガラテヤ人への手紙講解』(のちのち)出版社、Boice, J. M., "Galatians", The Expositor's Bible Commentary, Vol. 10, (Zondervan), Fung, R. Y. K., The Epistle To The Galatians, Eerdmans, Morris, L., Galatians, (IVP).

聖書 ガラテヤ5・16～24
タイトル イエス様、よろしく！
中心聖句 御霊の実は愛 ガラテヤ5・22
目標 御霊の実である愛に満たされる。

導入

今年の記念すべきペンテコステ（聖霊降臨）の日曜日が、いよいよ来週に迫ってきました。その時120人ばかりのお弟子さんたちは二階座敷で、10日間お祈りをして待ったのです。私たちも、今日からだと7日間しかないけれど、私も聖霊に満たして下さいとお祈りしながら、ペンテコステの日を迎えることにしましょう。

先週は御霊の、見えないけれども本当に大切なお働きのことを学びました。今日は、御霊が私たちの心に結ばせて下さる実のことを学びます。いちじくの木にはいちじくの実がなり、ぶどうの木にはぶどうの実がなり、リンゴの木にはりんごの実がなります。当たり前です。では、イエス様を信じる私たちの心にはどんな実がなるのでしょうか？「愛」だと聖書は言います。なぜなら、神は愛だからです。神様を信じ、イエス様を心にお宿している人の心には愛の実が結ばれるのです。

肉の実

イエス様を信じてから、アレツと思うことがあるのです。私はイエス様を信じてるから、みんな

と仲良くしたい、のにできない。優しくしてあげたい、のにできない。いつも喜んで感謝していたい、のにできない。お友だちにうれしいことがあったとき、心から一緒に喜んであげたい、のにできない。ねえ、おこりんぼになつたり、一体これってどういうこと？と叫びたくなります。こんな思い、こんな心を肉の思い、肉の心、肉の人ですと聖書は教えて下さっています。肉って言うのはね、牛肉とか豚肉とかとり肉でなくて、神様に喜ばれない、神様にそむこうとする悪い思いのことだと言われます。どのようにしたら、この自分の力ではどうしてもぬぐえない肉の力から自由になるのか、どうしたら肉の自分から変えられて、イエス様のように優しい愛の人になれるのか教えて下さいます。だから、アレツ？と思うことがあっても心配しないでいいのです。聖書はすばらしいね。もちろん、神様からの愛の手紙だから。私のことを一番よく知っていて下さる神様の言葉だからです。

御霊の実

肉の自分から自由にされるステップその1。それは自分は本当に肉のかたまりだ。だめな者だ、と素直に認めることです。ステップその2。そんなだめな自分が、イエス様と一緒に十字架につけられて、もうその肉に自分は死んでしまっている、と信じていることです。パウロ先生は次のように言っています。「わたしはキリストと共に十字架につけられた。生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」（ガラテヤ2・19、20）と。イエス様、

肉の私はダメな者です。私が生きてがんばるとダメなのです。肉の私はイエス様と共に十字架につけられて死にました。だから、イエス様、よろしくお願いします。イエス様が私の内にあって生きて下さい。とこのように信仰を持ってお祈りをして、もう肉の自分でなく、イエス様に生きていただく、イエス様に何もかもやっていただくようにすることです。そのとき、御霊によってイエス様が私の内に住んで下さって、愛の実を結ばせて下さるのです。なんて不思議で素晴らしいことでしょう！ステップその3。そうして、心の内にイエス様の声を御霊に助けられて聞きながら、一歩一歩従っていくことです。これが御霊によって歩くということなのです。聖書は本当にすごいことを教えていて下さいます。このようにして心から神様を愛し、自分を愛するように隣の人を愛していく、御霊の実を豊かに結び続ける歩みができるのです。

喜びとは、愛が踊っている姿です。平和とは、愛が休んでいる姿です。寛容とは愛が忍んでいる姿です。慈愛とは、愛がそっと触れている姿です。善意とは、愛が行動している姿です。忠実とは、愛が信じている姿です。柔和とは、愛がかがみこんで助けようとしている姿です。自制とは、愛がしっかりと立っている、耐えている愛です。どの実をとつても本当に心が豊かになるものですね。これらすべての実、キリストの霊、御霊によってのみ結ばれる実です。愛の実をいっぱい結びたいですね！

ワーク A

話し方のヒント

皆さんの好きなくだものは何ですか。いろいろな形や色があつて、それぞれにおいしいですね。そして、どの木にどんなくだものができるかは決まっていますね。私たちの心の中に神様に喜ばれない「罪」があると、おこりんぼやいじわるの実ができてしまいますが、聖霊によってイエス様が心の中に住んでくだされば、御霊の実を結ぶことができます。イエス様を心にお迎えしましょう。

ワークについて

それぞれの実に彩色し、木にはり付けて壁掛けを作ります。

ワーク B

- 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
- 質問2 ガラテヤ5・22～23に挙げられている御霊の実をぬりつぶすと、「アイ（愛）」が出てきます。説教例にあるように、御霊の実は愛であり、以下に続くのは愛の様々な表れです。
- 質問3 説教例を参考にしながら、肉の自分から自由にされるステップを踏んでいきましょう。そして、イエス様に従うということについては、み言葉、良心に働きかける御声に従うことを具体的に教えましょう。

ワーク C

第1問

ガラテヤ5章19～21節、22～23節を読みながら、肉の心と御霊の実にあてはまるものを書き込んでいきましょう。み言葉の一つ一つを簡単に説明できるように準備しておいてください。書き込んだ後、子どもたちは自分の心に当てはまるものを○でかこみます。そして、ねえ、だんごとや我慢したことや親切にできたことなど、具体的な話に導きます。

●第2問 子どもたちは御霊の実を求めたいと願うと思いますが、何よりも神様ご自身がそう願っておられることを示し、そのためにイエス様によって罪赦され、自覚的に主と共に生きていくことを実践できるようにと、祈りつつ話します。

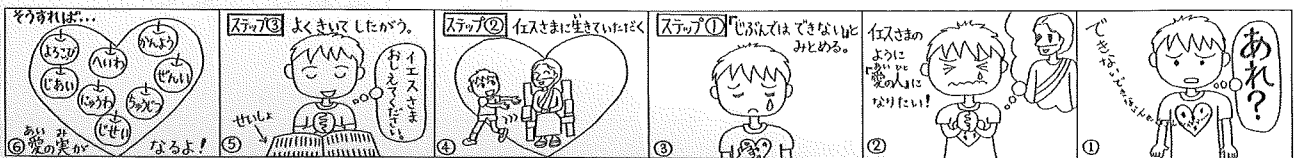
ワーク D

- 1は聖書箇所を読んで書き入れます。2は「したい」けど「できない」ことがあることを確認しましょう。子どもたちの気持ちを聞いてあげる時間はあるでしょうか？
- 3の答え（×、○、×、○、○AX）

中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 19～21節に「肉の働き」のリストがあります。が、それはいくつあるか数えてみましょう。
- 2 肉の働きを行う者はどうなると書いてあります（21節）。
- 3 22、23節に「御霊の実」はいくつありますか。考えてみよう
- 「肉の働き」は、神様から喜ばれるでしょうか。（性的な罪、偶像礼拝、敵対関係、快楽主義だから決して喜ばれない）
- 2 それはどこから出てくるものだと思いますか。（答えの例／自己中心な心から）
- 3 それはどうしたら始末することができでしょうか。（わがままな自分をイエス様の十字架につけてしまうことによって。24節）
- 4 「御霊の実」は、どうしたら結ばれるでしょうか。（自分の肉を十字架につけ、聖霊に全く支配されることによって）
- 自分に当てはめてみよう
- 1 「肉の働き」のリストに、自分に当てはまるものがあるか考えてみよう。
- 2 「御霊の実」のリストに、自分に当てはまるものがあるか考えてみよう。
- 3 あなたは肉の働きをやめたいと願いますか。
- 4 あなたは自分に御霊の実が結ばれて欲しいと願いますか。



聖書 使徒2・14～21
テーマ 聖霊に満たされて
(ペンテコステ)

序論

(金井)

本日はペンテコステ(聖霊降臨日)である。聖霊は今も私たちの内に働いて、教会を導いておられる。聖霊の働きについて続けて学んできたが、最後に聖霊による宣教について学ぼう。

一、聖霊に満たされて

主イエスは昇天される前に、弟子たちに聖霊降臨を待つようにお命じになった(1・4～5)。彼らは待ち続け、祈り続けた(1・13～14)。そして、ついに五旬節(ペンテコステ)の日に聖霊は彼らの上に降られた(2・1～3)。「すると、一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出した」(2・4)。そこに集まってきた人々は「彼らの生れ故郷の国語で、使徒たちが話しているのを、だれもかれも聞いてあっけにと取られた」(2・6)。しかし、「あの人たちは新しい酒で酔っているのだ」と言う人もいた(2・13)。そこで、**△ペテロ▽**が彼らにこの出来事について説明した(2・14)。

ペテロはガリラヤの漁師であり、「無学な、ただの人」(4・13)である。彼は敵の手に引かれていく主イエスを、3度も「知らない」と言つて裏切つた男である。そのペテロがなぜこの時、こんなに大胆に大勢のユダヤ人を前に説教ができたのか。それは、彼が「聖霊に満たされ」ていたからである(2・4)。

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」と主イエスは言われた(1・8)。ペテロの説教はこの言葉の最初の成就であり、その後の宣教の原点・モデルとなった。

二、男も女も老いも若きも

ペテロは旧約聖書のヨエル書2章28～32節を引用して、この出来事について説明した。**△神がこう仰せになる。終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。その時には、わたしの男女の僕たちにもわたしの霊を注ごう。そして彼らも預言をするであろう▽**(2・17～18)。

旧約時代には、聖霊は特別な職務を担う人たちにのみ注がれていた。けれど、新約時代にはキリストを信じる**△すべての人に▽**聖霊は注がれる。**△むすこ▽も△娘▽も△若者たち▽も△老人たち▽も△男女の僕たち▽も皆、聖霊を注がれて宣教のために大いに用いられるようになったのである。**

実際、ペンテコステの日に聖霊を注がれた人たちは老若男女、様々な種類の人たちであった(1・13～14)。彼らは自分たちが知らないはずの「いろいろの他国の言葉で語り出した」。これは聖霊による宣教の働きが、民族・国家・言語・身分・職業・性別・年齢・その他あらゆる壁を越えて「地のはてまで」広がっていくことのしるしである。

三、神の言葉を語る

聖霊降臨によって**△終りの時▽**は始まった。この時代が終わる**△主の大きいなる輝かしい日▽**が来たらば、**△そのとき、主の名を呼び求める者は、みな救われるであろう▽**(2・21)。しかし、その日は不信仰な諸国民が裁かれる「主の大きいなる恐るべき日」(ヨエル2・31)でもある。神は天変地異をしるしとし、**△血と火と立ちこめる煙とを、見せ▽て、時の到来を告知される**(使徒2・19～20)。その日が来るまでに、全世界の民に神のさばきとキリストによる救いを伝えるべく、聖霊は地上に降り、宣教を進めておられるのである。

神の宣教の御業が進められるためには、三つのものが必要である。それは、神の言葉、神の霊、神の人である。神は、旧約時代から**△幻▽△夢▽△預言▽**によって神の人に啓示をお与えになったが、この終りの時には、特に**△預言▽**をお用いになる(2・17～18)。**△預言▽**とは神の言葉を神の人が預かり、神の霊に導かれて語ることである。ペンテコステの日にペテロの宣教の言葉を受け入れて洗礼を受け、仲間に加わった者が3千人ほどあった。聖霊は今も同様に、神の言葉を大胆に伝える神の人をお用いになるであろう。

結論

あなたの伝道は魂を救い、実を結んでいるか。あなたは奉仕に疲れ、つぶやいてはいないか。私たちにはどうしても聖霊の力が必要である。聖霊を祈り求めよう。聖霊に満たされて大胆にみ言葉を語ろう。神は求める者に聖霊を与えてくださる。

研究資料

(足立)

ペンテコステ(聖霊降臨日)は、キリスト教会にとつて最も注目すべき活力ある日であった。また、世界史の中の偉大な転換点のひとつでもあった。このことを理解しないで、キリスト教会の性格と性質、またキリスト教のメッセージを正しく認識することはまったく不可能である。使徒行伝2章には、教会の働きのもとで語られた最初の説教が記録されている。これは並外れた重要性を持っている。

ペテロの説教(2・14～41)は、使徒行伝における最初の伝道説教と位置づけられる。その内容は、メシヤに関する聖書の根拠、イエスの働きへの言及、彼の死と復活の強調、そして、悔い改めへの招きで構成されている。初代教会最初の説教は、聖書が証明する要素で満ちている。説教の枠組みとして三つの大きなテキストがある。すなわちヨエル2・28～32、詩篇16・8～11、110・1。説教は大きく三つに分けられる。第一にヨエル書からの長い引用によって、その説教と聖霊に満たされたクリスチャンたちの生き生きとした状態とが結びつけられている(2・14～21)。第二に説教の中心部分では、イエスがメシヤであることを詩篇16・8～11から(焦点は彼の復活、また詩篇110・1から(彼の高挙)説き明かしている(2・22～36)。最後に悔い改めへの招きがある。すなわち、メッセージに応答する聴衆への十分な適用と、悔い改めたユダヤ人の報告が記されている(2・37～41)。

テキスト

14 1～13節に記された内容をペテロが説明する。聖霊に満たされたペテロと他の11人は、共に労している。ペテロが前面に立つて、他の11人が彼を支える姿がうかがわれる。これはかつての弟子たちとはまったく違う(参照マルコ10・35～41、14・29、ルカ22・24)。聖霊による一致のモデルである。**語りかけた(アポフセongoマイ)**という言葉は、大胆に語ることを意味し、2・4でも聖霊に満たされたクリスチャンに使われている。ユダヤの人たちと**エルサレムに住むすべてのかたがた**とは同じ集団を意味する。

15 朝の九時 は慣習としての祈りの時を意味し、字義的には第三の時、となる。当時の文化として朝食を朝十時まで取ることはなく、朝九時是一日の中でもあまりに早い時間帯なので人々は酒を飲んでいない。

16 ペテロは、ペンテコステの出来事の背後にある真の意味を説明する。すなわち、預言者ヨエルによって預言されていた聖霊降臨の成就。

17～18 ペテロはヨエル2・28～32から引用している。ヨエルの預言は、本来大量のイナゴによる疫病により土地が損なわれ、厳しい飢きんが起った後に与えられたものである。ヨエルは民の繁栄の回復を約束し、主の日の到来を予見し、聖霊がイスラエルの民すべてに注がれるとき救いの時代が始まることを語りつつ、民に悔い改めを呼びかけた。ペテロがペンテコステにこのことを適用したことは誤っていない。ヨエルはその預言を「そ

の後」と言つて始めた(ヨエル2・28)。ペテロはことさら**終わりの時には**と言及している。これは、キリストの復活によって既に救いの時代が始まったことをペテロが確信していたと考えられる。事実、私たちも神の救いの歴史にあつて、その最終部分に生かされている。ペテロは、聖霊はイスラエルの民だけでなく、終りの時代に普遍的な賜物として賦与されることを確信している。おそらく、ペンテコステの日に聖霊に満たされた120名ほどの人たちの中には**むすこ娘**が含まれ、彼らも**預言**したのである。旧約時代には王や預言者という特別な立場の者に聖霊が注がれた(サムエル上10・10、16・14、エゼキエル11・5)。しかし、ここでは年齢、聖別、社会的立場に関係なく聖霊が注がれた。

19～20 イエスが十字架にかけられた日の午後、またたく間に太陽が暗黒に変わった(マタイ27・45、マルコ15・33、ルカ23・44)。エルサレムの人々が、この超自然的光景を見てまだ七週間しかたっていないことを考えるなら、**日はゆみに**という表現は理解しにくいことではなかったであろう。21 ここはペテロにとつて最も重要な節である。この説教の文脈から言つて**主とは**、イエス・キリストのことである。誰でもキリストの御名を呼ぶ者、すなわち彼を主と告白する者は救われる。参考図書 F.F.ブルース『使徒行伝』聖書図書刊行会(Lloyd-Jones, D.M.: Authentic Christianity, (Crossway Books), Polhill, J.B., Acts, (Broadman), Williams, D.I., Acts, (Hendrickson)

聖書 使徒行伝2・14〜21
タイトル ペンテコステ、おめでとう！
中心聖句 終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。使徒行伝2・17
目標 教会の誕生を知り、今も聖霊に満たされて歩む。

導入

皆さん、ペンテコステおめでとうございます！
エ？ ペンテコステ？ ヘンテコな名前、何がおめでたいの？ って、はじめて聞くお友だちはそう思うでしょうね。教会には3つの大切なお祭りがあります。一つはクリスマス、これはイエス様の誕生のお祝い。二つめはイースター、ついこの間お祝したイエス様の復活。そして三つめが今日のペンテコステなのです。日本語に訳すと聖霊降臨、つまり、イエス様の霊、聖霊がこの地上に注がれて、教会が誕生した！ 素晴らしい記念の日です。どうしてそんなにおめでたいのかな、一体どんなことが起こったのかな、私たちは今どうすればいいのかな、さあ、聖書はどういっているでしょう？

誰の上に注がれる？

ペンテコステの日、それはイエス様の復活から50日目のできごとでした。そして、イエス様の昇天からは10日目のできごとでした。使徒行伝2・1〜13、今日の聖書の前のところに記されていますね。お祈りをしていた120人ばかりの人々の

上に、そう、マリヤさんや、ペテロさんや、他のお弟子さんたち、ひとりびとりの上に、聖霊がくだり、とどまったとあります。そうして一同は聖霊に満たされて、御霊が語らせるままに、いろいろの他国の言葉で語り出したと！ その後、今日の聖書の箇所、ペテロがエルサレムに住む人々に語り出したのが、ヨエルの預言でした。その預言によると、聖霊はすべての人に注がれるとの約束です。息子にも娘にも、若者たちにも老人たちにも、男女の僕たちにも注がれるのです。イエス様がクリスマスにこの地上にこられるまでは、特別の人だけに、特別なことのためにだけに聖霊が注がれていたのとは大違いですね。それだから、今日、私たちも聖霊に満たされることができなのです。

どんな事が起こる？

びっくりするようなことが起こりました！ まず、ペテロさんです。ほんの50日少し前のできごと、思い出しますか。イエス様が十字架につけられるため捕らえられていった時、「お前もあの人の仲間だろう？」と言われて、「いや、わたしはあの人を知らない」「知らない！」「知らない！」と三度も言ってしまった弱虫な弟子でした。ところがです。今日の聖書のところを見ると、何と、11人の弟子たちとともに、ペテロが立ち上がって、堂々と語りだしたのです。「私たちは、ヨエルの預言のように聖霊に満たされている。あなたがたが十字架で殺したナザレのイエスは神からつかわされた者で、よみがえって、今や父から約束の聖霊を受けて、私たちに注がれたのだ。今、あなたがたが見ているとおりだ」と。一体どこからそんな大

胆な力と勇気が出てきたのでしょうか？ それが聖霊の力なのです。聖霊が注がれると、弱虫な弟子が、本物の主の弟子、主の証人につくりかえられてしまします。そして、このペテロが人々に、「悔い改めなさい、罪のゆるしのバプテスマと、聖霊の賜物を受けなさい」と勧めたとき、その日、実に3千人もの人々がバプテスマを受け、仲間に加わり、はじめの教会が誕生しました。聖霊の力は何て素晴らしいものでしょう！ そのときだけではありません。その日以来、ずっと聖霊は注がれつづけていて、弱虫な弟子たちを本物につくりかえ、全世界にキリストの教会を生み出しつづけているのです。

聖霊がこの地上に注がれた！ ペンテコステ記念日、何てうれしくおめでたい日なのでしょう！ 神様に心から感謝して、礼拝をささげましょう。そして、私たちも今日「ペテロさんや他のお弟子さんたちのように、聖霊に満たしてください」と祈りましょう。あなたはお友だちに、「教会学校に行ってるよ、君も行かない？」って言える子ども？ それとも、とても恥ずかしくてそんなこと言えないと思っている子ども？ 教会で本心に心安らぐ所、罪赦されて神様と共に歩む道を教えてもらえる所、そんな教会がこの地上に誕生し、現在、私たちもその教会に毎週、あるいは週に2回とか、通うことができ、何てうれしく感謝なことなのでしょう。聖霊に満たされて、イキイキ、ピチピチ、キラキラ輝いて、イエス様のこと教会のことを伝えましょう！

ワーク A

話し方のヒント

だれにでもお誕生日がありますね。皆さんのお誕生日はいつでしょう。世界で最初の教会は、ペンテコステの日、多くの人たちに聖霊が注がれて誕生しました。イエス様の弟子のペテロさんも聖霊を受けてから、恐れずにイエス様のことをみんなに伝えることができるようになりました。私たちも「聖霊に満たしてください」とお祈りしましょう。そして、イエス様を伝えましょう。

ワークについて

ハトの絵を切り抜き、紙皿にはって、状差しを作ります。

ワーク B

- 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。
- 質問2 使徒2・1〜4、37〜42から、聖霊が降り、教会が誕生するまでのペンテコステの出来事を把握するための質問です。
- 質問3 使徒たちの働きの秘訣は聖霊でした。主は今の私たちにも、信じるすべての人に聖霊を与え、満たそうとしておられます。ペンテコステのときから今にいたるまで、聖霊は祈りの答えとして与えられます（ルカ11・13）。家族や友達にイエス様のことを伝えたり、教会にさそうことを励まし、共に祈りましょう。

ワーク C

第2問 神様は、聖霊をすべての人に与えたいと思っておられます。「わたし」の上にも注がれることに気づき「わたし」のところに自分の顔を書きましょう。

●第3問 聖霊が注がれたパウロが変わり、伝道する者となり、人々が救われて教会が始まりました。この流れも確認してください。「聖霊が注がれる」とイエス様のことを伝える人に変えられるんだね」と感動をもって伝えてください。

●第4問 聖霊が注がれることのすばらしさを確認し、聖霊の注ぎを祈り求める者とされたいです。子どもたちはいろいろな願いを持っているので、聖霊によって変えられたいところを見つけ出し、祈り求める者となりましょう。

ワーク D

- 1は全て〇です。内容を把握して、更に聖書で確認するのが目的です。ペンテコステの日に、何が起こったかを知ると共に、子どもの感想も聞いて見ましょう。この時間に当時の様子を深く心に残すことで、次の質問にも移りやすいでしょう。
- 予想の枠を超えた話が出て良いものではないでしょうか？ 今集まっているみんなの上に、本当に聖霊が注がれたら、私たちの予想を超えるものではないでしょうか？ 予想のつかない時はそのまま受け止めた上で、聖霊を求めて祈りましょう。

中高科へのヒント

観察してみよう

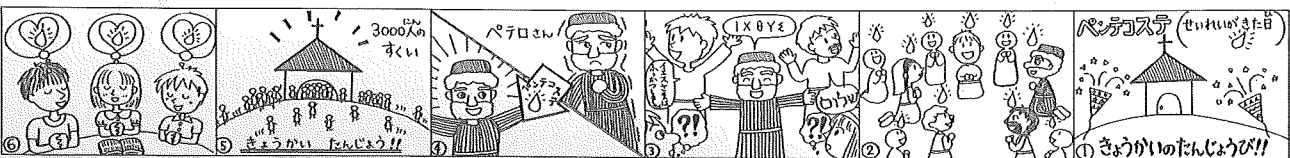
- 1 この説教は、誰が誰に向かってしたものでしょうか。（ペテロが集まってきた群衆に対して）
- 2 ヨエルの預言が引用されているので、そこを開いてみましょう（ヨエル書2・28〜32）。
- 3 この説教の結果はどうだったでしょうか。（41節／3千人が主を信じてバプテスマを受けた）

考えてみよう

- 1 17節の「終わりの時」とはいつのことでしょうか。（聖霊が降ってからの時代。現在も含む）
- 2 「わたしの霊とは、何のことでしょうか。（聖霊、キリストの霊のこと）
- 3 聖霊は特別な人にだけ注がれるのでしょうか。（救われた人が信じて求めれば誰にでも）
- 3 ペテロは群衆に向かって大胆に説教をしています。その力はどこから来たのでしょうか。（聖霊に満たされたことによる）

自分に当てはめてみよう

- 1 「すべての人」には、あなたのことが入っているでしょうか。
- 2 あなたも弟子たちのように聖霊に満たされたいと願いますか。
- 3 あなたも聖霊に満たしていただけたと思いますか。
- 4 あなたも今日、わたしを聖霊に満たしてくださいと祈りませんか。



聖書 創世記1・1～5 テーマ 天地創造

序論

(金井)

△はじめに神は天と地とを創造された▽ (創世記1:1)。聖書はこの一節から始まる。天地創造は聖書全体の基礎を成す重要な真理である。今週から天地を創造された神について学んでいこう。

一、神とは

世界には神と呼ばれるものが無数にある。「聖書が教える創造主を神と翻訳したせいで、日本語の神概念が狂ってしまった」と苦言を呈する学者がおり、キリスト教界にも他の言葉に訳せば良かったという意見がある。しかし、△神▽と訳されているヘブライ語聖書の原語「エロヒム」は、もともと多神教の「神々」を意味している。創造主である神は、その語を用いて御自身を啓示された。偶像に満ちた世界のただ中で「わたしのほかに神はない」と言われるのである (イザヤ44・6)。

神は△はじめ▽から存在された。天と地、すなわち時間・空間・物質、また、霊的存在を含めたあらゆるものが存在する前から存在されたお方を聖書は神と定義する。モーセが神の名を尋ねた時に、神は「わたしは、有って有る者」とお答えになった (出エジプト3・14)。「主 (YHWH・ヤハウェ)」という固有名詞はこれに由来する。神は永遠の自存者、不変不滅の絶対的存在である。

二、神が天地を創造された

聖書は明言する、神が△天と地とを創造された▽

研究資料

(長田)

天地創造の神

「はじめに神は天と地とを創造された」 (創世記1・1)。旧新約聖書66巻の始まりは、神による天地創造である。また、聖書に記されている神は、常に天地創造の神として啓示されている (イザヤ42・5、45・18、詩篇8・3、148・1～5、使徒17・24、黙示録4・11)。「目を高くあげて、だれがこれらのものを創造したかを見よ」 (イザヤ40・26)。私たちは、神を知らない人々に対して、まず天地万物を創造された生けるまことの神を証ししていかなければならない。

「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす」 (詩篇19・1)。「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである」 (ローマ1・20)とあるように、本来、見事に創造された天地万物のあり様を見るときに、創造主なる神を認め、その全知全能の御力を悟ることは容易なことのはずであるが、多くの人々は、その罪ある性質のゆえに、神を認めることができない。その結果、神のもとで生きるとき与えられるはずの感謝と賛美、命と光は失われ、空虚と暗黒が人々の心を覆っている (ローマ1・21)。創造者なる神を認めないことが大きな罪であることは、聖霊の働きによつて初めて悟りえるのである (ヨハネ16・8)。すべての宣教のわざに、祈りが必要とされるゆえんである。

のだと。世界には、天地万物は神から流出した神の分身であると教える宗教や、人間は神から生まれた神の子孫であると教える宗教もあるが、聖書はこのような考えを否定する。創造主と被造物の相違は絶対的なものである。

現代では多くの人が唯物論的な無神論を受け入れている。これも聖書の真理に反する思想である。創造主なる神の存在を抜きにして、この世界の存在を説明できるだろうか。たとえば、ここに一枚の紙と一本の鉛筆があるとすると、これらが誰の手も借りずに勝手に動き出して、美しい絵を描くということがあり得るだろうか。動物や植物や人間をよく見てみよう。なんと精巧にデザインされていることか！人間は皆、30億個の文字で書かれたDNAという設計図を持っている。この精密な設計図が偶然自然に書かれたなどと考えられるだろうか。恐るべき知性と力を持つ創造主を認めることこそ理にかなっているのである。

真理を決定するのは科学だけだと考える人も多いが、科学の有効性は人間が経験的に確かめることのできる範囲に限定される。しかし、神の啓示はこの範囲を超えている。私たちはたとえ科学に通じていなくても、聖書の教えが真理であることを堂々と主張してよい。自然を真剣に研究する科学者の中にも、創造主を信じる人が大勢いる。

三、神は世界を支配される

天地創造の真理は、現代を生きる私たちの人生にも大きく関わっている。創造主なる神は、今も主権をもって天地を支配しておられるのである。最初、△地は形なく、むなしく、やみが淵のお

テキスト

1 はじめに神は天と地とを創造された 「はじめに」との言葉は、原語においても最初に置かれている。すべての始まりが神による天地創造であることが強調されている。天地万物の起源が、神による創造であるならば、人間が知らなければならぬ第一のことは、この神を知ることであるはずである。「主をおそれることは知識のはじめである」 (箴言1・7)。

2 地は形なく、むなしく 新改訳聖書改訂第3版では、「地は茫漠として何もなかった」と訳されている。始めに神が創造されたという地には、現在のような動植物が何もない状態であって、そのような地に対して、神の創造のみわがが進められていく。神の霊が水のおもてをおおっていた 神の創造のみわがは、聖霊の働きの中で行われていく。めんどりがひなをかえすために、おなかの下で卵を温め続けるように、神の霊が創造のみわがを進めていくために働き始めていた。

3 光あれ 「やみが淵のおもてにあり」 (2節) との状態で、光が創造された。人々の心の中を闇が覆っているときにも、彼らに対する神の最初ののみわがは、内に光を差し込ませることである (II コリント4・6)。

…とされた。すると光があった。 神の創造のみわがは、言葉による創造であった。神のみ言葉こそが、無から有を生み出す力を持つ (イザヤ55・11)。このことは、創造のみわがが、「言 (ことば)」と呼ばれる御子を通して行われたことを示唆する

もてにあり、神の霊が水のおもてをおおっていた▽ (創世記1・2)。神は△光とやみ▽△おおぞらの下の水とおおぞらの上の水▽△昼と夜▽を△分け▽て、秩序ある世界を形成された (創世記1・4、6、7、14、18)。神は秩序を愛するお方である (I コリント14・33)。

△神は…言われた▽ (創世記1・3、6、9、11、14、20、22、24、26、28、29)。神は言葉によつてこの世界を形成された。天地万物は今も神が定められた合理的な法則によつて保たれている (詩篇147・15～18、II ペテロ3・7)。

神は△種類に△したがって▽植物と動物を創造された (創世記1・11、12、21、24、25)。一つの種から別の種が生じ、下等生物が高等生物へと進化したという仮説には明らかな証拠が無い。神は種という秩序をもつて生物を造られたのである。

△神は…見て、良しとされた▽ (創世記1・4、10、12、18、21、25)。人間を造った後に神が世界を「見られたところ、それは、はなはだ良かった」 (創世記1・31)。この世界は美しい。神は特に人間のために最良の環境を用意してくださった (使徒14・17)。創造主を畏れ、み言葉に従い、みわがを讃えることこそ私たちにふさわしい。

結論

広大な宇宙を創造し、美しい地球を形造つて、私たちに命を与えてくださった神は、なんと偉大なお方だろう。創造主に代えて被造物を拝んだり、このお方を無視して生きることが甚だしい冒とくである。神を畏れない人々に創造の真理を伝えよう。日本が創造主を畏れる国に変わるよう祈ろう。

ことでもある (ヨハネ1・1～3、ヘブル1・2)。

4 神はその光を見て、良しとされた 神の6日間の創造の中で、「良しとされた」との言葉が繰り返される (10、12、18、21、25、31節)。神のみわがは常にすばらしく、ほめたたえずにはおられないものである。

5 タとなり、また朝となった。第一日である。 神の創造のみわがは、順序正しく、ご計画に従ってなされた。

例話 アイザック・ニュートン (1642～1727) は、神を信じていた。「私は月や星の観察をとおし、偉大な創造者なる神の存在を認めざるをえなかった。」

あるとき、「自分は無神論だと言いだした友人は、神による宇宙創造を信じるニュートンをあざわらった。それから数カ月してその友人が再びニュートンを訪れてきた。「やあ、これはすばらしい天体模型だね。だれが作ったんだい。」「なあに、大したことはいさ。自然にできてここにあってただけなんだから。」「アイザック、君はほくをからかっているのかい。これだけのものが自然にできるわけがないだろう。」「そうだ、君のいうとおりだよ。わずかこれだけの物でさえたれかが意志と目的をもつて心をこめて作ったんだ。君は以前、この世は自然にできたと意地をはっていたが、宇宙の秩序正しい運行を見たら、とてもこんな模型どころではないではないか。」

(藤井康男『キリスト教例話事典』CD-ROM版より要約)

聖書 創世記1・1～5
タイトル 神様がわかるでしょ
中心聖句 はじめに神は天と地とを創造された。
目 標 神が愛をもって、この天と地すべてを創造されたことを知る。

導入

ピカピカの一年生のお友だちも、お兄さんやお姉さんたちも、新しい学年が2ヶ月過ぎました。学校は楽しいですか？春の季節からだんだんと、夏が近くなってきました。5月や6月はきれいな花がいっぱい咲いたり、新しい木の芽や葉っぱがみずみずしく、すがすがしく輝く、すばらしい季節ですね。きれいな空や、白い雲や、山々を眺めると、心がとっても広くなってきました。こんな美しい自然、空には太陽、夜は月、星、地には数えきれない多くの動物や、植物、そして世界の人々：一体、誰がつくったのだろうか？と思わずにはいられません。

誰がつくったの？

いや、この世界はね、偶然にできたんだよ、とか、人間はもととアメーバーだったんだよ、とか、神様なんかいるはずないよ、人間こそすべてだ、科学こそがすべてだと言う人たちもいます。あるひとりの無神論者が、ひとりのクリスチャンの家を訪れました。そのクリスチャンは、すごく

よくできた素敵な家の模型を組立て終わったところでした。神様なんかいない、この世界は偶然にできたと思わなかった。この無神論者は思わず感嘆の声をあげて叫びました。「すごいねえ！この家、君が作ったんだよね！」するとクリスチャンは答えました。「いや、これはね偶然にできたんだよ。」「え！？そんなことないだろう？」「いや、偶然だよ」「そんなバカなことありつこない！君が作ったにきまつてる！」「そうだよ、この世界も同じことじゃないか。偶然にできたのでは決まてないんだよ。誰かがつくられた。そう、こんなにも完璧に、精巧に、秩序正しく、その上に美しくできているこの世界も誰かがつくられた、これらを神様が造られたと、僕は固く信じているわけさ」。

どうやってつくったの？

みんなは工作って好きですか？紙とか木片、発砲スチロールとか牛乳パックとかを使って、ロボットや動物、郵便受けなどを作るとは楽しいですね。作る喜びは大きいですよ。でも、もし何の材料もなくて、「ハイ、工作しましょう」と言われたら、「ムリだよ、何もできないよ」とお手上げです。ところがです。なんと、神様は、何もなしのところから、何の材料も使わないで、このうるわしく、力強く、すばらしい万物を造り出したのです。「エーッ？」ってびっくりしてしまいましたよね。だから、神様はまさに創造の神様なのです。何にもないところから、すべてを造りになりました。一体、どうやって？かたちなく、むなく、やみが淵のおもてにあつて、神の霊が水の

おもてをおおっていた、そんな地に向かって、神様は「光あれ」と言われました。するとどうでしょう！光ができました。そのようにして一日目がはじまりました。神様は「ことば」をもって次々と天と地にあるすべてのものを創造していかれたのです。この天と地にあるすべてのものの、ひとつひとつは神様が「ことば」によって造り出したものなのです。だから美しいのです。神様が造られた花も木々も草も、すべて造り主である神様のおっしゃるとおりになっているので、美しく輝き神様の栄光をあらわしています。そして、今も「ことば」をもって天体すべて、万物を保っておられます。（ヘブル1・3）だから、太陽が地球に近づきすぎて、私たちがやけどをしったりしないのです！

例話・新島襄先生

幕末の頃、北海道のある回船問屋で、ひとりの青年が中国語の聖書を開いていました。江戸のすぐそばまでやって来た「黒船」を見て、彼らの文明に驚かされた青年武士は、日本の国を強くするため、彼らの科学と技術を学ぶために国禁をおかしてでも渡米しようと決心し、アメリカ行きの船に乗り込むため北海道に渡り、船を待つ間に聖書を開いたのです。なんと、その第一ページが彼の目に飛び込みました。「はじめに神は天と地とを創造された」。彼は技術でなく、この真理を学ぶためにアメリカに行き、クリスチャンとなり、同志社大学を創設したのです。美しい天地万物を見るとき、「神様がわかるでしょ」と歌いたくなります。（出典「友よ歌おう4番」）

ワーク A

6月6日 27日の聖句 創世記1・1

話し方のヒント

● 皆さんはもう、幼稚園や保育園で遠足に行きましたか。広い野原や大きなお空を見ながら深呼吸すると、とても気持ちがいいですね。お空の太陽や月や星、いろいろな動物や草花、そして、私たち人間も、すべてお造りになった神様って本当にすばらしいお方ですね。

ワークについて

● 神様がお造りになった世界は、最初はどのような景色だったでしょうか。みんなで話し合いながら、その場面を作ってみましょう。

ワーク B

● 質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

● 質問2 簡単な質問ですが、子どもは何でも信じてしまう面を持っていますので、はっきりと違いを教え、人間が造った神を信じるのがどんなに愚かなことであるかを教えましょう。

● 質問3 自分が目的を持って神に造られたことを知ることは、とても大切です。進化論が当たり前のように教えられています、偶然の産物であるならば、人生のほんとうの目的を見出すことができず、自分の好きなように生きてしまいます。

ワーク C

● 第2問 必ず、自分が入っている絵をかくように導いてください。しかし、最初から言わず、最後まで自分をかかなかった時、助言してください。

● 第5問 少し難しい質問です。正解は無いかもしれませんが。子ども達の発想に、彼らの神観が垣間見られることでしょう。自由に話し合ってください。

● 第6問 「すごい」などの答えで終わらせず、「どうすごいか」などと質問し、その神様を「礼拝したい」とか、「本当の神様って感じがする」などと思うように導けるといいですね。

ワーク D

● ワークとペンを持って、今日は外へ出かけます。あらかじめ教会のまわりで適当な場所を選んでおいてください。

● 1はできるだけたくさん見つけて書きましよう。1が書き終わったら教会に帰って2、3をやります。

● 創造主なる神を知って信じていることができますように。

中高科へのヒント

観察してみよう

1 この世界は誰が造ったと書いてありますか。（ただひとりのまことの神がお造りになった）
2 この世界はどのようにして出来たと書いてありますか。（神が言葉を出されたことによつて造られたものの順番をあげてみよう。（光、大空、陸と海、植物、天体、魚と鳥、動物、人間）
● 考えてみよう

1 神の言葉にはどういう力があるでしょうか。（答える例／あらゆる物質や生き物を何もなしのところから創造する力）
2 でき上がった世界を神様はどうご覧になったでしょうか。（非常によいもの、完全なもの／31節）

3 なぜ人間が最後に造られていると思いますか。（神様にとっていちばん大切な人間が生存できる環境を整えるため）

4 なぜ人間の命は大切なのでしょう。（神のうちに造られているから／27節）

● 自分に当てはめてみよう
1 あなたは聖書に書かれているとおり、神様がこの世界を造られたことを信じますか。
2 自然の美しさや精巧さを見て、それらを造られた神様をほめたえたいことがありますか。
3 あなたは神様によって生かされていることを感謝していますか。



聖書 マタイ6・25～34
テーマ 野の花

序論

(鎌野)

毎年6月第2日曜を「花の日」として守り、公共施設や福祉施設に花をもっていく教会も多くあることだろう。その起源については研究資料を参照されたい。先週学んだように、神は天地を創造された。花も鳥も人間も、このお方によって造られたのである。この関連で今週と来週は、山上の垂訓から主イエスの実践的な教えを学びたい。

今週の箇所で、主イエスは、この世界にあるすべてのものを創造された父なる神は、それらすべてを今も愛をもって支えておられることを教えようとされている。主は、人々がすわっている所のそばに咲いている花を指し示し、また空を飛ぶ鳥を指さしながら、△思いわずらうな▽と5度も繰り返された。鳥や花を通して、思いわずらわなくてよい理由を示されたのである。

一、養ってくださる神

この時、主の話を聞いていた人々の多くは貧しかった。彼らはその日の食物を得るのに苦労していた。そんな彼らに、主は△空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていてくださる▽と仰せられたのである。鳥であつても、何もしていないわけではない。彼らも虫を追い、木の実をついばむ。しかし、人間のように食料をたくわえようとはしない。一日

一日、精一杯生きている。それは、その日に必要なものを、神が与えておられるからだ。

重要なのは、思いわずらわなくても神が養ってくださる、との信仰である。主は、△あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか▽と、父なる神が人間を鳥よりもっと愛してくださっていることを宣言された。私たちがこの地上に誕生させてくださった神は、一人一人にふさわしい寿命を与えてくださり、その間、ちゃんと生きていけるように養っていてくださる。そう信じるなら、思いわずらわずに生きていけるのである。

二、装ってくださる神

多くの人々はまた、粗末な着物しか着ていなかった。そんな彼らに、主は△野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい▽と仰せられた。今日、だれかが持ってきた花を一輪 注意して見てみよう。何と美しいことか。人間が造った色ではない。それはまさに神様によって造られたのだ。△きようは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたに、それ以上よくしてくだらないはずがあるか▽との主の言葉を聞いたとき、彼らはきつと喜びに満ちたに違いない。

私たちは、野に咲く花をただ漫然と見るだけで終っている。しかし、その花が神によって創造され、神の愛によって美しく咲いていることに気づくなら、見方が変わるはずだ。神は、この花にさえ心をかけてくださっている。いわんや、この私を無視されることはない。そのことがわかるとき、

私たちは何を着ようかと思わずらわなくなるのである。

三、すべてを与えてくださる神

神を認めようとしなない△異邦人▽は、自分の力で食物や着物を得ようとする。しかし、神の選びの民であるなら、そんなことを心配してはならない。△あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである▽。父親なら、子どもに必要なものが何かを知っているはずだ。だから、△まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられる▽。

鳥や花を創造された神は、今も彼らを養い、装っていてくださる。同様に、私たちに命を与えてくださった父なる神は、それを維持するために必要なものはすべて与えてくださるのだ。きよう一日生きていけるなら、それで感謝しよう。あすはまた、主が生かしてくださる。△だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう▽。

結論

光と熱を与え、すべてのものを生かす太陽は、今日も空に輝いている。また、動植物になくはない水も、天から降ってくる。この自然界は神が愛をもって支えてくださっているのだ。一輪の花にこの神の愛を感じ取る。そして、お花を届ける方々にも、この神の愛を知っていたらこう。「花の日」は、神の愛を示す日である。

研究資料

(長田)

思い煩いからの解放

山上の説教において、キリストは弟子たちに本物の信仰者のあり方を教えられる。神の御前での歩みの中から、偽善、富への執着、人を裁く心などを取り除くようにと語られる中、思い煩いをも捨てるようにと命じておられる。思い煩いが、本来あるべき信仰者の生き方をゆがめ、その力をそいでしまうからである。

「思い煩い」と訳される言葉は、「メリムナオー」で、語源的には「心を分ける」との意味。思い煩いが心に入るとき、神様に向かって集中しているべき心が、いくつにも分かれてしまうのである。思い煩いから解放されるためには、①思い煩いの無益を知ること(27節)、②顧みていて下さる神様を覚えること(26、30、32、33節)、③心配事を神に持っていく、信仰をもってお委ねすることである(ピリピ4・6、1ペテロ5・7)。

花の日(子どもの日)

19世紀、アメリカの教会の中から、児童を信仰に導くことを目的として子どもの日が設けられるようになった。やがて、その日に児童が花で会堂をかざったり特別の行事を持ったりするようになり、それが花の日とも呼ばれるようになったもの。

テキスト

25 何を食べようか、何を飲もうか…何を着ようか 衣食に関して十分なものが与えられるように

仕事をしたり、計画を立てたりすることを否定しておられるのではない。なすべき事、できる事をした上で、それ以上に思い煩い、心配を重ねることとはやめなさいとの意。

命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか 私たちに命を与え、からだを与えて下さったお方が、それらに必要な一切のものをも備えて下さらないことがありえようか。

26 空の鳥を見るがよい 心配の種にばかり目を向けているなら、思い煩いの泥沼から抜け出すことはできない。山上での説教中、弟子たちの目に映っていたであろう空の鳥、野の花を通して、彼らの目を天の父なる神に向けさせておられる。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない 当時の人々が糧を得るために最も一般的に行っていた仕事。

天の父は彼らを養っていて下さる 信仰の目を開いてこの事実を見よ。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか マタイ10・31参照。

27 寿命 「身長」とも訳される。いずれも思い煩いによって長くされることはない。

28 野の花 新改訳で「野のゆり」と訳されているが、具体的にどの花をさすのかは明らかでない。パレスチナ地方に一般的に咲いていた花であろう。働きもせず、紡ぎもしない 人間が着物を得るためにすることを何一つしていない。

栄華をきわめた時のソロモンでさえ 人のわざによる美は、神が自然界に備えておられる美に到底追いつかない。

30 きようは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ 野の草のはかなさは、聖書中何度も言及される(イザヤ40・8等)。ところが、そのような野の草でさえ、これほどに神が装って下さっているのを見て、私たちの着る物についても神が心にかけていて下さるとの信仰が励まされるべきである。

ああ、信仰の薄い者たちよ 思い煩いの根本にあるものは、神への信仰の浅薄さ。

31 だから、思いわずらうな これらのことを思いめぐらして、思い煩うことをやめよ。

32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである 神を知らない者がこれらのものを切に求めるのは当然であつても、神を知る者が同じようであつてはならない。

あなたがたの天の父 父であられるお方が、子らの衣食について心にかけるのは当然。

必要であることをご存知である 神がそれらの必要をご存知でないかのように心配してはならない。

33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば… 私たちの日々の第一の関心事が、神ご自身とその御心に置かれるべきことを教えておられる。衣食の問題で思い煩って、神様のことがおぼろげにされてはならない。第一にすべきことを第一にしていくならば、神が責任を持つてすべての必要を満たして下さる。

34 あすのことは、あす自身が思いわずらうであろう 心配しても仕方のない先々のことまで心配する者に、その愚かさを教えておられる。

聖書 マタイ6・25〜34
 タイトル 愛の花、届けよう
 中心聖句 野の花がどうして育っているか、
 考えて見るがよい。マタイ6・28
 目 標 野の花をつくり育てる神様の愛を
 人々に届けよう。

導入

「心配性」のお友だちはいませんか？皆さんのまわりに、もしかしたら「心配性」のお兄さんやお姉さん、おじさんやおばさん、いや、うちのお母さんがそうなの！と言う人がいるかしら？元氣な人だって、いろいろ心配してしまうのですから、ましてや病気の人は心に不安や、心配や、恐れをきつと持っていると思います。さあ、今日は、「花の日」。そのような人々に少しでも、「大丈夫ですよ！」「って愛の花をお届けできたら、神様も喜んでくださるにちがいありません。じゃ、まず、私たちが、「あ、本当に大丈夫、心配しなくてもいいんだ」と心に深く刻むことにしましょう。

空の鳥をこらん！

神様が造られた小高い山の上で、イエス様が人々にお話されました。まず、みんなの頭の上で、チ、チ、チと鳴きながら飛んでいく空の鳥をさして、イエス様が言われます。「空の鳥をこらんさい！私たちが人間がするように、まいたり、刈ったり、

倉に取り入れたりはしません。それなのにあなたがたの天の父、愛なる神様がちゃんと養ってくださるのです。あなたがたは鳥たちよりもすぐれた者なのだから、必ず養ってくださいます」と。そのとき、お話を聞いていた人々は、その日の食物を得るのに大変苦勞していた貧しい人々だったので、とても励まされて愛なる天の父を感謝の気持ちで仰いだことでしょう。

野の花をこらん！

そのとき、イエス様と人々のすわっていた所にはどんなお花が咲いていたのでしょうか？赤いアネモネかな？オレンジやイエローのポピーかな？みんなは今までとちがつた眼でもって、そのとき風にそよぐ美しい花々に注目したことでしょう。「ああ、何てきれい！」と思いがたら、イエス様は言われます、「これらの野の花がどうして育っているかよく考えてみなさい。きょうは生えていて、あすは畑に投げ入れられてしまうような花たちも、これほどにも美しく装ってくださるのだから、あなたがたにそれ以上よくしてくださらないはずはありません」と。質素な着物を着ていた人々は、このイエス様のお言葉を聞いてとっても慰められ、喜びに包まれたことでしょう。今日、ここに集められているお花は、どんなお花かな？アジサイ、今はその季節！ばら、ゆり、ゆりでもいろいろな種類、矢車草、つりがね草、もしかしてひまわり！ほかにもいっぱい、いっぱい種類がお花にはあります。形はどうですか？花びらが6枚のや4枚のや無数のや。色はどうですか？赤、黄、ピンク、

ブルー、紫、白、オレンジ、フリフリやまだらのや、それに香りはどうですか？本当によい香り、すごいことですね！神様はこんなにも美しいお花たちを愛をもってデザインされ、造ってくださって、私たちの心に深い慰めと、励ましを与えてくださいます。お花ひとつひとつに神様の愛が込められているように、私たちひとりひとりにはみんなちがうけど、神様が愛をこめて造ってくださった傑作品なのです。うれしいですね。私たちひとりひとり、お花にたとえと、どんなお花かしら？と考えると、とっても楽しいと思います。

天の父をこらん！

皆さんのお父さんは、皆さんが困っていたら、すぐ助けてくれるでしょうか？本当に必要なものがあつたら、きつと備えてくれるでしょうか？そのように、天のお父様も、私たちが一日一日、何が必要なのかちゃんと知っていてくださって、必要なものを与え続けてくださいます。空の鳥を造り、今も養われる神様、野の花を造り、今もこんなに輝かしく装ってくださる神様は、私たちに必要な食べ物、飲み物、着る物、みーんな必要な分だけ、必要なときに与えてくださいます。だから、この神様を一番にして、聖書を読んで、お祈りして、教会学校に励んでいたら、何にも心配することはありません。全部、一番大事な命に添えて与えてくださるからです。本当に安心しますよね。さあ、天の父のこの深い愛を美しく写し出して、お花に感謝と喜びをもってお届けしよう！

ワーク A

話し方のヒント

イエス様は、会堂の中だけでなく、ある時は山の上でも多くの人々にお話をなさいました。お空の鳥を見ても、野原に咲いているお花を見ても、神様の恵みを知ることができるのですね。神様はみんなに必要なものもよく知っておられるので、私たちは何も心配する必要がありません。私たちのことを考えてくださる神様に感謝し、このお方を第一としていきましょう。

ワークについて

いつもお世話になっている人たちへの感謝の気持ちをお届けするために、カードを作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 神様は、人間を空の鳥や、野の花より私たちが「はるかにすぐれた者」(26)と見てくださっています。ですから「それ以上によくして」くださる(30)のです。

●質問3 心配事のある生徒には、それを具体的に書き表してもらい、そのことを神様に、話すようにしましょう。一緒に祈ってあげましょう。神様はすでにご存じですが、祈り求めることを願っておられ、それによって平安が与えられます(ピリピ4・6、7)。

ワーク C

●子どもたちは、何も考えていないようで、実は3、4年ともなると色々と考えて悩んでいます。その心配はイエス様にお任せすれば解決されることを知ってほしいです。野の花と手鏡を用意します。

●第2問 野の花を見て、できるだけ詳しくかきます。その花が成長するために必要なものをかき、それを与えておられるイエス様をかきます。

●第3問 自分の顔をよく見てかきます。自分の成長に必要なものを考えてかき、イエス様と与えてくださると思うものに印をつけます。必要なものは、目に見えるものも目に見えないものも、いっばい出てくるでしょう。余白にどんなにかいてください。

ワーク D

●心配ことは人に知られたくない場合があるので、1の質問は各自で書いてもらいましょう。書いてみることで、神様に知っていたく一歩にならなideしょうか？

●2では自分の心配ごとを気にかけてくれる人がいることを思い起こします。これは、互いに発表しても良いと思います。誰もいないと感じている人がいたら、とても孤独で寂しいのかも知れません。●3は今日の聖書箇所から選びますが、他の箇所を知っていてそこを選ぶお友だちがいてもかまいません。

中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 ここで神様のことはなんと呼ばれていますか。(26、32節/天の父)
- 2 「思いわずらうな」という言葉が、何回出てくるか数えてみよう。
- 3 必要なものを与えられる秘訣は何ですか。(33節/まず神の国と神の義とを求めること)

考えてみよう

- 1 32節の「異邦人」とはどういう人のことでしょうか。(答えの例/まことの神を知らないで、目に見えるものだけを追い求める人)
 - 2 「神の国と神の義とを求め」とはどういうことでしょうか。(神様と正しい関係を持ち続けること。神様のことを第一に考えること)
 - 3 なぜ思いわずらう必要がないのでしょうか。(32節/神様が私たちの必要を全部ご存知だから)
 - 4 思いわずらひはどうしたらなくなるのでしょうか。(33節/神様に信頼して、ゆだねること)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 これから起こるかもしれないことが心配になつて、眠れなくなつたことがありますか。
 - 2 あなたには今、思いわずらっていることがありますか。あれば、それはどんなことですか。
 - 3 思いわずらいを神様にゆだねて平安になった経験がありますか。



聖書 マタイ6・9～13
テーマ 天の父

序論

(鎌野)

6月第3日曜は「父の日」である。先週同様、今週もこの記念日との関係から、聖書を学んでいきたい。テキストとして、みなが良く知っている「主の祈り」を取り上げる。特に焦点をあてるのは、△天にいますわれらの父△という呼びかけの部分である。この呼びかけが持つ意義を、3つの方面から考えてみよう。

一、天にいます父

△天にいます△という表現は、マタイ福音書の中で16回も出てきており、いずれも神に関して用いられている(ちなみに、マタイ以外の福音書では、マルコが2回用いるだけである。ルカ福音書の並行箇所では、「父」としか書かれていない)。マタイは、伝統的なユダヤ人として、神が至高の天におられる聖なるお方であることを示したかったのだらう。「神の国」を「天国」と表現しているのも同じ理由からだと思われる。

確かに聖書の示す神は、罪ある人間と隔絶した所におられる聖なるお方であり、この地上にいる父親とは比べることもできないほど偉大である。しかし、もしそれだけなら、人間は神と何の交わりも持つことができない。罪ある人間は、永遠に罪の中にうごめき、最後には滅びるだけだ。神はそれを望まれなかったからこそ、御子イエスをこの地上に遣わされたのである。

二、あわれみ深い父

興味深いことに、旧約聖書において、神を父と表現するところは数箇所あるのだが(申命記32・6、詩篇68・5、103・13、エレミヤ31・9等)、神に対してだれかが直接に「わたしの父」とか「あなたがたの父」と言っている事例は一つもない。ところが福音書を見ると、主イエスは35回も神を「わたしの父」と呼びかけておられる。また聴衆に向かつて、神を「あなたがたの父」と表現された箇所も17回ある。そしてこの「主の祈り」では、神を「われらの父」と呼びかけるように教えておられるのである。

主イエスは、旧約聖書に登場するどんな人物とも根本的に違ってお方だった。聖なる神を「わたしの父」と呼び、このお方と親しい交わりを持たれていた。そしてこのような親しい関係を、罪ある人間でも持つことができることを、ご自分の言葉と行動で示されたのである。

「天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも、雨を降らしてくださる」(5・45)。「あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである」(6・8)。このような言葉は、旧約時代にはだれも言えなかった。神は罪ある人間には無関心なお方ではなく、どんな人間をもあわれんでくださるお方であることを、主は大胆に宣言されたのだ。神は、子どもを愛して育んでいくあわれみある父だからこそ、「天にいますあなたがたの父の子となる」(5・45)ことさえできると、主は言われる。

三、われらの父

だからこそ、私たちは子どもが父親に「お父ちゃん」と言うように、神に呼びかけ、祈り求めることができる。自分だけの父ではない。神を父と認める者たちが一緒に△われらの父△と呼びかけることができるのである。

その祈りの内容がここに記されている。まず、△(あなたの)御名△(あなたの)御国△(あなたの)みこころ△と、神を「あなた」と親しく呼びかけた後に(ギリシャ語原文にはみな、「あなた」がある)、△わたしたちの日この食物△(わたしたちの負債△(わたしたちを試みに会わせないで△と、遠慮なく自分のことを願う求めることができるのだ。

しかし、それは罪なき御子イエスが私たちの罪の身代わりに死んでくださったからにはかならない。これを信じた者に、パウロはこう語りかける。「あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、『アバ、父』と呼ぶ御子の霊を送ってください」(ガラテヤ4・6)。「アバ」とは幼児語で、まさに「父ちゃん」という響きを持つ。私たちは、聖なる神ご自身とそのような親しい関係を持つことができるのである。

結論

「父の日」は、私たちの肉体の親である父に感謝する日である。しかし同時に、「天にいますわれらの父」である神様にも感謝する日としたい。様々な事情で父親のいない子どもには、特にこのことを強調して話そう。私たちの信じる神様は、肉親の父よりもはるかに偉大なお方である。

研究資料

(長田)

父なる神

旧約聖書において、神が天地の創造者、歴史の支配者として啓示されているとすれば、新約聖書、特にキリストは、神を「父なる神」として教えている。

山上の説教においても、「天にいますあなたがたの父」(5・16、45、6・1、7・11)、「あなたがたの天の父」(5・48、6・14、26、32)、「あなたがたの父」(6・8、15)、「天にいますわれらの父」(6・9)、「あなたの父」(6・4、6、18)、「天の父」(5・45)と繰り返し返されている。この背景には、御子として「天にいますわが父」(7・21)と呼ぶことのおできになる、父なる神との特別な関係がある。このことを背景としながら、私たちをも神の子としての立場に招いておられる。

「父なる神」と呼ばれるお方は、①私たちの命の根源であられるお方(エペソ3・15)、②大能なるお方、③愛に満ちたお方(マタイ5・45)であって、そのように呼ばれるにふさわしいお方である。

私たちは、御子を通してこのお方に立ち返ることにより、罪を赦され、神の子とされる(ヨハネ1・12)。神の子とされた者は、聖霊によって神を「アバ、父」とお呼びして、親しく語りかけ、祈ることができるのである(ローマ8・15)。

私たちと神との関係は、果たして父と子との関係となつていようか。

父の日

アメリカのドット夫人が、1910年、「母の日」だけでなく父の日も」と提唱したのが始まり。彼女の母は幼い頃亡くなり、父親が男手一つで男の子5人、女の子1人(ドット夫人)を育て上げたという。

テキスト

9 だから、あなたがたはこう祈りなさい 主イエスが教えられたこの祈りは、「主の祈り」として有名である。祈りにおいて、むやみに言葉数を多くすることの無益を教えられた上で(7・8)、私たちに必要な祈りを凝縮したものとして、この祈りが教えられている。

天にいますわれらの父よ すべての祈りは神への語りかけであるので、通常、神に対する呼びかけの言葉で始まる。主は、この模範的祈りにおいて、「天にいますわれらの父よ」とお呼びするよう勧めておられる。私たちは、子らの必要を知り、子らの祈りに喜んで耳を傾けて下さる父なる神に祈るのである(8節、7・11)。

御名があがられますように 神の御名とは、神のご性質、ご本質であって、神ご自身である。私たちの祈りは、まず神があがめられることを究極の目標としたものであるべきである。

10 御国がきますように 神の国とは、神がご支配される領域のことである。現在、自らの内に、また周囲の人々の中に、神のご支配の領域が拡大されることを求めつつ、やがての時、神のご支配が完全な形で現されることを求める祈りである。

みこころが天で行われるとおりに、地にも行われますように 天は、神の御心がそのまま行われる場所である。そのように、地においても、すなわち、自分自身の内に、自分の周囲に、また、全世界において、神の御心だけが行われるようにとの祈りである。

11 わたしたちの日この食物を、きょうもお与えください 前半三つの祈りが神(神の御名、神の国、神の御心)に焦点を置いたものであったのに対し、後半は、祈る私たちの必要に焦点を置いている。この祈りによって、私たちの肉体的命に必要な食物の一切を備えて下さるお方が、神であることを告白している。私たちは、日々そのことを確認しながら、神に一切の必要を満たしていただくのである。

12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように 「負債」とは、「負い目」(新改訳等)や「罪」とも訳せる言葉。私たちの罪の赦しを祈り求める前提として、私たちが自分に対する人々の罪を赦していなければならない(14、15)。

わたしたちの負債をもゆるしてください 罪を赦していただく事なしに、放置して歩み続けることは、私たちの霊的な命を危険にさらすことである。知って犯した罪、知らずに犯した罪について、日々神に赦しを求めなければならぬ。

13 わたしたちを試みに会わせないで 自分の弱さを正直に告白し、罪の誘惑を免れさせていただくよう求める祈り。

悪しき者からお救いください 誘惑の背後にある悪魔の手からの救いを求める。

聖書 マタイ6・9～13
タイトル お父さん、ありがとう！
中心聖句 天にいますわれらの父よ、
目 標 父の日に、魂の父である神様を思
う。

導入

今日は5月の母の日に続いて、お母さんに感謝するだけでなく、お父さんにも「ありがとう」と感謝する「父の日」です。それと共に、私たちは魂の父である、天の父なる神様のことを思い、心いっぱいの感謝をささげる日としましょう。

今日の聖書の箇所は、読んですぐ気がついた人もいると思いますが、そう、「主の祈り」のところです。イエス様が弟子たちに、お祈りをするときはこのように祈りなさいと教えてくださったお祈りです。神様は私たちの「天のお父様」ですとイエス様が教えてくださっています。イエス様があまりに楽しそうにお祈りして、天の父なる神様とお話ししておられたので、弟子たちは、自分たちもお祈りしたい！という心になって、イエス様に教えてもらったのです。皆さんはお祈りの大好きな子ども？ やったことない？ やってみたい？ どんどんお祈りしてみましようね！

天にいます父

皆さんのお父さんはどんなお父さん？ こわいお

父さん、やさしいお父さん、面白いお父さん、あまり物を言ってくれないお父さん、友だちみたいなお父さん、よく叱るお父さん、普段遠くで暮らしているお父さん、一緒に住んでいないお父さん、もしかしたらもうこの地上にお父さんがいない人もいます。肉親のお父さんは本当にさまざまですが、今日は一緒に「天にいます父」と呼ばれるお父さんのことを考えましょう。

この天の父は、私たちを造ってくださった神様でした。だから、私たちのことを一番よくわかっていてくださる神様です。肉親のお父さんは、時々、「どうして私の気持ちわかってくれないの?！」というようなことだってありますよね。そんなとき、「あつ、そうだ！ 天の父は、今の私の気持ちを全部わかっていてくださる!」と思うととてもうれしくなると、「天のお父様、ありがとう!」と「ごさいます」といってお祈りしてしまいます。天の父は、私のことをいつも愛していてくださいます。なぜなら、私の罪のために、ひとり子イエス様を十字架につけて、身代わりにするほどのことまでしてくださったからです。このイエス様の十字架のおかげで私たちは、「アバ、父よ」と親しく呼びかけて、父なる神様と何でもお話しできるようにしていただいたのです。天の父なる神様は、これまで学んできたように、聖霊によって、いつも私たちと一緒にいてくださいます。世界中、どこへ行っても、どこでも一緒にいてくださいます。肉親のお父さんはそうはいきませんね! だって毎日、お父さんは会社、私は学校ですものね。天にいます父は何て素晴らしいお方でしょう。

われらの父

まことの神様、私たちの魂の父は、実はすべての人の父なので、お祈りするとき、「われらの父よ」とお祈りするのです。神様を魂の父と信じる人たちが心を合わせ、口をそろえて、「われらの父よ」とお祈りができることは何とてうれしいことでしょう。皆さんの中には「ひとりっ子」がいるでしょう? 兄弟姉妹はいたけど、お兄さんお姉さんたちはもうお家を出ちゃって、ボクは今、私は今「ひとりっ子」みたい、とか、他の兄弟姉妹は死んでしまつて、今「ひとりっ子」だよ、という人もいるかもしれませんね。でも、教会に来ると、みんな同じ魂の父を信じている、キリストにある兄弟姉妹なのですね! 教会って、温かく、素晴らしい世界ですね。それは一つの教会だけではなく、全世界に、イエス様の父なる神を信じる兄弟姉妹がいて、「われらの父よ」とお祈りしているのです。そう、神の家族なんですよ! 神様はたったひとりのお父様、天のお父様。イエス様は一番上のお兄さんなんです。うれしいですね。

今までお祈りしてきたお友だちは、ますます、「天のお父様!」とさらにお祈りしましょう。まだお祈りしたことのないお友だちも、今日から、「天にいます、私たちのお父様!」って、さっそくお祈りしてみてください。どんなことでも、何でもお祈りできるのです。楽しいですよ。そして、神様が私たちに与えてくださったっている「お父さん」のためにも祝福をお祈りし、心から感謝を込めて「お父さん、ありがとう!」と言いましよう。

ワーク A

話し方のヒント

世界中のすべてのものも、そして、私たちもお造りになったという素晴らしい神様を「私たちのお父様」とお呼びすることができるとは、なんと感謝なことでしょう。そして、神様はどこか遠くにおられるのではなく、いつも私たちと一緒にいてくださるお方なのですね。イエス様のように、私たちも心を込めて、「天のお父様」とお祈りしましょう。

ワークについて

各自で自分のお父さんへ（または教会の壮年会の方たちへ）のプレゼントを作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 神が天の父であられることを知ることは大切です。そこに神の子とされたことのすばらしさがあります。まだイエス様を信じていない生徒には、ぜひ信じて神の子とされるよう導き（ヨハネ1・12）、すでに信じている生徒には、神の子とされているすばらしさを教えましょう。

●質問3 天のお父さまに何でも祈るよう教えましょう。祈りは、決まった言葉で祈らなければならないという堅苦しいものでなく、自由な楽しい時です。

ワーク C

第2問 「神様」と書きま。

●第3問 神様が父であることの意味を考えます。父であるとは、私が子であり深いつながりの中にあることを示しています。父なる神の手と子の手を線で結びます。

●第4問 私たちのことを大切に思ってくれる天の父なる神様に手紙を書きます。

●天の父は肉親の父をも与えてくださったので、子どもたちがそのことを感謝し、肉親の父にも感謝の言葉を言うことができ、祝福の祈りをする事ができるように、言葉かけをしましょう。

ワーク D

●親子関係がうまくいっていない子ども、様々な事情で父親のいない子どものことを心にとめましょう。彼らには「父なる神」が心にかけておられることを強調すると同時に、もしや虐待を受けている恐れがないか心にかきましょう。1、2の質問で、隠されている子どもの悩みや問題が顔をのぞかせるかも知れません。

●どんな事情の中にあっても、父なる神であるお方は決して変わりません。3の質問を通してそのお方を思い、語り合い、しっかりと心にぎざみましよう。どんなに素敵な父であるか、誇らしさを感じませんか?

中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 イエス様は、8、14、15節で神様のことを何と言っておられますか。（あなたがたの父なる神、あなたがたの天の父、あなたがたの父）
- 2 イエス様は、神様に何と呼びかけるように教えておられますか。（天にいますわれらの父よ）
- 3 前半（9、10節）と後半（11～13節）の違いは何でしょうか。（前半は御名、御国、みこと、つまり神についての祈り、後半は私たちの願い）

考えてみよう

- 1 なぜ神様が私たちの天の父なのでしょう。（答えの例/イエス様を信じる人は、神の子ともとされているから）
- 2 父なる神、天の父という言葉から、どんなイメージがわくでしょうか。（神様の力強さ、私たちが大切に思っておられることなど）
- 3 なぜ「私の父」ではなく、「われらの父」なのでしょう。（みんなで心合わせて祈るため）
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたは主の祈りを毎日祈りますか。
- 2 祈るとき、「天のお父さま」と呼びかけてみませんか。
- 3 自分にひどいことをした人のことを、赦せるようにしてくださいと祈ったことはありますか。
- 4 罪への誘惑から守られるように祈ったことはありますか。



聖書 エレミヤ31・1～6
テーマ 愛の神

序論

(鎌野)
4月から7月までの期題は「愛に生きる」だ。特に6月は、天地を創造された神がどれほど私たち人間を愛してくださっているかを学んでいる。今週のテキストの直後には、**「わたしがイスラエルの父」という句があり(9節、先週との関連も見られる。父なる神は、どのような愛をもって私**たちを愛してくださっているのだろうか。

一、荒野で知る愛

エレミヤが30～31章を書いた時期については、学者の間で意見の相違がみられるが、北王国イスラエルはすでにアッシリヤ帝国に滅ぼされ、南王国ユダにもバビロニア帝国の脅威が迫っていた時代であることは確かであろう。その原因は両国が主なる神から離れたところにあり、彼らは当然の裁きを受けていた。しかし、それでも主はこの両王国の回復を、この2つの章で約束しておられるのである(30・1～3)。だから主は明確に、**「その時わたしはイスラエルの全部族の神となり、彼らはわたしの民となる」と仰せられた。**

アッシリヤ帝国に殺されなかった人々をのがれて生き残った民は、荒野のような厳しい環境に追い込まれた。実際に荒野に逃げ込んだ人々もいただろう。出エジプトの際に経験したような苦難の中で、彼らは自分たちの罪に気づき、それを悔い改めた。そして、モーセがしたように**「人安**

息を求めた」。そのときに、彼らは**「恵みを得た」**のである(出33・13～14)。それは「わたし自身が一緒に行く」という臨在の約束だった。

人間には荒野のような時期が必要だ。そこで自分の罪を自覚し、自分の力のなさを実感するのである。そうしてこそ、はじめて神の愛がわかる。涙の谷をたどった者が喜びの丘に行き着くのだ。

二、限りのない愛

「主は遠くにいつてしまわれた」と思っていた民に、主は、**「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している」と言われた。**民がどれほど不真実であつても、**「わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた」と仰せられた。**それが「父なる神の愛」である。

親子の関係は、決して失われることがない。勘当して籍を抜いたにせよ、血はつながっている。南北両王国が主を信頼せずに歩んできたとしても、主は、彼らを捨てることができないのである。それが**「限りなき愛」**(新改訳では「永遠の愛」、新共同訳では「とこしえの愛」)である。

新約時代の私たちは、霊的な意味でイスラエルの民と言える。たとい私たちが不真実なときがあるとしても、「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」(ヘブル13・5)と約束してくださっている。主イエスが弟子たちを離れて昇天されるときには、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」と仰せられた(マタイ28・20)。荒野のような時期があつても、この愛の神が共におられることを忘れてはならない。

三、回復させる愛

主はエレミヤを召されたとき、「わたしはきょう、あなたを万民の上と、万国の上に立て、あなたに**「あるいは滅ぼし、あるいは倒し、あるいは建て、あるいは植えさせる」と言われた(1・10)。**

彼は本書前半では南北両王国に対する神の裁きを語ってきたが、後半では彼らの回復を預言する。この章の4節以下には、特に北王国の回復が記されている。イスラエルのおとめよ、再びわたしはあなたを建てる。…またあなたはぶどうの木をサマリヤの山に植える。また、北王国の代表であるエフライム族が住む山地には、エルサレム神殿での祝祭を告げる知らせを**「見守る者」**がいて、合図があればすぐに人々に**「人われわれの神、主に、もうでよう」と告げるようになるのだ。**

確かに主は、バビロン捕囚の民を70年後に故国に導き返され、紀元70年のローマ帝国による滅亡の1800年後にも、イスラエル共和国を再建された。しかし、本当の回復は、異邦人の救いが完成した後のことである(ローマ11・25～26)。主は、現代でもイスラエルの悔い改めを待つておられる。

結論

親であつても、CS教師であつても、子どもに対して厳しい面と優しい面との両者を具有することが必要である。悪いことをした場合には厳しく叱り、それを悔い改めるなら赦して迎え入れる。それこそが本当の愛である。私たちも、主の愛を受け入れ、どんな小さな罪でも示されたならすぐに悔い改めよう。主の愛に生きていこう。

研究資料

(長田)

神の愛

旧新約聖書を通して、神のご性質として最大のものとして記されているのは、その**「愛である」**。「神は愛である」(1ヨハネ4・8)と言われるように、神は愛以外ではありえないお方、愛そのもののお方である。

その愛は、その広さ、長さ、高さ、深さにおいて、私たちの思いをはるかに超えている(エペソ3・18、19)。すなわち、世界中のすべての人を包み込むほど広く(マタイ5・45)、永遠に変わらないほど長く(エレミヤ31・3)、罪人を天の高いところに携え上げて下さるほど高く(エペソ1・4、6)、どんな孤独の中にある人々、罪のどん底にある人々にも届くほど深い(マタイ9・13、ルカ19・9)。

この神の愛は、旧約聖書においては、特に、かたくななイスラエルの民を忍耐深く導かれるお姿に表され(ホセア3・1、11・4)、新約聖書においては、罪人なる私たちを救うために尊いひとり子を十字架につけて下さった事実を表されている(ヨハネ3・16、1ヨハネ4・9、10)。

テキスト

1 その時 30章で語られているイスラエル回復の時。
イスラエル全部族の神となり、彼らはわたしの民となる この約束は、部分的にはバビロン捕囚か

らの帰還等によって成就されたようにも見えるが、完全な意味では、新約聖書に預言されているような終末におけるイスラエル民族の回復によって成就されるものであろう(ローマ11・25、26、黙示録7・4～8)。しかし、神の御救いは、もちろん全民族に及ぶものであつて、黙示録21・3では、同じ表現が全民族を含む新しいエルサレム(教会)について用いられている。

「つるぎをのがれて生き残った民は、荒野で恵みを得た」この言葉の背後には、出エジプト後に荒野において神の恵みを経験したイスラエルの歴史がある。バビロン捕囚後のユダの民も、荒野を行くような日々の中で、悔い改めに導かれ(ネヘミヤ1・2～6)、回復の恵みへと導かれていく。

「イスラエルが安息を求めた時」この言葉の背後にも、荒野の旅において安息の約束が与えられたイスラエルの歴史があるであろう(出エジプト33・14)。自らの罪ゆえに裁きを受ける中にも、悔い改めをもって安息を求めるなら、神はあわれみをもつて近づいて下さる(マタイ11・28、IIコリント5・18～20)。

3 主は遠くから彼に現れた 捕囚によって遠く異国に追いやられた民も、神は見捨てられないでご自身を現される。放蕩息子が、みじめな状況の中で我にかえり、父のもとに帰る決断をして家に近づいたとき、「まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思つて走り寄り、接吻した」(ルカ15・20)とあるように、神はご自分から遠く離れてしまった子らを決して忘れることなく愛し続けておられる。彼らがひとたび父を思い出し、神

に心を向け始めるなら、すぐさまご自身を示される。

「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している」「限りなき愛」は、新改訳では「永遠の愛」、新共同訳では「とこしえの愛」と訳されている。神の永遠に変わることのない愛、限りなく続く愛を表している。

「それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた」「真実」(新改訳では「誠実」、新共同訳では「慈しみ」と訳されている「ヘセド」は、「いづくしみ」(詩篇107・1等)、「恵み」(出エジプト15・13等)とも訳され、神の愛の重要な側面を表す言葉である。すなわち、相手の不誠実、不真実に出会つても、変わることなく愛し続け、誠実にあり続けようとする愛であつて(IIテモテ2・13)、神の愛の不変性を表している。神に対して繰り返し不誠実であつたイスラエルの民に対し、神は常に真実を尽くしてこられたのである。

4 イスラエルのおとめよ、再びわたしはあなたを建てる 神の変わらない愛は、崩れ落ちたものを再び建てようとする回復のみわざとなつて表れる。

あなたは再び鼓をもって身を飾り、出て行って、喜び楽しむ者と共に踊る 喜びの回復。

5 ぶどうの木をサマリヤの山に植える。植える者は、植えてその実を食べることができる。収穫の回復。

6 呼ばわる日が来る。』立って、シオンに上り、われわれの神、主に、もうでよう』 礼拝の回復。

聖書 エレミヤ31・1〜6
タイトル 神様の愛、いつまで
中心聖句 わたしは限りなき愛
目 標 たを愛している。エ
神様の愛は永遠・無
る。

も最

6月も最後の日曜日になりました。4月から7月まで「愛に生きる」という期題なのですが、6月は美しい天と地を造られた神様の大きく、広く、高い愛を学んでいます。梅雨が明けると、夏が来て真つ青な空が広がります。神様の愛に感動して、たくさんの方の賛美歌やコーラスが作られています。その中の一つにこんな歌があります。「主の愛を書こうとすると、大空を紙にして、木の枝を筆にして書いていてもまだまだ紙は足りないほど！」神様の愛は無限だ！と感嘆しているのです。また、イギリスの子どもたちのコーラスにはこのようなものがあります。「神の愛は大きな輪！どこまでも続き、終りが無い。主イエスの愛はいついつまでも、続く愛です。私のために」。本当にそうです。神様の愛は大きな大きな輪、そう、金の輪のようです。どこまでいっても終ることはありません。こんな神様の愛で、あなたは愛されているのです。

人の愛は

学校でとても仲の良いお友だちができると本当

にうれしいですね。あまりにうれしくて、二人で固く固く指切りげんまん／＼ずっと、ずーっとお友だちでいようね！と。ところが、高校を出て、大学に行ったり、就職したりして、あれ、あの子、今一体どこでどうしているのかな？ということもあり得ます。人の愛はいつか終りがきて、限界のあることがわかります。残念なのですが、距離的に離れてしまわなくても、心が離れ離れになってしまうという悲しいこともあり得ます。

イスラエルの人々の心が、実はそうだったのです。神様に特別に選ばれた人々、イスラエルの民なのに、ソロモン王様の次の王様、レハバム王様の時から北と南の二つの国に分かれてしまいました。エレミヤさんが預言をしていたころは、北のイスラエル王国はアッシリヤによつて滅ぼされてしまっていました。彼らの心がまことの神様から離れてしまい、偶像を拝んだりしていたのです。イエス様が地上に來られたときよりも7百年くらい前のことです。北のイスラエル王国がそんな厳しい目にあつたのに、南のユダ王国も注意するまですぐなく、同じようにその心が神様から離れてしまっていました。エレミヤさんは神様からのみ告げを受けて、「ユダの国も北イスラエル王国のように滅ぼされてしまうぞ」と預言をしました。その厳しい預言の中で、エレミヤさんは神様の愛がどんなに広く、深く、真実なのかということを、きょうの聖書の箇所です語っているのです。

神の愛は

「主は遠くから彼に現れた」(3)とあります。民は、自分たちはもう神様から遠く遠く離れてし

ワーク

●話し方のヒント

今月も、神様がどんなにすばらしいお方なのかというお話を聞いてきました。真の神様は、何でもお出来になりますね。そして、何よりも大切なのは、神様は私たちを愛してくださっているという事です。この愛は、イエス様の十字架を思うとよくわかります。これこそ、神様がいつまでも変わることなく私たちを愛してくださっているのです。

ワーク

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 神の「限りなき愛」とは、どのようなものか「その広さ、高さ、長さ、深さ」（エペソ3:18、19）を教えましょう（研究資料参照）。

●質問3 自分が神様に愛されていると答えられない生徒、また、愛されていると答えた人も、愛される理由は、自分の側の功績によるのではなく、神の無条件の愛、限りなき愛によることを教えましょう。罪のゆえに、神に愛されていないと思っている生徒には、悔い改め、赦しの恵みに導いてあげましょう（1ヨハネ1:9）。

ワーク

●第2問 人間の

●第2問 人間の限りある愛と、神様の限りない愛の姿を考えてみます。神様の愛を持っている人はひとりもないことに気づくでしょう。神様の愛は本当にすばらしく、感謝な事です。

●第3問 私（あなた、子どもたちひとりひとり）の名です。愛されていることを知って、どんな気持ちか聞いてください。

●第4問 神様への感謝と、私を愛する神様への
 応募として、「神様大好き」と余白全部に書きまし
 よう。それでも足りないくらいですね。

ワーク

●1・5の質問に順を追って答えていきましょう。
どんなに不真実な者であっても、絶えず誠実と真実をもって愛してくださる神様のみ声に耳を傾けることができますように。

まっていますと思いこんでいました。しかし、そこに遠くから彼に現れたのが神様でした！そして、「わたしは限りなき愛をもってあなたを愛している。それゆえ、わたしは絶えずあなたに真実をつくしてきた」。人の心はころころと変わったり、不真実な心になりやすいです。しかし、神様はアーメンの神様で、その意味は真実という意味です。絶対に変わらない真実の愛で愛し続けていてくださるのです。心が揺さぶられるほど、うれしいですわ。

そんな神様からの愛の言葉をエレミヤさんの口を通して聞きながらも、南ユダ王国もまた神様にそむいて、厳しい厳しい刑罰を受けることになってしまいました。それがバビロン捕囚というできごとです。遠くバビロンの地へみんな連れ去られて、70年という長い間、悲しい思いをしたのです。しかし、真実な神様は約束どおりきつちりと70年たった時、クロス王の命令により民をなつかしい祖国へと導かれました。ところが、そんな火の試練の中をくぐったのに、なお民の心は神様から離れ、やがて4百年の暗黒時代、その後は？「救い主イエス様の誕生！」そして、十字架でした。十字架、これこそ、神の永遠、無限の愛のしるしです。一回きりで、全人類のための救いのみわざを完成！そのみわざは神の愛によるもので、救いの門は永遠に開かれています。私と共に神様の愛はいつまでも！ハレルヤ！今年もあと半年、これまで守られたことを感謝し、永遠不変、無限の神様の愛にこの年の後半もより頼みましょう。

中高科へのヒント

● 観察してみよう

1 荒野で神様は何をしてくださるのでしょうか。
（恵みを得させてくださる／2節。ご自分の限りない愛を示してくださる／3節）

2 神様はあなたをどのように愛しておられると書いてありますか。(限りなき愛をもつて)

3 さらに神様は何をしてくださっていますか。(絶えず真実をつくしておられる／3節)

● 考えてみよう

1 2 節の「荒野」とはどういう所でしようか。（答
えの例／緑や水のない荒れ果てた土地）

2 この「荒野」は心の状態を意味していますが、それはどんなものでしょうか。（罪を犯した自分がいやになっている状態。悩みが深くて平安のない状態など）

3 「荒野」にいる人を神様はどのように扱われるのでしょうか。（変わることはない十字架の愛を示してください）

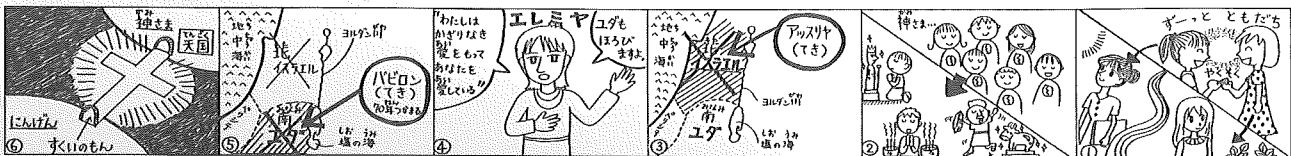
●自分に当てはめてみよう

1 神様に罪をおわびし、イエス様の十字架によって赦していただいたという体験がありますか。

2 あなたはこれまで、神様に対して真実だったでしょうか。

3 あなたに対する神様の愛には、これまで変化があったでしょうか。

4 今、神様の限らない愛が分かりますか。



牧羊ひろば

ゲーム紹介 広島栄光教会
※ 1、ゲームを始める前に。
(担当者が必ず気をつけるべきこと)
もし30分間、ゲームの時間がある場合、普通2〜3のゲームで十分だと思いますが、大きな間違いです。本当にゲームという企画を成功させ、子どもたちに存分に楽しんでもらいたい、楽しかったという記憶を残してもらいたい、その倍の4〜6のゲームを用意しておき、ゲームを始めます。何分経ったから終わりではなく、子どもたちが最高に盛り上がり、上がった時に終わり、次のゲームを始めます。これも子どもたちのテンションを観察して、一番面白く楽しいと思っている時に終了します。反対に盛り上がりがない時は、他に興味を持ったり、ゲームとは関係のないおしゃべりをする前に終わります。そして、次のゲームを始め、与えられた時間をフルに楽しんでください。

I、Picturestory (ピクチャーストーリー)

4〜6人1チームで、3チーム以上です。
(用意するもの) ①問題用リスト(司会者用) ②メモ用紙(問題数×チーム枚数) ③鉛筆(やり方)
1、司会者は問題のリストを前もって考えておく(リストの作成)。リストに名刺を沢山書いておく。例、しゃもじ、ソファ、電車・注射etc
2、各チームから1人出てきてもらい、問題のリストから1つだけを出て来た人に見せます。
(注) 問題が答えなので話さないように注意する。見たらすぐにチームの場所に帰る。
3、用意スタートで各チーム代表は一言に問題の

絵を書き始める。(注) 絵の中に字や数字、マークは使わない。
4、絵を見たチームメイトが大きな声で答えを次々と言っていく。1番早く答えを言った子どものチームが勝ち。勝ったチームは、絵を書いた紙に○印を、負けたチームは×印を入れる。
5、ゲームの問題がすべて終了したところで、チームごとに○印の数を数える。多いチームの勝ち。
(注) 絵を書く子供はチームで順番にまわる。
(注) 司会者は次の問題の答えを見せないように。

II、口ばく伝言ゲーム

1チーム3人〜で3チーム以上です。
(用意するもの) ①マーカー ②落書き帳またはホワイトボードをチーム数。
(やり方)
1、司会者は問題を書いたカードを各チーム代表のAさんに見せる。
2、Aさんは各チームに帰り、Bさんにその言葉を口ばく(声を出さないこと)で伝える。
3、何秒かで時間を切って、今度はBさんがチームメイトのCさんに口ばくで伝える。
4、今度はCさんが同様にチームメイトのDさんに伝え、Dさんは、その答えをボードに書く。
5、各チーム一斉にボードを見せ合う。そこで司会者と代表だったAさん達が一緒に答えを言う。(問題の例) はと・そら・ゆず・さる・ばら・あし・かわ・つき・バス・つる・さしみ・とんぼ・キムチ・はさみ・こども・プール・ふとんetc.
III、色おに(外で)
1、オニを決める。オニは何色でも1色を決めて

V、古今東西

10人前後で。用意するものなし。円になって座る。
1、司会者がまず題を決める。(何でも良い) 例、「赤いもの」
2、リズムを覚える。!!「○○」!!「○○」!!(手拍子)!!のところはパンパンと手拍子をする。
3、じゃんけんで順番を決めてスタート。「○○」に自分で考えた言葉を入れる。
(例)!!「ポスト」!!「りんご」!!「血」!!「消防車」!!「バラ」!!:
(注) リズムから遅れたり、同じ物が2回出たりすると負け。題は、子供達に簡単な動物、果物など。仲良しグループだと○○ちゃんの部屋の物等。
VI、□□ちゃん、○×クイズ
多人数OK。用意する物なし。
1、□□ちゃんに前に出て来ていた、だいて簡単に自己紹介をしていただきます。
2、司会者が質問をする。(例)「□□ちゃんは、お肉よりお魚が好き」
(注) □□ちゃんは、会場のみんなが答えるまで答えを言わない。
3、会場みんなは、手で大きく○、または×を出す。
4、全員○か×を出しているのを確認し、司会者は「□□ちゃん答えてどうぞ!」と言う。
5、□□ちゃんは手で大きく○か×を作り答える。
6、正解者だけ立たせ、間違った人は座らせる。
7、司会者は第2問と続け、最後まで残った人の優勝。(正解者だけが第2問にすすむ)
(注) 司会者は質問をいくつか考えておくこと。

VII、好きな物ビンゴゲーム

準備・司会者は、事前に□□ちゃんに好きな食べ物(果物)を聞いておきます。(15個以上)
(他の人に知られないようにメモをする)
1、全員(3×3マス)のプラנק用紙を配る。
2、紙をもらった人は□□ちゃんの好きな物(果物)を予想して、プラנקのマスに書きこむ(9マス全部)
3、全員書き終わったら、ゲームスタート。
4、司会者が事前に調べておいた□□ちゃんの好きな果物を順番に読み上げる。
5、会場の人は、読まれた果物と同じ果物を書いていけば、○印で囲む。
6、縦、横、斜めに1列○印がつけばビンゴ。
(注) 好きな果物の他に、動物、おやつ、聖書の人物、行きたい国など、いろんなバージョンでやってみて下さい。



ゲーム大会
子どもゲーム
のついでに
お父さんお母さん
も参加してください



色を伝える。
2、みんなは、その色の物を探して触れる。(注) 手で触つていないとダメ。
3、その色にさわる前にオニにタッチされたら、その子が次のオニになる。オニ交代。
(注) はじめるにあたって、オニとその他の子供達の距離をあまりあけないように。
IV、おーちたおちた ナニガオチタ?
多人数で。司会者1人。用意する物なし。
(やり方)
1、おちる物を覚える。(クリスマスバージョン・雪・片手を前上方に差し出して雪をうける動作をする。
・サンタクロース・両手をパーに広げて耳の横にくっつける。
・トナカイ・両手を頭上で広げてトナカイの角をつける。
・星・空を指差す。
・プレゼント・両手を前に出して、「下さい」のポーズをする。
・その他のものの時は、地面を指差す。
2、(司会者)「おーちたおちた」と言う。
(会場みんな)「ナニガオチタ」と言う。
(司会者)「雪」(と言いながら、違うポーズをする)
(会場みんな)「(正しく雪のポーズをする)司会者につられて間違ったポーズをした人は負け。座る。
(注) 司会者は、違うポーズをしなければならぬので練習が必要。

編集後記

『牧羊者』二〇〇四年度第一巻をお届けできますことを感謝します。執筆の方々は忙しい中、多大なご協力をいただきました。執筆者の皆様、子ども達、多大なご協力をお願いいたします。
今巻より、子ども聖書日課が新設され、子どもと教師の間に広く用いられ、子どもが育まれ、教師との交わりが深められることを願っています。
巻頭言と牧羊ひろばも復活し、読者の皆様との交流が広がることを期待しています。子ども達に、より分かりやすい説教を準備するための手助けになれば、フラッシュカードの絵を本紙に挿入しました。また、北大阪教会の寺西永次兄のご好意により、裏表紙の絵を新しくさせていただきました。本紙はアンケートの結果、今まで通りのA4サイズとなりました。ご協力を感謝いたします。引き続き皆様のお祈りを宜しくお願いいたします。終わりに今号の執筆者を紹介いたします。

聖書講解 鎌野 善三 金井 望
研究資料 足立 宏 長田 栄一
メッセージ 小野 淳子
ワーク 飯田 牧子 小平 徳行
中 高 科 長尾 秀紀 上森 恭子
フラッシュカード 石田 高保
み言葉カード 土屋 直子
子ども聖書日課 陰山 恭子
小野 淳子
また、編集を手伝ってくださった鎌野善三師、光田隆代師、森明子師、本部事務所の仁科真人師、鎌野幸師と柴田修兄、印刷会社あくとの本田慈郎兄に、心から感謝します。

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇四年度 一巻
二〇〇四年三月十五日発行
発行者 岩田扶美二
神戸市兵庫区塚本通三三三一九
日本イエス・キリスト教団出版局
電話(〇七八)五七五・五五一
FAX(〇七八)五七五・六六一
日本イエス・キリスト教団教会学校局
印刷所 有限会社 あくと
電話(〇二九七)七八一五九三五
*日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み